

法律實例

禁電子式複写

264  
975

036587-000-5

CZ-2472-04

法律實例

生島 繁 / 著

M44

BBR-0762



特15  
786



法

律

實例

明治  
44. 5. 9  
丙寅

CZ  
2472  
04

### 凡例

一本書ハ運送ニ關スル大審院民事部ノ判決ヲ輯録ス  
一本書ノ體裁ハ二卷トシ其輯録ノ順序ハ

第一卷 (明治三十年ヨリ  
明治三十七年マテ)

第二卷 (明治三十八年ヨリ  
明治四十三年マテ)

一件名ノ次ニ判決ノ要旨ヲ摘録ス事件異ナルモ其判旨同一ナルモノ  
ハ前例ヲ參照シテ特ニ重録セズ

一上告ノ論點ト判決ノ説明トノ間ニ〇ヲ施シ區劃ヲ明ニシ亦タ判決  
要旨ニ適合スヘキ説明ニハ、、、、ヲ施シ閱覽ニ便ス

凡例

目次

明治三十一年十二月二十二日第二部民事判決

(二頁)

一特別擔保義務履行請求ノ件

共同申事馬合資會社法律上代理人

上告人 中澤興左右門

訴訟代理人

丸山名政  
野口本之助

被上告人 倉島庄三郎

明治三十二年一月十二日第一民事部判決

(一〇頁)

一貸金請求ノ件

上告人 米谷半平

訴訟代理人

高橋捨六

被上告人 富澤喜兵衛

訴訟代理人

岡崎正也

明治三十二年二月八日第二民事部判決

(二三頁)

一積荷損害要償ノ件

伊藤瀧船株式會社法律上代理人

上告人 宮内惣右衛門

訴訟代理人

九岡東治

目次

被上告人 山中友七

明治三十二年二月十八日第一民事部判決

一 藍葉引渡請求ノ件

上告人 新井太右衛門

被上告人 須永半五郎

訴訟代理人 吉田 珍雄

(一七頁)

明治三十二年五月二十七日第一民事部判決

一 敷駄金請求ノ件

上告人 内田吉五郎

被上告人 羽田五郎

訴訟代理人 村 上 浩

(二一頁)

明治三十三年四月十日第一民事部判決

一 損害要償ノ件

日本精米株式会社法律上代理人

上告人 木谷吉次郎

被上告人 南 助 吉

訴訟代理人 後藤亮之助  
訴訟代理人 林龍太郎  
訴訟代理人 平田稷衛

(二五頁)

明治三十三年十一月七日第二民事部判決

一 貨物運輸決算報告請求ノ件

上告人 初見三郎

法定代理人 初見タメ

被上告人 小堀源九郎

訴訟代理人 長谷川吉次

(三〇頁)

明治三十三年十二月十三日第一民事部判決

一 荷物損害賠償請求ノ件

上告人 玉置金三郎

被上告人 小西藤楠

訴訟代理人 岸本辰雄  
訴訟代理人 小島重太郎

(三四頁)

明治三十四年七月九日第一民事部判決

一 運賃金請求ノ件

上告人 工藤長年

訴訟代理人 湊 砵 告

(四一頁)

外二名

目次

三

被告 春木安右衛門

訴訟代理人

宮田 四八

明治三十四年十二月二十一日第一民事部判決

一辨濟金請求ノ件

共同申牛馬合名會社法定代理人

原告 中澤 興左衛門

訴訟代理人

丸山 名政

被告 戶塚 平吉

外一名

明治三十四年五月三十日第一民事部判決

一玄米引渡請求ノ件

元加能瀨船株式會社代表者

原告 林 直

訴訟代理人

米田 直作

被告 木佐德五郎

株式會社平田銀行代表者

明治三十四年五月七日聯合民事部判決

一損害要償ノ件

(六〇頁)

原告 廣海二三郎

訴訟代理人

長島 鷲太郎

被告 島谷德三郎

長崎委託株式會社法定代理人

訴訟代理人

大鐘 彦八市

外一名

明治三十五年二月十九日第二民事部判決

一損害要償ノ件

原告 南 助吉

訴訟代理人

岡崎 正也

被告 木谷吉次郎

日本精米株式會社

訴訟代理人

岸 龍太郎

明治三十五年四月十一日第二民事部判決

一損害金請求ノ件

原告 山中傳四郎

訴訟代理人

中村 先嘉

被告 西川伊三郎

明治三十六年一月二十二日第一民事部判決

目次

五

(八六頁)

四

一貨金請求(本訴)並損害賠償請求(反訴)ノ件

内國通運株式會社法定代理人

上告人 吉村甚兵衛

訴訟代理人 岡崎正也

被上告人 土田春永

外一名

明治三十六年一月二十八日第二民事部判決

一損害要償ノ件

帝國中牛馬會社法定代理人

上告人 小山五左衛門

訴訟代理人 湊 硯 吾

共同中牛馬會社法定代理人

被上告人 中澤與左衛門

訴訟代理人 田澤鎮太郎

明治三十六年二月五日第一民事部判決

一物品引渡請求ノ件

上告人 大竹房太郎

訴訟代理人 鈴木 一

外一名

(九七頁)

被上告人 須江吉六

明治三十六年二月二十五日第二民事部判決

一損害要償ノ件

東京海上保險株式會社代表者

上告人 末延道成

訴訟代理人 岡村輝彦

被上告人 梶原伊之助

訴訟代理人 田中與之助

明治三十六年三月三十一日第一民事部判決

一船舶債權請求ノ件

上告人 ドツドツエル、コンパニー、リミツテツド

代表者 ショウジサイムタムソン

訴訟代理人 岸 清 一

被上告人 野田正教

訴訟代理人 小出鋤太郎

明治三十六年六月十三日第一民事部判決

一荷爲替附從契約履行請求ノ件

目次

(一一〇頁)

七

六

上告人 五十嵐彦作 訴訟代理人 井本常治  
被上告人 株式会社藤野銀行法定代理人 長谷川誠三

明治三十六年七月二日第一民事部判決 (一一九頁)

一損害賠償ノ件

上告人 石橋利吉 訴訟代理人 近藤孝吉  
被上告人 松本守太郎

明治三十六年七月七日第一民事部判決 (一二六頁)

一貨物賃納金ニ對スル割戻請求ノ件

上告人 新神合資會社清算人 小野猪三郎 訴訟代理人 篠田治策  
鐵道作業局官長 横田千之助

被上告人 古市公威 訴訟代理人 岸清一

明治三十七年一月十六日第一民事部判決 (一三四頁)

一運送賃請求ノ件

上告人 シー、エタル、エンド、コンパニー合資會社清算人 ペー、ハーゲン 訴訟代理人 増島六一郎

被上告人 合資會社港菜商會代表者 鶴田甚太郎 訴訟代理人 松本織五郎

明治三十七年二月十二日第二民事部判決 (一四七頁)

一損害賠償請求ノ件

上告人 久保勇 訴訟代理人 岡崎正也  
被上告人 八木仁吉 外一名

明治三十七年三月十一日第二民事部判決 (一五二頁)

一損害賠償請求ノ件

上告人 南海製茶株式會社清算人 宇川利邦 訴訟代理人 指田義雄  
被上告人 長澤數三 外二名 訴訟代理人 花岡敏夫



明治三十七年四月四日第二民事部判決

(一五七頁)

一損害賠償請求ノ件

内國通運株式會社代表者

上告人 吉村甚兵衛

訴訟代理人 岡崎正也

上告人 吉川新藏

親權者 吉川ヒロ

訴訟代理人 佐々木茂三郎

被上告人 鈴木末藏

明治三十七年五月十三日第二民事部判決

(一七五頁)

一荷物延着損害賠償請求ノ件

上告人 平沼熊太郎

内國通運株式會社法律上代理人

被上告人 佐久間精一

訴訟代理人 岡崎正也

明治三十七年五月二十七日第二民事部判決

(一七九頁)

一損害金請求ノ件

三條運送會社清算人

上告人 高野久吉

訴訟代理人 今村力三郎

株式會社安通社法定代理人

被上告人 小出喜七郎

訴訟代理人 山口憲

明治三十七年五月二十八日民事聯合部判決

(一八三頁)

一商事損害賠償金請求ノ件

上告人 遠藏半七

訴訟代理人 熊谷操

被上告人 石川主一郎

訴訟代理人 中村兵之助

明治三十七年六月十四日第一民事部判決

(一九一頁)

一荷爲替換殘金及附帶費用請求ノ件

住友銀行住友吉左衛門支配人

上告人 田邊貞吉

訴訟代理人 原嘉道

日次

二

被上告人 長谷川 種次郎  
外一名

訴訟代理人

〔平岡萬次郎  
下部喜太郎

二二

目次

特別擔保義務履行請求ノ件(明治三十一年十二月二十二日第三百號  
同三十二年十二月二十二日第二民事部判決)

○判決要旨

一 商會社ト雖モ民法上ノ行爲ニ付權利義務ノ主體ト爲ルコトヲ得

一 主タル債務者カ辨濟期日ニ其債務ヲ履行セサルニ於テハ其資力ノ有無ニ拘ハラズ保  
證人ヨリ直チニ辨濟スヘシトノ保證契約ハ有效ナリトス

第一審 東京地方裁判所

第二審 東京控訴院

共同中牛馬合資會社法律上代理人

上告人

中澤 興 左衛門

訴訟代理人

〔丸山 名政  
野口 本之助

被上告人

倉島 庄三郎

右當事者間ノ特別擔保義務履行請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十一年五月二十日言  
渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

特別擔保義務履行請求ノ件

一

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第一點ハ法人ハ法律上擬制ニ因ル權利ノ主體ナルヲ以テ其目的ノ範圍内ニ於テノ  
 ミ人ニ均シキ效力ヲ有ス其目的以外ニ於テハ法律ノ假定ナリ全ク人格ナキナリ故ニ法  
 人ハ法律ノ規定ニ從ヒ制限的ニ權利ヲ有スルニ過キス上告會社ハ貨物ノ運搬ヲ營業ト  
 セルヲ以テ營業目的ノ範圍内ニ於テノミ人格ヲ有ス然ルニ原院ハ法人タル會社ハ民法  
 上ノ行爲ニ付權利義務ノ主體ト爲リ得ヘキハ勿論ナルヲ以テ本件ノ保證契約カ控訴會  
 社ノ目的トセル營業ニ屬セストノ理由ニ依リテ無効ニ歸スヘキ謂ハレナシト説明セラ  
 レタルハ法人ノ性質ヲ誤解シ人格ノ範圍ヲ超ヘテ尙ホ法人アリト爲ス不法ノ判決ナリ  
 トス從テ控訴會社ハ保證義務ヲ負擔シ辯論期日ニ支拂ヲ爲サ、ルヘカラスト説明セラ  
 レタルハ總テ法則ヲ不當ニ適用シタル違法ノ裁判ナリト云フニ在リ  
 依テ按スルニ商事會社ハ其會社契約ニ規定シタル營業ノ外濫リニ他ノ營業ヲ爲スヲ得  
 サルハ勿論ナリト雖モ其營業ニ屬スル行爲ノ外何等ノ法律行爲ヲ爲スヲ得ストノ法  
 規ナキノミナラス又其條理アルナシ何トナレハ商事會社ニ對シ其營業ニ屬セサル民法

上ノ法律行爲ヲ爲スコトヲ禁止スルニ於テハ其商業ニ屬スル業務ヲモ完全ニ營ムコト  
 能ハサルニ至ラシムレハナリ是レヲ以テ商事會社カ單ニ民法上ノ法律行爲即チ其營業  
 ニ屬セサル保證契約ヲ爲スモ之レヲ無効ナリト云フヲ得ス要スルニ原院ニ於テ法人タ  
 ル會社ハ民法上ノ行爲ニ付權利義務ノ主體トナリ得ヘキハ勿論ナルヲ以テ本件ノ保證  
 契約カ控訴(上告)會社ノ目的トセル營業ニ屬セストノ理由ニ依リ無効ニ歸スヘキ理ナ  
 シト判定シタルハ結局其當ヲ得タルモノニシテ上告論旨ノ如キ不法アル裁判ニアラス  
 其第二點ハ抑モ手形ハ金錢ノ支拂ニ替ルヘキ指圖債權ナレハ手形其物ハ一ノ有價物ト  
 シテ賣買(即チ裏書讓渡)質入ニ爲シ得ヘキコト恰モ指名債權株式又ハ社債ト異ル所ナ  
 シ故ニ今手形ヲ擔保ニ供シタル場合ニハ物上擔保ヲ供シタルモノニシテ保證債務ヲ約  
 シタルニ非ス本件甲第一號證ノ約束手形ヲ振出シタル上告人ト之ヲ受取リタル被上告  
 人間ニ於テハ如何ナル權利關係アリヤト云フニ甲第三號證ノ明文ニ照ラスモ其間權利  
 質ノ關係ヲ生シタルニ過キス原裁判所ハ上告人ト被告人間ニ於テハ千五百圓ノ特別保  
 證債務ヲ約シ其結果甲第一號證ノ約束手形ヲ振出シタルモノナレハ此手形無効トナル  
 モ保證債務ハ依頼存在スル旨判決セラレタリト雖モ之レ手形ノ性質及質ト保證債務ト  
 ノ區別ヲ誤リ不當ニ事實ヲ確定シタルモノナリ若シ原裁判所ノ如ク認定スルヲ以テ法

特別擔保義務履行請求ノ件

理ニ適セリトセハ不動産又ハ記名株券ヲ他ニ貸與シテ質ニ入レシメタルモノハ常ニ特別保證債務ヲ負フノ結果ニ陥ルヘシ之ヲ要スルニ本件ノ如ク手形ヲ擔保ニ供シタル場合ハ民法第三百六十二條以下ノ權利質ノ場合ト看做スヘキモノニシテ特別ノ合意ナキ以上ハ保證債務ヲ約シタリト認ムヘカラサル筋合ナリ而シテ其擔保物タル手形カ無効ニ歸シタルハ恰モ質物タル株券又ハ地所カ滅盡シタルト同一ニ歸スルノ外ナク上告人ハ特ニ保證債務ヲ負フノ責ナキモノナリ以上ノ理由ニ依リ原裁判ハ手形ノ法則ニ背キ質ト保證債務トノ區別ヲ誤リ不當ニ事實ヲ確定シタル裁判ナリト思料スト云フニ在リ

依テ原判文ヲ閱スルニ前略該證(即チ甲第三號證)ニ明示セル如ク甲第二號證ノ金五千圓ノ金千五百圓ハ控訴(上告)會社之ヲ擔保シタル債務額ヲ甲第一號證ノ約束手形ト爲シテ之ヲ被控訴人(上告人)ニ交付シ主タル債務者ニ於テ辨濟期日ニ辨濟ヲ爲サハルトキハ控訴會社ハ其支拂ヲ爲スヘキ保證義務ヲ特ニ約諾シタルモノト認ムルニ充分ナリトストアリテ原院ハ其職權ヲ以テ上告會社ハ主タル債務者カ辨濟期日ニ甲第二號證ノ金五千圓ヲ辨濟セサルニ於テハ右五千圓ノ内千五百圓ヲ直ニ支拂フコトヲ特約シ之レカ履行ヲ確實ナラシムル爲メ甲第一號證金千五百圓ノ約束手形ヲ被上告人ニ交付シタ

ル事實ナリト認定シタルコト明晰タリ然ルニ本上告論旨ハ上告人カ甲第一號證約束手形ヲ被上告人ニ交付セシハ金千五百圓ノ債務ニ對シ單ニ甲一號證ヲ貸渡シ權利質ヲ設定シタルモノニ過キストシ以テ原判決ヲ攻撃非難スルモノナレハ原判文ノ趣旨ニ副ハサル論旨ニシテ固ヨリ上告理由トナスニ足ラス

第三點ハ上告人カ「主タル債務者戸塚平吉等ハ無資力者ニ非ス第二債務者タル控訴人(上告人)ノ義務未タ發生セス」トノ抗辨ニ對シ原院ハ「控訴人ハ保證義務ヲ確保スル爲メニ特ニ約束手形ヲ被控訴人ニ交付シタル事實並甲第三號證ニ主タル債務者戸塚平吉等辨濟期日ヲ怠リタル時ハ直ニ手形面ノ金額ヲ支拂フ旨明記シアル所ニ因リテ見レハ本件ノ保證契約ハ普通ノ保證契約ト異ナリ主タル債務者ニ於テ辨濟期日ニ支拂ヲ爲サハル時ハ其資力ノ有無ニ拘ハラズ保證人タル控訴人ハ其保證セル債務額千五百圓ヲ直ニ被控訴人ニ支拂フ事ヲ特約シタルモノト認ムニ充分ナルヲ以テ」云々ト説明セラレタリト雖モ民法ノ規定ニ依レハ保證債務ハ一般ニ主タル債務者ニ對シ請求ヲナシタルモ主タル債務者之ニ應セサルトキニ始テ保證人ニ對シ保證債務ノ履行ヲ求ムルコトヲ得ヘキモノナルニ債權者タル被上告人ハ此等ノ手續ヲ踏ス直ニ保證人ニ債務ノ履行ヲ求メタルハ不法タルヲ免レス主タル債務者ニ請求ヲナサスシテ保證人ニ向ヒ直チニ

債務ノ履行ヲ求ムル場合ハ保證人カ主タル債務者ト連帶シテ負フタルトキニ限り(民法第四百五十四條)其他ノ場合ハ普通ノ保證債務ト見做サ、ル可カラス之レヲ要スルニ特別ノ保證債務ナルモノハ民法上認メラレサル事項タルニ拘ハラス上告人ニ特別保證義務アリト認定セラレタルハ法則ニ背キ不當ニ事實ヲ確定シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○苟モ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反セサル限りハ個人間ニ於テ如何ナル契約ヲモ自由ニ爲シ得ヘキハ勿論ナレハ特別保證契約ヲ爲シ主タル債務者カ辨濟期日ニ辨濟セサルニ於テハ其資力ノ有無如何ニ拘ラス保證人ヨリ直ニ辨償スヘシト約諾スルカ如キハ固ヨリ法律ノ禁止スル所ニ非ス故ニ事實承審官タル原院ハ其職權ノ範圍内ニ於テ上告人カ保證義務ヲ確保スル爲メ特ニ約束手形ヲ被上告人ニ交付シタル事實アリトシ右事實ヲ甲第三號證ノ約言ニ參照シ以テ本件ノ保證契約ハ普通ノ保證契約ト異ナリ主タル債務者カ辨濟期日ニ辨濟セサルニ於テハ其資力ノ有無如何ニ不拘保證人タル上告人ハ其保證セル金千五百圓ヲ直ニ支拂フコトヲ特約シタルモノナリト判定シタルハ相當ニシテ上告論旨ノ如キ不法アルニアラス其第四點ハ原判決理由第三ニ「甲第三號證ニ主タル債務者戸塚平吉カ辨濟期日ヲ怠リタルトキハ直チニ手形面ノ金額ヲ支拂フ旨明記シアル處ニ依テ見レハ云々」トアレトモ甲第三號證ニハ戸塚平吉ニ於テ

不行届ノ節ハトアリ而シテ不行届トハ不履行ノ意味ニシテ期日ヲ怠リタルトキハ意味ヲ異ニセリ然ルニ不行届ノ文詞ヲ以テ特別保證ノ文詞ヲ明記シタルモノト認定シタルハ不當ニ事實ヲ確定シタルモノナリト云フニ在リ

依テ甲第三號證ヲ閱スルニ上告人主張ノ如ク戸塚平吉カ支拂期日不行届ノ節ハ云々トアリテ期日ヲ怠リタルトキト記載シアラス然レトモ原判文ヲ審案スルニ控訴人(上告人)ハ控訴會社ハ云々ト抗辨スルモ前顯第一點ニ付辨明シタルカ如ク控訴會社ハ保證義務ヲ確保スル爲メ特ニ約束手形ヲ被控訴人(被上告人)ニ交付シタル事實並ニ甲第三號證ニ主タル債務者戸塚平吉カ辨濟期日ヲ怠リタル時ハ直ニ手形面ノ金額ヲ支拂フ旨明記シアル處ニ依テ見レハ本件ノ保證契約ハ普通ノ保證契約ト異ナリ主タル債務者ニ於テ辨濟期日ニ支拂ヲナサ、ル時ハ其資力ノ有無ニ拘ハラス保證人タル控訴會社ハ其保證セル債務千五百圓ヲ直ニ被控訴人ニ支拂フコトヲ特約シタルモノト認ムルニ充分ナリトアリテ原院ハ其職權ヲ以テ甲第三號證ノ所謂不行届トハ期日ニ辨濟ヲ怠ルノ意ナリト解釋シ且上告第三點説明ノ如ク上告人ハ普通ノ保證義務ヲ約シタルモノニアラスシテ特別ノ保證義務ヲ約シタルモノト認定シタルモノニシテ不行届ノ文詞ヲ以テ直ニ特別保證ノ文詞ヲ明記シタルモノト認定シタルニアラサルヤ明カナリ要スルニ

特別擔保義務履行請求ノ件

本上告論旨ハ原判文ヲ誤解シ其誤解ニ基キ原判決ヲ非難スルモノニ過キサレハ上告ノ理由トナスニ足ラス

其第五點ハ被上告人カ第一審へ起訴セシ請求ノ原因ハ擔保金ノ請求ニアリテ保證債務ノ履行ヲ求ムルニアラサルコトハ第一審訴狀請求ノ原因ニ此約束手形ハ主タル債務ニ對スル擔保ナレハ云々一定ノ申立ニ擔保請求ノ權利ハ當然有スヘキヲ以テ云々トアルニ徴シテ明カナリ然ルニ第二審ニ至リ保證債務ノ履行ヲ求ムル旨變更シタルハ民事訴訟法第四百拾三條ニ違背シタル不法ノ判決ナリト云フニ在リ

依テ審案スルニ第一審ノ法廷調書ニ原告(被上告人)代理人ハ訴狀ニ記載セル通り事實ノ演述ヲナシタリトアリ乃チ原告人ノ訴狀ヲ閱スルニ原告ハ明治二十九年四月二十三日公證人小川正直役場第五千六百六號公正證書ニ基キ訴外人戸塚平吉外二名ニ對シ金五千圓ヲ貸付タルニ當リ被告(上告人)ハ右貸借ノ周旋人ニシテ原告ノ貸借ヲ承諾シタルハ被告ヲ信用スルニ出テタルモノナリシヲ以テ被告ハ內金千五百圓ニ對シ特別擔保ヲ爲シ同日付ノ約束手形ヲ振出し支拂期日ヲ六月二十三日ト定メタリ云々茲ニ於テ原告ハ最早手形義務ノ請求權ヲ喪失シタリト雖トモ被告ノ認メツ、アル如ク擔保請求ノ權利ハ當然ニ有スヘキヲ以テ更ニ被告ニ對シテ之レカ履行ヲ求ムル數次ニ及フト雖

トモ遂ニ原告請求ニ應セス止ヲ得ス出訴仕候也トアリテ被上告人ハ第一審ニ於テ擔保義務即チ保證義務履行ノ請求トシテ本訴請求ヲ爲シタルコト明カナルヲ以テ上告論旨ノ如ク被上告人ハ第一審ニ於テ擔保金ノ請求トシテ本訴請求ヲ爲シナカラ第二審ニ至リ其申立ヲ變更シ保證債務ノ履所トシテ本訴請求ヲ爲シタリト云フヲ得ス故ニ本上告論旨モ亦理由ナキモノトス

以上説明シタル如ク上告論旨ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ從ヒ棄却スヘキモノトス

貸金請求ノ件(明治三十一年一月十二日第一民事部判決)

判決要旨

一 荷爲替ナルモノハ荷主カ運送物品ヲ擔保トシテ借入レタル金員ヲ其物品引換ニ債權者又ハ債權者ノ指名シタル者ニ支拂フヘキ旨ヲ荷受人ニ對シテ指圖ヲ爲シ若シ其辨濟ヲ爲サ、ル場合ニ於テハ擔保物ヲ賣却シ其賣得金ヲ以テ辨濟ニ充當スル權利ヲ債權者ニ與ヘタル行爲ナリトス

一 荷爲替ニ因リテ生スル法律關係ハ其債權者ト荷主タル債務者トノ間ニ於ケル物品擔保附ノ金貸借ナリトス

一 荷爲替ノ債權者ハ荷受人カ辨濟ヲ爲サ、ルトキハ其擔保物タル運送物品ノ處分ヲ爲サスシテ直チニ荷主タル債務者ニ對シテ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

第一審 金澤地方裁判所

第二審 大阪控訴院

上告人 米谷半平 訴訟代理人 高橋捨六  
被上告人 富澤喜兵衛 訴訟代理人 岡崎正也

右當事者間ノ貸金請求事件ニ付大阪控訴院カ明治三十一年三月十日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲナサシムル爲メ本件ヲ名古屋控訴院ニ移送ス

理由 上告論旨第二點ハ原判文第一理由末段ヲ按スルニ「故ニ其債權ヲ行使セント欲セハ當ニ其對物處分ヲ爲スヘキヲ順序ナリトス然ルニ該物品ヲ差措キ是等ノ途ヲ履マス直チニ爲替金ノ辨濟ヲ請求セントスルハ當事者間當初締結シタル荷爲替契約ノ趣旨ニ反背スルモノト謂フ可シ」ト判定シタルハ亦タ不法ノ裁判ナリトス何トナレハ本邦ノ荷爲替ナルモノハ取りモ直サス物品ヲ擔保トシテ貸出シタル一種ノ貸金ニ過キサレハ荷主タル被上告人ノ承諾ナクシテ上告人カ勝手ニ其擔保物ヲ賣買讓與ナシ得ヘキモノニアラサルハ勿論法律上之ヲ許サ、レハナリ即チ擔保アル貸金ト雖トモ其貸金取立ノ裁判確定シタル上ニテ對物處分ニ着手ス可キヲ順序ナリトス然ルニ原裁判ハ前述ノ如ク對物處分ヲ爲シタル上ニアラサレハ被上告人ニ對シ貸金ノ請求ヲナシ得サルカ如キ判定ヲナシタルハ法律ヲ無視シタル不法タルモノタルト云フニ在リ○按スルニ荷爲替ナル

貸金請求ノ件

モノハ荷主カ運送物品ヲ擔保トシテ借入レタル金員ヲ其物品引換ニ債權者又ハ債權者  
ノ指名シタル者ニ支拂フ可キ旨ヲ荷受人ニ對シ指圖ヲナシ若シ其辨濟ヲ爲サル場合  
ニ於テハ擔保物ヲ賣却シ其賣得金ヲ以テ辨濟ニ充當スル權利ヲ債權者ニ與ヘタル行爲  
ナリトス故ニ其債權者ト荷主タル債務者トノ間ニ於テ荷爲替ニヨリテ生スル法律關係  
ハ物品擔保附ノ金貸借タルニ外ナラス而シテ荷受人カ債權者ニ辨濟ヲ爲ササル場合  
ニ於テ債權者ニ許シタル對物處分ハ債權者ニ於テ之ヲ爲ササルヘカラサル義務ヲ負フ  
ニ非スシテ之ヲ爲スコトヲ得ル權利ニ屬スルノミ隨テ之ヲ爲スト否トハ債權者ノ隨意  
ナレハ對物處分ヲ爲サスシテ債務者ニ對シテ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ルヤ勿論ナリト  
ス然ルニ原院カ債權者ニ於テ先ツ對物處分ヲ爲シタルニ非サレハ本訴ノ請求ヲ爲スコ  
トヲ得サルモノト説明シタルハ即チ法則ヲ適用セサル不法ノ裁判ニシテ破毀ヲ免レサ  
ルモノトス既ニ此點ニ於テ原判決ヲ破毀スル以上ハ自餘ノ論告ニ對シ説明ヲ爲スノ要  
ナシ

以上ノ理由ニ依リ民事訴訟法第四百四十七條第一項及同法第四百四十八條第一項ニ從  
ヒ主文ノ如ク判決ス

積荷損害要償ノ件(明治三十一年第二四四號)  
(明治三十二年二月八日第二民事部判決)

判決要旨

一運送人ニ於テ同業者カ引受ケタル貨物ヲ引受ケ遞次運送ヲ爲ストキハ各運送人ハ荷  
主ニ對シテ連帶シ運送ニ付テノ責任ヲ負擔スルヲ以テ一般ノ慣行ナリトス

第一審 大阪地方裁判所

第二審 大阪控訴院

上告人

伊豫深船株式會社法律上代理人  
宮内總右衛門

訴訟代理人 丸岡東治

被上告人 山中友七

右當事者間ノ積荷損害要償事件ニ付大阪控訴院カ明治三十一年四月十日言渡シタル判  
決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ且被上告人ハ期日出頭セサルニ  
付闕席ノ儘判決アリタキ旨申立テタリ

判決

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ大阪控訴院ニ差戻ス

理由

上告理由第一點ハ原院ハ本件ニ於テノ貨物運送ハ先ツ上告人カ貨主ヨリ運送ノ委託ヲ

積荷損害要償ノ件



受ケ若干ノ運送ヲナシタルノ後次ニ之レヲ伊豫組ニ委託シテ若干ノ運送ヲナシメ伊豫組ハ又事實ヲ認メ而シテ本件ノ如ク運送品ニ濡損等ノ損害アリテ第一ノ受託者ナル上告人(被控訴人)ニ於テ荷受主ニ對シ賠償ヲナシタリト主張シ其轉償ヲ要スル場合ニアツテハ先ツ第二ノ運送者ナル伊豫組ニ對シ要求スヘキ順序ナルニ之レヲ擱キ直ニ被上告人(控訴人)ニ對シ賠償ヲ求ムルハ其當ヲ得サルモノトノ理由ヲ付セラレタリ要スルニ運送人ノ過失ニヨリ貨物ニ損害ヲ加ヘタルトキハ貨主ハ自ラ委託シタル第一ノ運送人ニ其賠償ヲ求メ第一ノ運送人ハ其賠償ヲナシタル後第二ノ運送人ニ更ニ求償スヘク第三第四ノ遞次後者運送人ニ賠償ヲ求ムヘキモノニシテ即チ委託ノ順序ニ依ルニアラサレハ賠償ヲ求ムヘカラスト云フニ在リ抑モ或運送人ニ於テ引受ケタル運送ヲ次テ他ノ運送人之レヲ引受ケ即チ數人相次テ運送ヲナス場合ニ於テハ各運送人ハ貨物ノ損害ニ付キ連帶シテ賠償ノ責ニ任スルハ運送營業ニ關スル爭フヘカラサルノ法理ナリ故ニ各運送人ハ委託者ニ對シテハ委託者ノ撰擇スル運送人カ賠償ノ要求ニ應セサルヘカラサルナリ然レトモ運送人間ニ於テ畢竟損害ヲ負擔スヘキ者ハ損害ヲ生セシメタル過失者ニアルコト勿論ナリ又連帶債務者中ノ一人カ債權者ニ債務ノ履行ヲナシタルトキハ他ノ債務者ニ對シ其負擔分ニ付キ求償ヲナシ得ルコトハ連帶ノ性質上言フヲ俟タサ

ル處ナリ本件ニ於ケル損害ハ第三運送人タル被上告人ノ過失ニ因ツテ生シタルコト明カナリ然レトモ上告人ハ貨主ヨリ其賠償ヲ要求セラレタルヲ以テ連帶責任上止ムヲ得ス貨主ニ對シ其責任ヲ盡シタルナリ即チ連帶債務者ノ一人ナル上告人カ債務ノ辨濟ヲナシタルヲ以テ上告人ハ他ノ債務者ノ負擔分ヲ求償スヘキノ權利ヲ生シタルナリ原院カ上告人ト被上告人トノ中間ニ位ストナシタル伊豫組並ニ被上告人ヲ以テ其負擔ヲ區分スヘキモノナリトモ上告人ハ各自ニ對シ求償スヘキ節合ナレトモ本件ノ損害ハ被上告人ノ過失ニ依テ生シタルモノナルヲ以テ上告人並ニ伊豫組ハ貨主ニ對シ責任ヲ有スルノミニシテ損害ノ負擔ハ全然被上告人一人ノ責任ニ歸スルヲ以テ上告人ハ伊豫組ニ請求セシテ全部負擔者タル被上告人ニ對シ求償權ヲ行使シタルモノナリ故ニ上告人カ被上告人ニ對シ賠償ヲ求メタルハ決シテ其當ヲ失シタルモノニアラズ然ルニ原院ハ運送委託ノ順序ニ依テ賠償ヲ求ムヘキモノトシタルハ運送營業ニ關スル法理ヲ誤リタルモノナリト云フニ在リ○依テ審案スルニ運送人ニ於テ同業者カ引受ケタル運送物ヲ引受遞次運送ヲ爲ストキハ各運送人ハ荷主ニ對シ連帶シテ運送ニ付テノ責任ヲ負擔スルハ運送人間一般ノ慣行ナリ此慣行タルヤ運送人營業上ノ必要ヨリ生シタルモノナレハ各運送人ニ於テ之レヲ遵守セサルヘカラス何トナレハ此慣行ヲ是認セサルニ於テ

積荷損害賠償ノ件

ハ荷主ニ對スル擔保妙ク之レニ損害ヲ被ムラシムル虞アリ從ツテ運送人ハ荷主ニ對シ信用ヲ得ル能ハス爲メニ運送業ノ發達ヲ妨ケラレ其利益ヲ見ルコト難ケレハナリ運送人間ニ於テ此慣行アル以上ハ損害ヲ受ケタル荷主ハ其運送ヲ爲シタル運送人中ノ一人又ハ數人ヲ撰擇シテ損害賠償ノ請求ヲ爲シ得ルハ勿論其損害ノ賠償ヲ爲シタル運送人ハ荷物ニ對シ實際損害ヲ加ヘタル運送人ニ向ツテ其求償ヲ爲シ得ヘキハ法理ノ當然ナリ然ルニ原院ニ於テ運送人間ノ連帶責任ヲ否認シ第一ニ荷物運送ノ委託ヲ受ケタル運送人ニ於テ損害ヲ賠償シタルトキハ第二ノ運送人ニ係リ其求償ヲ爲シ第二ノ運送人ハ第三ノ運送人ニ對シ遞次求償ヲ爲スヘキ筋合ナルヲ以テ第一ノ運送人タル上告人ニ於テ第二ノ運送人ヲ差擱キ直ニ第三ノ運送人タル被告上告人ニ對シ求償ヲ爲スハ不當ナリトシ上告人敗訴ノ言渡ヲナシタルハ上告人所論ノ如キ不法ノ裁判ニシテ破毀ノ原因アルモノトス既ニ此點ニヨリ原判決ヲ破毀スヘキモノトスル以上ハ上告理由第二點ニ付キ説明スルノ必要アルナシ仍テ之レカ説明ヲ爲サス

以上説明スル如クナルヲ以テ民事訴訟法第四百四十七條第一項ニ依リ原判決ヲ破毀シ同第四百四十八條第一項ノ規定ニ從ヒ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ大阪控訴院ニ差戻スヘキモノトス

藍葉引渡請求ノ件

(明治三十一年第四百十六號)  
(明治三十二年二月十八日第一民事部判決)

判決要旨

一番頭ト稱スル雇人ハ常ニ主人ノ爲メ商行爲ヲ爲スヲ通例トスルカ故ニ其行爲ハ主人ノ代理資格ヲ以テ爲シタルモノト認ムルヲ得ヘシ(判旨第二點)

第一審 浦和地方裁判所

第二審 東京控訴院

上告人

新井太右衛門

訴訟代理人 吉田 珍 雄

被告上告人

須永半五郎

右當事者間ノ藍葉引渡請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十一年十月十二日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第一點ハ本案係争物ハ第一審被告タル中島德次郎カ訴外齋藤音七へ賣渡シタルモノニシテ良シ其藍葉ハ初メ運送委託ノ品ナリト假定スルモ其荷主タル德次郎ニ於テ

藍葉引渡請求ノ件

ハ自由ニ處分シ得ヘキハ法理ノ認ムル處ナルニモ不拘原院ニ於テハ上告人ノ立證セル  
 次郎及被控訴人ノ自認音七加藤誠一郎ノ調書ニ掲クル事實ヲ無視シ德次郎カ音七へ  
 賣渡シタル藍葉ハ本案ノ藍葉トハ別物ナリト認メ上告人ノ控訴棄却ヲ言渡サレタルハ  
 事實ヲ不當ニ確定シタル失當ノ裁判ナリト云フニ在リ  
 然レトモ一件記録ニ徴スルニ本件被上告人ハ勿論前記中島德次郎齋藤音七及ヒ加藤誠  
 一郎等ニ於テ上告人カ云フ如キ本案係争物即チ二百五十貫目ノ藍葉ハ德次郎カ音七へ  
 賣却セシモノナリト陳供シタル事跡ハ上告人カ原院ニ於テ引用シタル調書中絶ヘテ其  
 見ルヘキモノナケレハ原院カ其判決理由中「控訴人ハ右藍葉ハ德次郎ニ於テ之ヲ他々  
 賣却シタリト云フモ證人齋藤音七カ買取リタリト云フハ藍葉二百七十貫目ニシテ云ニ  
 本件ノ藍葉ハ二百五十貫目ニシテ云々齋藤音七ノ證言ヲ眞實ナリトスルモ其買取リタ  
 ル藍葉ハ本訴ノ目的物ナリト認ムルヲ得ス」ト説示シ即チ德次郎カ音七へ賣却シタル  
 藍葉ハ本案ノ藍葉ト別物ナリト認メタルハ相當ニシテ要スルニ原判決ハ上告人所論ノ  
 如キ立證ヲ無視シテ事實ヲ不當ニ確定シタル違法アリト云フヲ得ス  
 其第二點ハ原判決ノ理由ニ「末吉ハ運送店ノ番頭ニシテ末吉ノ爲シタル行爲ハ控訴  
 人上告人ニ代リテ爲シタルモノト」判定セラレタレトモ凡ソ雇人若クハ代理人タルモ

ノハ法律上自己ノ取引ヲ爲ス可カラストノ禁令アラサル限りハ自己ノ爲メ何等ノ取引  
 ヲモ自由ニ爲シ得ヘキハ勿論ナリ若シ末吉ノ行爲ハ全然上告人ノ代理資格ニ出テタル  
 モノトセハ被上告人ハ其點ニ於テ立證セサル可カラス其立證アラサル上ハ上告人ノ州  
 張タル德次郎ノ依頼ニ基ク賣買周施則チ末吉タル個人ノ行爲ニ外ナラストノ主張ヲ正  
 當ト爲ササル可カラス然ルニ原院ハ控訴者タル被上告人ノ主張セル事實上ノ立證ナキ  
 ヲ責メスシテ末吉ハ上告人ノ番頭ニシテ末吉ノ行爲ハ上告人ニ代リテ爲シタルモノ云  
 々德次郎ガ音七ニ賣却シタル藍葉ハ本案ノ係争物トハ別物ナリ云々ト斷定セラレタル  
 ハ則チ立證ノ責任ヲ無視シ事實ヲ不當ニ確定シタル違法ノ裁判ナリト云フニ在リ  
 然レトモ元來番頭ト稱スル雇人ハ常ニ主人ノ爲メニ商行爲ヲ爲スヲ通例トス而シテ本  
 件ノ藍葉ヲ受取リタル者ハ新井末吉ニシテ其末吉ハ上告人運送店ノ番頭ヲ爲シ居リタ  
 ル事實ナル以上ハ其末吉カ爲シタル行爲ハ即チ上告人ノ代理資格ニ出テタルモノト論  
 定スヘキハ當然ノ筋合ナルカ故ニ原院カ此點ニ於テ被上告人ノ立證無キニ拘ハラヌ末  
 吉ノ爲シタル行爲ハ控訴人ニ代リテ爲シタルモノト認ム故ニ新井末吉カ本訴ノ藍葉ヲ  
 受取リタルト否トノ控訴人ノ責任ニ影響スル所ナシト判斷シタルハ相當ニシテ上告論  
 旨ハ其理由ナシトス

其第三點ハ原判文ニ本件ハ控訴人及中島德次郎ノ兩人ニ係争藍葉ノ運送ヲ委託シ其委託ニ基キ之ヲ提起シタルモノナルコトハ訴狀及ヒ被控訴人ノ主張ニ依リ明白ナリトアレトモ(被控訴)被上告人ハ曾テ右様ナル事實ヲ陳述シタル事ナル當事者ノ陳述セサル架空ノ事實關係ヲ擧ケテ裁判ノ理由ト爲シタル裁判ハ失當ヲ免レヌト云フニ在リ依テ一件記録ヲ査閲シテ之ヲ案スルニ被上告人カ第一審裁判所ニ提出シタル訴狀中「加藤誠一郎ヨリ藍葉貳百五十貫目ヲ買入レ被告德次郎ハ其引取及ヒ荷出ヲ請負ヒ本年九月下旬ニ其原告ニ引渡ス可キ藍葉ヲ俵ニ入レ之ヲ被告新井太右衛門ニ運搬シ而シテ原告ニ送り届ク可キノ手段ヲ爲セリ原告ハ其引取ノ爲メ人夫ヲ用意シテ被告太右衛門方ニ至ルニ被告太右衛門ハ假令送り状ニハ原告ニ到ル可キ指圖ナルモ云々抑留スル旨ヲ主帳シ引渡サヌ云々因テ茲ニ請求仕候也」ト在リ而シテ原院カ引用シタル第一審判決事實摘示中被上告人ノ陳述ニモ右ト同一ノ事實ヲ主張シアレハ原院カ前掲ノ如ク判示シタルハ亦相當ニシテ上告人所論ノ如キ當事者ノ陳述セサル架空ノ事實關係ヲ擧ケテ裁判ノ理由ト爲シタル不法アルモノト云フヲ得ス  
上文辯明ノ如ク本件上告ハ一モ其理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ依リ之ヲ棄却スル所以ナリ

數駄金請求ノ件(明治三十二年第六十七號  
同年五月廿七日第一民事部判決)

判決要旨

一運送營業ニ關スル債務ト雖モ其債務證書ヲ作製シテ第三者ニ交付シ又ハ金額ヲ借入ルカ如キ行爲ハ單純ナル運送業務使用人ノ受任權内ニ屬スヘキモノニ非ス

第一審 長野地方裁判所上田支部

第二審 東京控訴院

上告人 内田吉五郎

訴訟代理人 村上浩

被上告人 羽田五郎

右當事者間ノ數駄金請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十二年二月廿三日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

上告論旨ハ原判決ハ法律ニ違背シタル不法ノ裁判ナリト云ハサルヘカラス何トナレハ

判文既ニ示スカ如ク訴外人金井岩太ハ被上告人ノタメニ會運送店ノ營業上諸般ノ事務ヲ取扱ヒ居リタル者ニシテ殊ニ甲第一號證ニハ訴外人金井岩太カ會運送店ノ扱人トシテ署名捺印シ且ツ會運送店ノ印影アリ該印影ハ被上告人カ營業主ナル同運送店ノ印影ナル事ハ甲第四五號證及ヒ第一審ニ於ケル證人瀧澤入之助ノ訊問調書ニヨリテ認ムル者トス又甲第一號證成立ノ當時即チ明治二十八年十二月中ニ於テ被上告人カ營業ヲ爲シ居リタル事ハ甲二三號證ニヨリテ明カニシテ訴外人金井岩太カ會運送店ノ營業上諸般ノ事務ヲ取扱ヒタル事跡ハ第一審ノ證人瀧澤入之助ノ訊問調書ニヨリテ認ムルヲ得然ラハ即チ金井岩太カ本件敷駄ノ借用證書ヲ認メタリトテ權限外ト云フヘカラス否寧ロ正當行爲ニ屬ス抑モ本訴請求ノ敷駄貸金ハ訴名既ニ敷駄ノ貸金ナリ其債權發生ハ被上告人ト上告人トカ平生運送ノ取繼ヲナシ居リタル間ニ於テ被上告人カ通例一個ノ運送引繼毎ニ必ス支拂フヘキ敷金ナリ然ルニ被上告人ノ都合ニヨリ上告人カ支拂ニ猶豫ヲ與ヘ其原因ヲ明示シテ證書ヲ作成セシメタルニ過キス故ニ金井岩太ハ事務取扱人トシテ是等ノ事實ヲ熟知シ其本人即被上告人ノ爲メニ之ヲ證書ニ明記シタル者ナレハ代理人金井岩太ハ本件即被上告人ノ爲メニ正當ニ代理權ヲ行使シタルニ過キスシテ營業範圍外ニ借用シタル者ニアラス萬一此事柄ヲ以テ權限外ト認ムルモ上告人ハ民法

第一百十條ニヨリ代理人カ其權限アリト信スヘキ程度情況ニアリタル者ト云ハサルヘカラス加之被上告人ハ營業全般ノ事務ヲ金井岩太ニ取扱ハシメタル者ナレハ民法第九條ニヨリ上告人(第三者)ニ對シテハ他人即チ金井岩太ニ代理權ヲ與ヘタル旨ヲ暗黙ニ表示シタル者ニ外ナラス否帳場即チ商店ニ事務ヲ取扱ヒツ、アル以上ハ明示ニ其取引行爲ニ付代理權ヲ與ヘタル旨ヲ表示シタル者トス然ルニ原判決カ判決文ニ金井岩太カ會運送店ノ營業上諸般ノ事務ヲ取扱ヒタルヲ認メ其權限即チ運送店ノ取引行爲ヲ爲シタルヲ權限外ナリト説明スルハ判文ノ理由齟齬ノ甚タシキモノニシテ代理人カ其本人ノ權限内ノ行爲ヲ爲シタルヲ「他借ハ權限外ナリ」トシテ事實ニアラサル事實ヲ確定シ被上告人カ上告人ニ對シ帳場ノ事務ヲ取扱ハセ置キタル點即チ民法第九條ヲ適用スヘキ事實アルヲ等閑視シタルハ法律ノ適用ヲ誤リタル者ニシテ結局法律ニ違背シテ事實ヲ確定シタル不法ノ判決ナリト云フニアリ然共假令運送營業ニ關スル債務ナルニモセヨ其債務證書ヲ作成シテ第三者ニ交付シ又ハ金額ヲ借入ル、カ如キ行爲ハ單純ナル運送業務ニ就テノ使用人ノ受任權内ニ屬スヘキモノニアラス何トナレハ斯ノ如キ行爲運送ノ業務ニアラサレハナリ故ニ原院ニ於テ一然レトモ假令營業上ニ使用スル金圓ト雖モ之ヲ他ヨリ借用スルカ如キ事項ハ營業ノ

範圍ニ屬セサルモノナレハ被控訴人主張ノ如ク金井岩太ニシテ控訴人ノ爲メニ倉運送店ノ營業上諸般ノ事務ヲ取扱ヒ居タルモノトスルモ特別ノ授權ナキ以上ハ控訴人ノタメニ被控訴人ヨリ金圓ヲ借入ル、ノ權限ナキモノナリト説明シタルハ不法ニアラス而シテ「萬一此事柄ヲ以テ權限外トスルモ上告人ハ民法第百十條ニヨリ代理人カ其權外アリト信スヘキ程度狀況ニアリタルモノト云ハサルヘカラス加之被上告人ハ營業全般ノ事務ヲ金井岩太ニ取扱ハシメタルモノナレハ民法第百九條ニヨリ上告人ニ對シテハ他人即チ金井岩太ニ代理權ヲ與ヘタル旨ヲ暗黙ニ表示シタル者ニ外ナラス否帳場即チ商店ニ事務ヲ取扱ヒツ、アル以上ハ明示ニ其取引行爲ニ付代理權ヲ與ヘタル旨ヲ表示シタルモノトス」トノ論告ハ原院ニ顯ハレサル事項ナル事ハ原院ニ於ケル口頭辯論調書其他本案訴訟記録ニ徴シテ明瞭ナリ故ニ探テ以テ上吾ノ理由ト爲スヲ得サルモノトス

以上説明セシ如ク上告論旨ハ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ照シ主文ノ如ク判決スル所以ナリ

損害要償ノ件(明治三十二年(オ)第百五十五號  
明治三十三年四月十日第一民事部判決)

判決要旨

一債務ノ不履行ヲ原因トシ債務者ニ賠償セシムヘキ損害ハ其不履行ニ由リテ通常生スヘキモノ又ハ特別ノ事情ニ由リ生シタルモ當事者ニ於テ之ヲ豫見シ若クハ豫見シ得ヘカリシモノニ限ルハ普通ノ法理ナリトス

第一審 東京地方裁判所

第二審 東京控訴院

上告人 日本精米株式會社

右法律上代理人 大谷吉次郎

被上告人 南助吉

訴訟代理人

後藤亮之助

訴訟代理人

林龍太郎  
平田讓衛

右當事者間ノ損害要償事件ニ付東京控訴院カ明治三十二年五月八日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲナシ破上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲナサシムル爲メ本件ヲ東京控訴院ニ差戻ス

損害要償ノ件

上告擴張論旨第一ハ原判決ハ理由不備ノ裁判ニシテ民事訴訟法第四百三十六條第七號ノ規定ニ違反シタル不法ノ裁判ナリ何トナレハ(一)原判決ハ本件賠償請求ノ原因ヲ論スルニ當リ其第二點未段ニ於テ(前畧)換言スレハ送狀引換ニ非サレハ決シテ荷物ヲ引渡サ、ル可シトノ約束ヲ荷受人ニ向ツテ爲シタルモノナルコト論ヲ俟タス去レハ此約束ノ存在スル限リハ之ニ背キタル引渡ヲ爲シタメニ損失ヲ被ラシメタルトキハ之カ賠償ノ責ニ任ヌヘキハ勿論ノコトナリト判示シ其第三點未段ニ於テ(前畧)「被控訴人ハ此約束ニ背キ引渡ヲナシタルモノナレハ其タメニ控訴人ニ被ラシメタル代金ノ損失ハ之ヲ賠償スルノ責任アルモノトスト」判定セリト雖モ凡ソ損害賠償請求ノ原因ニ付テハ債務ノ不履行ニ基クモノト不法行爲ニ依ルモノトノ二種アリ而シテ債務不履行ニ依ル損害賠償ノ請求中特別ノ事情ニ因リ生シタル損害ナルトキハ當事者カ其事情ヲ窺見シ又ハ豫見スルコトヲ得ヘカリシモノナラサルヘカラス是レ新民法第四百十六條第二項ニ規定スル所ニシテ又普通ノ法理ナリトス今本件ニ於テ假リニ原判決ニ認メタル如ク山崎利吉ト上告人ニ代理關係アルモノトシ甲三號證(送狀)ト引換ニアラサレハ荷物ノ引渡ヲナサ、ルコトヲ契約シタルモノトスルモ是レ明カニ債務ノ不履行ニ基ク

損害賠償ナルハ勿論固ト送狀引換ニ荷物ヲ引渡スハ當時主トシテ荷受主其人ノ間違無カラシコトヲ期シタルモノニシテ送狀引換ニ荷物ヲ引渡サ、リシコトハ本件損害ノ直接原因ニアラス反言セハ本件損害ノ直接原因ハ荷爲替附着荷受主ノ不法行爲ニ外ナラサルナリ何トナレハ假令送狀ト引換スシテ荷物ヲ引渡シタリトスルモ若シ荷爲替ニシテ附着シアラサルカ若シタハ假令荷爲替ノ附着シアルモ荷受主ニシテ不法行爲ナカリシトキハ何等損害ヲ生ヌヘキ筈ナケレハナリ之ヲ要スルニ本件ノ損害ハ特別ノ事情ヨリ生シタル損害ニ過スシテ其損害ハ當事者ニ對シ直チニ賠償責任ヲ組織スルモノニアラス當事者ニ於テ豫知シ若クハ豫知シ得ヘカリシトキニ於テ始メテ其請求權ヲ發生スルモノト去レハ原院カ本件賠償ノ請求權有無ヲ論スルニ當リテハ須ラク尙ホ其損害ノ上告人ニ於テ豫知シ若シクハ豫知シ得ヘカリシモノナルコトヲ論定セサルヘカラスナルニ原判決ハ上掲ノ如ク單ニ損害ノ有リシ事實ヲ認メタルノミニシテ其所謂損害ハ上告人ニ於テ豫知シ若クハ豫知シ得ヘカリシモノニアラサル旨ヲ論争シタルニ不拘)何等人カ當時豫知シ若クハ豫知シ得ヘカリシモノニアラサル旨ヲ論争シタルハ所論定スルコトナク直チニ上告人ニ對シ被上告人ニ損害賠償ノ責アリト判定シタルハ所謂理由ヲ欠キタル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ○依テ按スルニ債務ノ不履行ヲ原因ト

シ損害ノ賠償ヲナサシムルニハ其損害ハ不履行ニ因リテ通常生スヘキモノ又ハ特別ノ事情ニ因リ生シタルモノト雖モ當業者之ヲ豫見シ若シクハ豫見シ得ヘカリシ者ニ限ルコトハ普通ノ法理ナリトス故ニ債務不履行ノ原因トシ債務者ニ損害ノ賠償ヲ命スルニハ必ラスヤ其損害不履行ノ結果ニシテ通常生スヘキ者ナルカ又ハ特別ノ事情ヨリ生シタルモノナルモ當業者之ヲ豫見シ若クハ豫見スルコトヲ得ヘカリシモノナルコトヲ判示セサルヘカラス何トナレハ其損害ニシテ全ク特別ノ事情ヨリ生シ而カモ當事者之ヲ豫見スルコト能ハサルモノナルトキハ債務者之ヲ賠償スル責任ナケレハナリ乃チ原告文ヲ査閲スルニ(前略)送狀引換ニ非ラサレハ決シテ荷物ヲ引渡サ、ル可シトノ約束ヲ荷出人ニ向テ爲シタルモノナルコト論ヲ俟タス(中略)被控訴人(上告人)ハ此約束ニ背キ引渡ヲナシタルモノナレハ其タメニ控訴人(被告)ニ被ラシメタル代金ノ損失ハ之ヲ賠償スル責任アルモノト云々トアリテ原院ニ於テ上告人ハ送狀ト引換ニアラサレハ荷物ヲ荷受人ニ引渡サ、ルコトヲ約シナカラ該約ニ背キ送狀ト引換スシテ荷物ヲ引渡シタルカタメ本訴損害ヲ生シタリト判定シタルコトヲ知り得ヘキモ其損害ハ送狀ト引換ヘスシテ荷物ヲ引渡シタルカタメ通常生スヘキモノナルヤ又ハ特別ノ事情ヨリ生シタルモ當事者之ヲ豫見シ若クハ豫見スルコトヲ得ヘカリシモノナルヤ否ヲ判示セ

ス即チ裁判ニ理由ヲ付セサルモノニシテ破毀ノ原由アル不法ノ判決タルヲ免レス既ニ此點ニ依テ原判決ヲ破毀スル以上ハ他ノ論旨ニ對シ一々説明ヲ與フル必要ナキモノトス  
右ノ理由ナルヲ以テ民事訴訟法第四百四十七條第一項同第四百四十八條第一項ニ從ヒ  
主文ノ如ク判決スル所以ナリ



貨物運輸決算報告請求ノ件(明治三十三年(才)第四百二十一號)

(明治三十三年十一月七日第二民事部判決)

判決要旨

一運送其他ノ營業ヲ讓渡スニ當リテハ店舖貨物債權債務得意先及ヒ商業帳簿等ハ總テ之ヲ讓渡スシ通常トス故ニ其反證アラサル限りハ總テ讓渡アリタルモノト推定セラ

ルヘカラス

第一審 水戸地方裁判所下妻支部

上告人 初見三郎

法定代理人 初見タメ

訴訟代理人 長谷川吉次

被上告人 小堀源九郎

第二審東京控訴院

右當事者間ノ貨物運輸決算報告請求事件ニ付明治三十三年六月十二日東京控訴院カ言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告理由第一點ハ本件主要ノ争點ハ訴外人初見源五郎カ被上告人ト締結シタル甲第一號證ノ契約即チ「境町外六ヶ村普通水利組合村ニ於テ境町字塚場三本樋ヲ煉化管ニ改築スルニ付被上告人カ其所有ノ土地ヲ以テ落堀用敷地ニ供シ永世無料ニテ貸渡シタル報酬トシ初見源五郎等カ境町字塚場河岸へ運輸スヘキ貨物ノ十分ノ七ヲ被上告人回漕店へ送ルヘキコト」ノ契約ハ果シテ營業ニ關スル債務ナリヤ否ヤニ在リ而シテ上告人ハ斯ル契約ハ營業ニ當然附隨スヘキ債務ニアラスシテ偶々初見源五郎カ被上告人ノ好意ニ報ヒンカ爲メ營業上ノ利益ヲ報酬ニ充ツルノ意思ヲ發表シタルニ過キサルモノナリト之ヲ争ヒタルニモ拘ハラヌ原院ハ「而シテ營業ナルモノ、中ニハ之ニ關スル店舖貨物債權債務得意先及商業帳簿等一切ノ事業ヲ包含スヘキカ故營業ノ讓渡シアルニ於テハ是號ノモノ、讓渡アルヘキハ當然ナルヲ以テ云々」ト事實ヲ不當ニ確定シタル不法ノ裁判ナリ且原院ハ「本件甲一號證ノ契約ハ讓渡人初見源五郎ノ締結シタル運送營業ニ關スル契約ナルコト其文詞ニ因リテ明カナルヲ以テ云々」ト説明シ甲第一號證ノ如何ナル文詞ニ因リ營業ニ關スル契約ナリヤヲ明示セス之レ判決ニ理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ

然レトモ原判決ノ認定及ヒ上告人ノ陳述ニ據レハ訴外人初見源五郎ハ運送ヲ營業トス

ル者ニシテ其營業ニ屬スル運送スヘキ貨物ノ幾分ヲ被上告人ノ回漕店ヘ運送スヘキコトヲ甲第一號證ニ依リ約諾シタル事實ナレハ其約諾ノ原因ハ初見源五郎カ被上告人ノ好意ニ報ヒン爲メ營業上ノ利益ヲ與フルニアリトスルモ既ニ運送ノ約諾ヲ爲シタル以上ハ之ヲ運送スヘキ債務ハ即營業上ノ債務ナルヲ以テ原裁判所カ其債務ヲ營業ニ關スルモノト爲シ本件營業讓渡ノ契約中ニ包含スルモノナリト判斷シタルハ不當ニアラス又原判決ニ本件甲第一號證ノ契約ハ讓渡人初見源五郎ノ締結シタル運送營業ニ關スル契約ナルコト其文詞ニ因リテ明カナリトアルハ即其契約書ノ文詞全體ヲ指シタルモノト解釋シ得ヘク既ニ甲第一號證ノ文詞全體ヲ指シタルモノナレハ其如何ナル文詞ニ依リテ營業ニ關スル契約タルコトヲ認メタルヤハ特ニ之ヲ舉示スルノ要ナキヲ以テ原判決ハ上告論旨ノ如キ不法ニ事實ヲ確定シ又ハ判決ニ理由ヲ付セサル等ノ違法アルコトナシ第二點ハ原院ハ「反證ナキ限りハ營業ノ讓渡ト共ニ債權債務モ亦共ニ讓渡サレタルモノト看做スヘキモノナリ」ト説明セラレタレトモ家督相續人ト異ナリ當然營業ニ關スル債務ヲ負擔ス可キモノニアラス寧ロ特約アルニアラサレハ前營業人ノ債務ヲ負擔スヘキモノニアラス然ルニ原院カ却テ反證ナキ限りハ當然負擔スヘキモノト判決セラレタルハ法律ヲ不當ニ適用シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ

然レトモ凡ソ運送其他ノ營業ヲ讓渡スニ當テハ原判決ニ説明セシ如ク店舗貨物債權債務得意先及ヒ商業帳簿等ハ總テ之ヲ讓渡スヲ通常トス故ニ之レカ反證アラサル限りハ總テ其讓渡アリタルモノト推定セサルヘカラス然レハ原判決ニ營業ノ讓渡中ニ通常包含スヘキ營業上ノ債務モ讓渡シタルモノト判定シタルハ違法ニアラス右ノ理由ナルヲ以テ本件上告ハ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ依リ棄却スヘキモノトス

荷物損害賠償請求ノ件(明治三十二年(オ)第百九十一號)

判決要旨

一船荷證書ハ荷積前ニ於テ作成授受スルモ違法ニ非ス然レトモ其作成授受ヲ荷積後ニ於テシ其効力モ亦荷積後ニ發生スルヲ以テ通例トス

第一審 東京地方裁判所

第二審 大阪控訴院

上告人 玉置金三郎

訴訟代理人 岸本辰雄

小島重太郎

被上告人 小西藤楠

訴訟代理人 花井卓藏

右當事者間ノ荷物損害賠償請求事件ニ付大阪控訴院カ明治三十二年十月二十七日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス  
上告ニ係ル訴訟費用ハ上告人之ヲ負擔ス可シ

理由

上告趣旨ノ第一ハ原判決ハ法律ニ違背シテ事實ヲ確定シタル不法アリトス原判決ニ於テ「控訴人カ被控訴人ヨリ神戸港ニ於テ瀛船旺洋丸ニ積込ムヘキ荷物ヲ船長代理ノ格資ヲ以テ受取リ大阪市西區長堀川ニテ小廻船住吉丸ヲ雇入レ之ヲ積入レ運送セシニ兵庫縣武庫郡須磨村ノ内西須磨村ノ海邊ニ至リ難破シ爲メニ破控訴人カ金一千五百二十四圓二錢二厘ノ損失ヲ被リタル事實ハ控訴人モ異議ナキ所ニシテ控訴人ハ甲第一乙第二號證ヲ根據トシ本訴ノ請求ニ應スヘキノ責任ナシト論述スレトモ船荷證書ハ通例荷積後船長ノ發スヘキモノニテ本訴ノ如キ荷積前ニ作リタル船荷證書ハ未タ旺洋丸ヘ荷積ヲ爲サル以前ニアリテハ其効力ヲ發スルモノニアラサレハ同證ニヨリ責任ナシト云フヲ得サルハ勿論甲第一號證ニモ被入玉置出張所ト記入シアリテ該荷物ハ實際控訴人カ自己ノ營業タル運送取扱人ノ資格ヲ以テ取扱ヒタルモノト認ムルヲ相當トスト判斷セラレタルハ法律ニ違背シテ事實ヲ確定シタル不法アリトス其理由左ノ如シ甲第一號乙第二號證ニハ明カニ船荷證書タル旨ノ記載アリ且ツ其約項ハ凡テ船荷證書タルノ

荷物損害賠償請求ノ件

體裁ヲ具備シ上告人カ船長代理ノ資格ヲ以テ之ヲ發シタルモノナルコトハ該證ニ照ラシ一ノ疑フヘキ點アルモノニ非ス而シテ船荷證書ナルモノハ決シテ通例ニ於テ荷積後ニ至リテ船長ノ發スヘキモノニ非スシテ荷積前船長ノ代理者ヨリ發スヘキモノナリ該證中ニ扱人何某ト記入スル如キハ唯某代理資格ヲ以テ之ヲ發行シタルコトヲ表示スルニ過キサルヲ以テ一般ノ例習トス然ルニ原判決ハ前掲ノ如ク甲第一號乙第二號證ノ明文ニ反シ不常ノ理由ヲ附加シテ該證ヲ以テ被上告人ノ主張ニモ反シテ上告人自己ノ營業タル運送取扱人資格ヲ以テ之ヲ取扱ヒタルモノト確定シ上告人ハ直接該證ノ爲メニ責任ヲ負擔セサル可ラサル旨判斷シタルハ法律ニ違背シテ事實ヲ確定シタル不法ノ判決ナリト云ヒ其第二點ハ原判決ノ理由ニ「船荷證書ハ通例荷積後船長ノ發スヘキモノニテ本訴ノ如キ荷積前ニ作リタル船荷證書ハ未タ旺洋丸ニ荷積ヲ爲サ、ル以前ニアリテハ其効力ヲ發スルモノニアラサレハ同證ニヨリ責任ナシト謂フヲ得サルハ勿論」トアリ原院ノ說示スル所ニ依レハ甲第一號證ハ通例ト異ナル點二箇ヲ認メタリ第一通例ハ船荷證書ハ船長ノ發スルモノナリ然ルニ甲第一號證ハ船長ノ代理人ヨリ發シタリ（然レトモ船長ヨリ發スルト代理人ヨリ發スルトヲ問ハス果シテ代理人ナル以上ハ其効力ニ關スルコトナキノ理ナリ）第二通例ハ荷積後ニ之ヲ發スルモノナリ然ルニ甲一

號證ハ荷積前ニ發シタルモノナリ而シテ本件甲一號證ノ如ク荷積前ニ發シタルトキハ直ニ効力ヲ發セシテ荷積後ニ於テ初メテ効力ヲ生スルモノタルハ如何ナル理由ニ基ク歟原院ハ之レヲ説明セサルナリ船長若クハ其代理人カ荷物ノ受渡ヲナシ之ニ引換ヘテ船荷證書ヲ授受シタルトキハ荷積前ニ發シタルモノト雖モ直ニ効力ヲ發セサルノ理ナカルヘシ若シ荷積後ニアラサレハ絕對的ニ効力ヲ生セサルモノトセハ其理由ヲ明示セサルヘカラス然ルニ之ヲ爲サ、リシハ不常ナリ原院ハ船長代理資格ヲ以テ甲第一號證ニ引換ヘ荷物ノ受渡ヲ爲シタル事實ヲ度外ニ置キ單ニ荷積ノ前後ノミヲ以テ船荷證書効力ノ發生時期ヲ定メタルハ不法ナリ而シテ原院ハ船荷證書ハ絕對的ニ荷積後ニアラサレハ効力ヲ生セストノ理由及ヒ甲第一號證中ニ「扱人」ヲ置出張所ト記入シタルノ理由トニ依リ上告人カ運送取扱人トシテ獨立シテ荷物ヲ取扱ヒタリト認定シタルモノ甲一號證中ノ「扱人」ハ獨立ノ運送取扱人ヲ指示スルヤ否ヤハ爭點トナラサリシモノニシテ審理ヲ經タルモノニアラス然ルニ甲一號證中ニ扱人トアルヲ以テ直ニ以テ獨立ノ運送取扱人トシテノ記入ト速斷シタルハ審理不盡ノ不法アルモノナリ且ツ原判決ハ一面ヨリ見ルトキハ當事者カ提出セサル事實ニ依リ判斷セシ不法アリト云ヒ又其第三ハ原判決ハ契約法及ヒ船荷證書ニ干スル法則ニ違反シタル不法アリ原判決ハ甲一號證ハ

船長ノ代理資格ニ於テ發行シタル船積證書タルコトヲ認メタリ而シテ船積證書ハ新舊法ニ依ルモ荷積前ニ發スヘカラサルノ禁令アラサルヲ以テ荷積前ニ發シタルモ無効ナルノ理ナシ況ンヤ本件ハ商法施行前ノ事項ニ係ルヲ以テ荷積前ニ發行スルハ一般ノ慣例ナリトス且ツ當事者カ荷物ニ引換唯一ノ證據トシテ授受シタル證書ナルヲ以テ契約法ノ原則ニ依ルモ當事者ハ該證書ニ四記スル合意ヲナシタルモノト看做サ、ルヘカラス然ルニ荷積前ニ發シタル船積證書ヲ無効視シタルハ契約法ニ違背シタル不法アルモノナリト云フニ在リ

然レトモ原判決ニ援用シタル第一審判決事實摘示ニ依レハ被上告人ノ陳述ニ「原告(被上告人)ハ被告(上告人)カ本店ヲ東京ニ支店ヲ大阪ニ置キ貨物運送ヲ業トスル者ナルヨリ云々運送人ヲ委託シ下略」トアルノミナラス原院ノ口頭辯論調書ニ「被控訴代理人(被上告人)ハ甲一號ハ純然タル船積證書ニ非ス荷物カ旺洋丸ニ積込マレタル以上ハ甲一號ノ干係ハ生スルモ夫迄ハ効力ヲ有セス云々第一審調書事實記載ノ部ノ第一問答ヲ援用シ控訴人(上告人)カ運送取扱人ナルコト云々ヲ立證スル旨陳述セリ」トノ記載アルニ由リテ之ヲ觀レハ被上告人カ原院ニ於テ本訴ノ荷物運送ヲ上告人ニ委託シタルハ其運送取扱人ノ資格ニ對シテ爲シタルモノニシテ船長代理ノ資格ニ對シテ爲シタルモノニ非ラサルコトヲ主張シタルコトハ絲毫ノ疑ヲ容ルヘキニ非ス然リ而シテ本訴荷物ノ滅失シタルハ上告人カ之ヲ領收シタル後旺洋丸ニ未タ積込マサル間ニアリタルコトハ當事者間ニ爭ナキ事實ナルハ更ニ原判決ノ確定シタル所ナリ然レハ即チ本訴主要ノ爭點ハ荷物ノ滅失ノ責任ハ運送取扱人タル上告人ニ歸スヘキヤ若クハ旺洋丸ノ船主ニ歸スヘキヤニ在リシコト固ヨリ論ヲ待タス抑モ船積證書ハ荷物ヲ目的ノ船舶ニ未タ積込マサル前ニ於テ作成授受スルモ違法ニ非サルコトハ舊商法及ヒ新商法ノ規定其授受ニ關スル雖モ其之ヲ作成授受スルハ荷物積込ノ後ニシテ其効力ヲ發生スルモ亦然ルヲ以テ通例トスルコトハ其證書ノ性質ナリト云ハサルヲ得ス今原判決ノ旨趣ヲ按スルニ前掲當事者ノ爭點ニ關シテ船積證書ハ荷積後ニ作成授受スヘキモノニシテ其効力ハ荷積後ニ發生スルヲ以テ通例トスル事實ト甲第一號證ニ扱人玉置出張所ト記入シタル事實トヲ綜給考覈シテ以テ本訴荷物ヲ上告人カ領收シタルハ旺洋丸船長代理ノ資格ヲ以テシタルニ非スシテ運送取扱人タル資格ヲ以テシタルモノト判斷シタルニ外ナラサルコトハ原判文上自ラ明瞭ナリ夫既ニ此ノ如ク事實ヲ判斷シタルトキハ甲第一號證ハ船積證書ノ體裁ヲ具備シ且船長代理ノ名稱ヲ記入シタルト雖モ原院カ未タ以テ上告人ノ責任ヲ動カスヘキ證據トスルニ足ラサルモノトシテ之ヲ排斥シタルハ自明ノ理ナ

物損害賠償請求ノ件

ルヲ以テ特ニ之ヲ判示スルノ要ナキモトス故ニ原判決ハ理由具足スルノミナラス別ニ不法ノ廉アルヲ見ス之ヲ要スルニ上告論旨ハ原判決ノ全旨ヲ度外ニ措キ其文詞ノ一截ヲ指斥シテ非難ヲ加フルモノニシテ畢竟原院ノ專權ニ屬スル事實ノ判斷及ヒ證據ノ取捨ヲ攻撃スルニ外ナラスシテ一モ上告ノ理由トスルニ足ルモノ無シ是レ民事訴訟法第四百五十二條及ヒ第七十七條ノ規定ニ從ヒ主文ノ如ク判決スル所以ナリ

四〇

運賃金請求ノ件(明治三十四年(オ)第八十五號  
同年七月九日第一民事部判決)

判決要旨

一船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ積荷カ其船舶ト共ニ不可抗力ニ因リテ沈没シタルトキニ於テ商法第六百十三條第二項ニ所謂運送品ノ價格ヲ超エサル限度トハ滅失シタル積荷ノ價格ヲ控除シタルモノナラサルヘカラス  
(參照)第五百八十七條第一項ニ掲ケタル事由カ航海中ニ生シタルトキハ備船者ハ運送ノ割合ニ應シ運送品ノ價格ヲ超エサル限度ニ於テ運送費ヲ支拂フコトヲ要ス(商法第六百十三條第二項)

第一審 函館地方裁判所

第二審 函館控訴院

上告人 工藤長年 外二名

訴訟代理人 淺 碓 吾

被上告人 春木安右衛門

訴訟代理人 宮田四八

運賃金請求ノ件

右當事者間ノ運賃金請求事件ニ付函館控訴院カ明治三十三年十二月八日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被告上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

原判決ヲ破毀シ更ニ辨論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ函館控訴院ニ差戻ス

理由

上告趣旨ノ第一ハ本件被告上告人ノ請求ハ西洋形帆走船七尾丸ノ函館及露領タムラオ往復ノ約定賃金一千五百圓中既ニ經了シタル里程ニ割當タル數額ニシテ其内金七百五十圓ハ被告上告人カ往復ヲ以テ合意シタル約定運賃中ニ於テ被告上告人ノ既ニ經了シタル函館ヨリ露領タムラオニ達スル運賃即チ往航トシテ悉置ニ之ヲ分割シタルモノナリ元來合意ニ依テ約定シタル金額ニ對シ單ニ一方者タル被告上告人ノ意思ノミヲ以テ分割請求ヲ爲スハ契約ノ法理上容ヌ可ラサルノミナラス此點ニ對スル被告上告人ノ請求タル商法第六百十三條ノ規定ニ依リシ者ニアラサルコトハ原審辨論調書(被告訴訟代理人ハ右ハ商法ノ規定ヲ俟タサルモノトシテ請求セリ)(明治三十三年十一月六日辨論調書)往航ノ分ニ付テハ右商法ノ規定ニ依ラサルモ露領タムラオヨリ鴛鴦泊灣迄ノ分ハ右ノ規

定即商法第六百十三條ニ依據スヘキモノナリトノ事ヲ主張スル次第ナリ(三十三年十一月二十二日辨論調書)ニ據テ明瞭ナリ然ラハ即チ原院ハ宜ク被告上告人ノ一方意思ヲ以テ當事者ノ合意ヲ以テ往復ヲ混一シテ定メタル運賃額ヲ分割シ得ルヤ否ヲ判決スヘキ筋合ナルニ原判決茲ニ出テス(依テ商法ヲ闕スルニ其第六百十三條ニハ)云々説明シ去リ結局商法第六百十三條ノ規定ニ依リ上告人ニ支拂ノ義務ヲ命令シタルハ被告上告人主張ノ原因ニ反シ即チ被告上告人ノ訴旨以外ニ權利ヲ認メタルノ不法アル者ナリト云フニ在リ

按スルニ原判決ニ援用シタル第一審判決ノ事實摘示ニ依レハ被告上告人ハ往航ニ付テハ契約運賃ノ半額七百五十圓ヲ請求シ而シテ上告人ハ運賃ハ往復千五百圓ト契約シタルモノナレハ往航ノ運賃ヲ分割請求スルハ不當ナル旨抗辨シタルニト誠ニ明白ナリ加之訴訟記録ニ依レハ往航ニ付テハ鹽雜貨人夫等ヲ積載シテ目的地港ニ到着シタル事實自ラ明白ナルヲ以テ若シ當事者間契約ノ趣旨ニシテ往航ノ運賃ト復航ノ運賃トハ各別ニ算定スヘキモノト爲サンカ往航ノ運賃ハ復航ノ危難ニ因リテ變更スルノ理ナシ若シ之ニ反シテ往復ノ運賃ヲ各別ニ契約シタルニ非ザランカ徒ニ復航積荷ノ價格及ヒ往復航程ノ多寡ヲ標準トナシ往航ノ積荷乘客ヲ度外ニ置キ以テ運賃ノ數額ヲ判斷スルヲ得サル

ヘシ是故ニ本訴ニ於テ往復ノ運賃ハ各分離計算スルヲ以テ相當トスルヤ否ヤヲ判斷スルニ非サレハ被上告人ノ請求當否ヲ判斷スルコト能ハサルモノト云ハサルヲ得ス然ルニ原判決茲ニ出テス單ニ往復航程ノ哩數ヲ標準ト爲シ以テ被上告人ノ請求ヲ理由アルモノト判斷シタル裁判ニ理由ヲ附セサル不法アルコトヲ免レス

上告趣旨ノ第二ハ原判決ハ當業者ノ爭點ニ對シ商法第六百十三條ヲ適用シ（果シテ然ラハ當初當事者間ニ契約シタル全航路哩數ニ對スル運賃ハ全航路哩數ノ賃金千五百圓ニ比例シタル割合ヲ以テ其運送品ノ價格ヲ超ヘサル限度ニ於テ控訴人ニ支拂ノ義務アル可キハ勿論ナリ而シテ右沈没ニ係リタル荷物ノ全價格カ本案請求ノ金額ヲ支拂フテ猶餘剩アル事前顯控訴人ノ申立ニ依リ明確ナル以上ハ控訴人ニ於テ被控訴人ノ請求ニ應セサル可ラサルハ法律上當然ノ責務ナリトス）ト説明シ上告人ニ業既ニ沈没シテ全然滅盡ニ歸シタル積荷價格ヲ限度トシテ運賃支拂ノ義務ヲ認メタリ按スルニ商法第六百十三條末項ハ沈没後存在スル即チ救助セラレタル運送品ノ價格ヲ限度トス可キ者ニシテ既ニ滅盡シタル當初積載物品ノ價格ヲ限度トス可キ者ニアラサルハ商法第六百十九條第三百三十六條ノ規定ニ對照シ爭フ可ラサル條理ナリ果シテ然ラハ原判決ノ援用シタル證人保險會社員平出定吉ノ陳述ニ係ル救助物品價格金五百十七圓十四錢ヲ限度

ト爲サスシテ既ニ滅盡シタル當初積荷ノ價格ヲ限度ト爲シ上告人ニ義務ヲ言渡シタルハ商法第六百十三條ヲ不法ニ適用シタル者ナリト云ヒ又其第三ハ商法第六百十三條末項ハ上告第二點ニ論スル如ク運送品ノ滅失セサル場合ニ適用セラルヘキ法條ナリ而シテ本件ニ就テハ同條第一項第一號第二號ノ了由カ同時ニ發生シタルモノニシテ原院ニ於テモ原判決理由ノ冒頭ニ「按スルニ甲第一號證ニ記載シアル船舶全部ヲ以テセル運送契約カ當事者間ニ適法ニ成立シタル事右契約ノ目的タル船舶即チ七尾九カ荷物積載ノ儘不可抗力ニ因リ鷲鷲泊灣ニ於テ沈没シタル事云々沈没シタル際積載シ居タル控訴人所有ノ荷物ハ云々之レカ概算價格約金八千八百圓餘ナル事モ亦明瞭ナリトス」トアリ後段ニ「而シテ右沈没ニ係リタル荷物ノ全價額カ本案請求ノ金額ヲ支拂フテ猶ホ餘剩アル事前顯控訴人ノ申立ニ依リ明確ナル以上ハ云々ト判示シ右船舶荷物共同時ニ沈没滅失シタル事實ヲ確定セラレタルモノナレハ商法第六百十三條末項ハ全條適用スルヲ得ス商法第六百十九條第三百三十六條ニ依リ被上告人ハ上告人ニ對シ運賃ヲ請求スル權利ナキモノトス故ニ原判決ハ確定シタル事實ニ法律ヲ適用スルニ當リ法律ニ違背シタルモノナリ即チ本件ノ事實ニ對シテハ商法第六百十九條第三百三十六條ヲ適用スヘキモノナルニ原判決ハ同法第六百十三條ヲ不當ニ適用シタル違法ノ裁判ナリト云フ



ニ在リ

按スルニ本訴ニ於テハ船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルコト及ヒ復航ノ積荷カ其船舶ト共ニ不可抗力ニ因リテ沈没シタルコトハ原判決ニ於テ確定シタル事實ナリ商法第六百十三條第二項ノ規定ニ依レハ船舶ノ沈没ニ因リテ運送契約ノ終了シタル場合ニ於テ備船者ハ運送ノ割合ニ應シ運送品ノ價格ヲ超エサル限度ニ於テ運送貨ヲ戻拂フコトヲ要スト雖モ其第六百十九條ニ依リ同法第三百三十六條ノ規定ハ如上ノ場合ニモ亦準用スヘキコト固ヨリ論ヲ待タサルヲ以テ本訴ノ場合ニ於テハ同法第六百十三條第二項ニ所謂運送品ノ價格ヲ超エサル限度トハ滅失シタル積荷ノ價格ヲ控除シタルモノナラサルヘカラス然ルニ原判決ハ沈没船舶カ危難ノ際積載シタル積荷ノ價格全部ヲ標準トシテ上告人ニ運賃支拂ノ義務アリト爲シタルハ法律ヲ不當ニ適用セサル不法アルコトヲ免レス

上案説明スル如キ理由アルヲ以テ民事訴訟法第四百四十七條第一項及ヒ第四百四十八條第一項ノ規定ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

辨濟金請求ノ件(明治三十四年(オ)第三百二十四號  
同年十二月二十一日第一民事部判決)

判決要旨

一民法施行前ニ於テハ民法第四十三條ノ如キ規定ナカリシカ故ニ商事會社ハ其目的タル營業ノ範圍外ニ於ケル民法上ノ法律行為ト雖モ絕對ニ之ヲ爲スヲ得サル者ニ非ス(參照)法人ハ法令ノ規定ニ從ヒ定款又ハ寄附行為ニ因リテ定マリタル目的ノ範圍内ニ於テ權利ヲ有シ義務ヲ負フ(民法第四十三條)

第一審 東京地方裁判所

第二審 東京控訴院

上告人 共同中牛馬合名會社

右法定代理人 中澤與左衛門

訴訟代理人 丸山名政

被上告人 戸塚平吉

外一名

右當事者間ノ辨濟金請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十四年五月十日言渡シタル判決

辨濟金請求ノ件

ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

原判決ヲ破毀シ更ニ辨論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ「本件ヲ東京控訴院ニ差戻ス

理由

上告理由ノ第一點ハ原院ハ本件控訴會社ハ運送ヲ目的トスルモノニシテ又被控訴人ノ債務ヲ保證セルハ會社ノ業務ニ關係ヲ有セサルコトハ控訴人自ラ陳述ニ徵シテ明白ナレハ控訴會社ノ爲シタル保證契約ハ法律上効力ヲ有セサルモノトス果シテ然ラハ保證人タル資格ニ基ク本件請求ハ其當ヲ得タルモノニアラスト說明セラレタレトモ法人機關カ其一定ノ業務ノ目的以外ニ民法上ノ行爲ヲ爲シ權利義務ノ主體ト爲リ得ヘキコトハ本件保證義務取引ノ訴訟ニ付訴外人倉島庄三郎ヨリ上告人ニ對スル特別擔保義務上告事件ニ於テ御院ノ認メラレタル理由ニ徵シ明白ナル所ナリ然ルニ原院ハ單ニ法人ハ保證義務ヲ負フ能ハスト云フ不當ノ法則ヲ作爲シ以テ上告人ノ請求ヲ斥ケタルハ法律ニ背キ不當ニ法則ヲ適用シタル判決ナリト云フニ在リ  
因リテ按ヌルニ民法第四十三條ニ依レハ法人ハ法令ノ規定ニ從ヒ定款又ハ審附行爲ニ因リテ定マリタル目的ノ範圍内ニ於テ權利ヲ有シ義務ヲ負フヘキモノナレハ商事會社

モ民法施行後ハ其目的ノ範圍内ニ於テハ權利義務ノ主體タルコトヲ得ルモ其範圍外ニ至リテハ決シテ權利義務ノ主體タルコトヲ得ルモノニ非ルハ固ヨリ論ヲ俟タスト強モ民法施行前ニ於テハ別段此ノ如キ規定ナカリシカ故ニ商事會社ハ其目的タル營業ノ範圍外ニ於ケル民法上ノ法律行爲ト雖モ絶體ニ之ヲ爲スヲ得サルモノニ非ルコトハ本院カ從來判例トシテ是認シタル法理ナリトス而シテ本件上告會社ノ爲シタル保證契約ハ明治二十九年四月中ノ成立ニ係ルヲ以テ原判決ノ如ク單ニ上告會社ノ目的タル業務ニ關係ヲ有セサル法律行爲タルノ理由ヲ以テ直ニ之ヲ無効ト爲スコトヲ得ヌ故ニ原判決ハ上告論旨ノ如ク法則ヲ不當ニ適用シタル裁判タルヲ免カレス而シテ此瑕疵ハ原判決全部ヲ破毀スルニ足ルヲ以テ他ノ上告理由ニ對シテハ別ニ辨明ヲ爲スノ要ナシ因リテ本院ハ民事訴訟法第四百四十七條第一項及第四百四十八條第一項ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

玄米引渡請求ノ件(明治三十四年(才)第百六十六號  
同年五月三十日第一民事部判決)

判決要旨

一 運送契約ニ付テハ船長ハ船舶所有者ノ代理人ニシテ船荷證券ヲ發行スルコトモ亦其代理權内ニ在ルモノトス(判旨第一點)  
一 解散シタル株式會社ト雖モ其清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙ホ存續スルモノト看做サハルヘカラス(判旨第二點)  
一 判決ヲ爲シタル年月日ヲ判決原本ニ記載スルコトハ民事訴訟法ニ於ケル必要事項ニ非ス(判旨第三點)

第一審 大阪地方裁判所

第二審 大阪控訴院

上告人 元加能汽船株式會社

右代表者 林 直

訴訟代理人 米田 直作

被上告人 株式會社平田銀行

右代表者 木佐徳五郎

右當事者間ノ玄米引渡請求事件ニ付大阪控訴院カ明治三十四年二月二十六日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告論旨ノ第一ハ原判決ハ「當事者双方カ事實上ノ供述ハ第一審判決書ノ事實摘示ト同一ナルヲ以テ之ヲ引用スト爲ス而シテ第一審判決書記載ノ事實摘示ニ依レハ其主張ノ要旨ハ被告會社所有汽船加能丸船長津田喜三平ハ明治三十二年五月二十七日鳥取縣境港ニ於テ訴外人川島國藏ト同印玄米四百五十俵(石數百八十石)此代價一千三百九十五圓ノモノヲ運送賃金七十三圓八十錢ニテ大阪市ニ運送シ荷扱人<sup>㊦</sup>廻漕店事能村和三郎方ニ於テ授受スヘキ運送契約ヲ締結シ甲第一號證ノ船荷證券ヲ發行シ之ヲ國藏ニ交付セリ後原告ハ明治三十二年五月二十八日右船荷證券ヲ川島國藏ヨリ裏書讓渡ヲ受ケ其所持人トナリ明治三十三年六月一日大阪川口ニ碇泊セル加能丸ニ於テ船長ニ出會シ玄米ノ引渡ヲ求メタルニ應セス而シテ被告ハ該玄米ハ既ニ他ヘ引渡シ今ヤ現物存セ

玄米引渡請求ノ件

サルコトヲ主張スルニ付キ其引渡ニ換ヘ其代金ヲ請求スルモノナリ」云々トアルカ故ニ原船荷ハ事實上ニ於テ被告會社所有汽船加能丸船長津田喜三平ナルモノヨリ發行シタル判決證書ノ効果ニ關スル訴訟ナルコトヲ認メナカラ何故ニ被告會社ハ自己所有汽船ノ船長ヨリ發行シタル船荷證書ニ拘束セラ其效果ヲ負擔スヘキモノナルヤノ理由ヲ明示セズ詳言スレハ原判決ノ認メタル事實即チ汽船加能丸船長ナル肩書ヲ有スルニ過キサル津田喜三平ナルモノト訴外人川島國藏ナル者トノ間ニ締結セラレタル運送契約並ニ之ヲ伴ヒ發行セラレタル船荷證書ノ效果ヲシテ此點ニ付キ毫モ理由ヲ付スルコトナリ直チニ上告人ニ及ヲト判斷セラレタルハ所謂契約ハ第三者ヲ利セス又夕害セストノ法則ニ背クニアラサレハ理由不備ノ裁判ニシテ結局不法ノ裁判ナリト確信スト云フニ在リ

然レトモ運送契約ニ付テハ船長ハ船舶所有者ノ代理人ニシテ船荷證券ヲ發行スルコトモ亦其代理權内ニ在リ本件甲第一號證券船荷證券ヲ發行シタル津田喜三平ナル者ハ上告人ノ所有汽船加能丸ノ船長タリシ事實ハ當事者間ニ爭ナキ所ナルヲ以テ右證券ニ關シ生シタル責任ハ上告人ニ在ルコトヲ認メタル原院ノ判旨ニハ上告論旨ノ如キ不法アルコトナシ

其第二ハ原判決ノ認メタル事實ニ依レハ本件上告人ハ元加能汽船株式會社ニシテ清算人ニ於テ之ヲ代表シタルモノナリ故ニ原判決ハ本件ノ上告人ハ既ニ解散セラレタル會社ナルコトヲ認ムルニ係ラス上告人ニ義務アリト判斷シタルモノナリ然レトモ會社カ解散後尙其義務ヲ負擔セサルヘカラサルハ何故ナリヤ若シ假リニ尙ホ存続スルモノト看做サル、ヲ以テナリトセハ如何ナル理由ニ依テ存続スルヤ即チ清算目的ノ範圍内ナルヤ否ヤノ點ニ付キ先ツ審理ヲ爲スヘキニ事茲ニ出テス加之此點ニ付キ毫モ理由ヲ付セス從テ審理不盡ノ裁判タルコト同時ニ理由不備ノ不法アリト云フニ在リ

然レトモ解散シタル株式會社ト雖モ其清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙存続スルモノト看做サルヘカラス而シテ本訴ハ上告人ノ營業ニ關シ生シタルモノナルニ由リ其清算ノ目的ノ範圍内ニ在ルコト辨ヲ俟タス故ニ原院ニ於テ上告人ハ尙存在スルモノトノ說明ヲ爲サ、リシモ判決ニ理由ヲ付セサル不法アリト云フヘカラス

其第三ハ原判決正本ニ依レハ「原本ニ依リ此正本ヲ作ル」云々トアリ從テ原本ト正本ト差違ナキモノナルヘシ今其正本ヲ見ルニ判決ヲ爲シタル年月日ノ記載ヲ欠ク抑モ判決ヲ爲シタル年月日ノ記載ハ民事訴訟法上明カニ判決ニ掲クヘキ要件タリト規定セサルモ判決ノ實質上欠クヘカラサルモノタルヲ信シテ疑ハス假令其言渡サレタル期日ハ

調書ニ依リテ之ヲ知ルコトヲ得ルモ尙其判決シタル日時ヲ明確ニセサルヘカラサルモノナリ何トナレハ所謂主文ノ如ク判決スト云ヘル判断ノ終了シタル日時ト言渡ノ日時トハ決シテ同時タルヘキモノニ非スシテ却テ事實上時ヲ異ニセサレハ不能ニ屬ス特ニ合議裁判所ニ於テハ殊ニ然リト爲ス即チ判決ノ言渡ハ裁判長ノ司ル所ニシテ判決ハ必ス基本タル辨論ニ參與シタル各判事ノ評議ニ出ツルコトヲ要スルカ故ナリ然ルニ此判断ノ終局シタル日時ヲ知ルコトヲ得サルモノトセン乎假令基本タル辨論ニ關與シタル判事ニ於テ判決シアルモ其判断ハ未タ基本タル辨論ヲ經サル以前ニ先タチ豫斷的ニ決定セラレアリタルモノナルヤ知ルヘカラサルニ至ルノミナラス裁判所構成法ノ法意ニ背反スルモノト云フヘシ民事訴訟法ニ於テ之ヲ要件ト爲スノ規定ナキハ惟フニ言フ要セサルノ法意ナリ然ルニ原判決ハ此判決シタル年月日ヲ知ルニ由ナキカ故ニ即チ判決ノ要素ヲ欠クノ不法アリト云フニ在リ

然レトモ判決ヲ爲シタル年月日ヲ判決原本ニ記載スルコトハ民事訴訟法ニ於ケル必要事項ニ非ラサルノミナラス之ヲ記載スルコトハ上告論旨ノ如ク必要アルモノニ非ス何トナレハ判決ニ接者スル口頭辨論ヲ聞キタル判事カ判決ヲ爲シタルヤ否ハ判決原本及ヒ口頭辨論調書ヲ査閱スルトキハ容易ニ之ヲ確ムルコトヲ得レハナリ故ニ上告代理人

カ陳述スル如キハ架空ノ想像ニシテ固ヨリ適法ナル上告ノ理由トシテ採ルニ足ラサルモノトス

其第四ハ原判決ハ法律ニ違背シテ事實ヲ確定シタルノ不法アリ即チ本件甲第一號證ノ文中荷受人木谷菊次郎殿トアル點並ニ前書ノ通積荷候云々トアルコトヲ原判決カ認ムルノミナラス同號證中右荷物ハ云々荷受人若クハ荷受人ノ指圖セラレタル人ヘ引渡スヘク荷物依托者ハ之ヲ承認スルモノト認ムトノ明記ヲ乙第一號證トシテ上告人カ援用シ其成立ニ付テハ被上告人又タ之ヲ争ハサリシモノナルコトモ亦タ原判決ノ認ムル所ナリ是ニ依リテ見レハ本件船荷證書ノ債權ハ當事者ノ契約ニ因ル指圖式債權タルコト明カナルニ係ラス此特約事項ヲ無視シテ之ヲ無記名式ナリト判断セラレタルハ重要ナル證據ノ趣旨ヲ無視シタルモノニシテ結局法則ヲ不當ニ適用シタル不法アリト云ヒ

其第五ハ原判決ハ被上告人カ本件船荷證書ヲ荷出人タル訴外人川島國藏ナルモノ、裏書ニ依リ取得シタル事實ヲ認ムルモノナリ然ルニ該船荷證書ハ前記第五點ニ於テ陳述スルカ如ク荷受人ニ對スル指圖式ノモノナルカ故ニ裏書ヲ爲シ得ヘキモノ唯リ荷受人タル木谷菊次郎ノミナルヲ以テ被上告人カ荷受人ニ非ス從テ斯ル裏書ヲ爲ス權能ナキ訴外人川島國藏ナルモノヨリ裏書ニ依リテ讓受タルモノ以テ上告人ニ對抗スルコトヲ得

ヘカラサル條理ナルニモ係ラス原判決カ「控訴人カ該證書ノ裏書讓渡ヲ否認スルモ第  
三者間ニ成立シタルノ事項ニ係リ單ニ控訴人ノ否認ノ爲メ證據力ヲ失フヘキモノニア  
ラサルノミナラス云々ト説明シ以テ權能ナキ者ノ爲シタル裏書ヲ有効視シタルハ法則  
ヲ不當ニ適用シタル違法ノ裁判ナリト云フニ在リ  
然レトモ原判決ノ趣旨ハ被上告人ヨリ提出シタル甲第一號證ノ文詞ハ同一證券ニ在ル  
他ノ部分ニシテ乙第一號證トシ上告人ノ差出シタル記載ト相牴觸シ兩立スヘカラサル  
事迹ニ鑑ミ係爭證券ニ於テハ乙一號證ニ在ル文詞ハ其効用ナキモノト認定シ此認定ニ  
基キ被上告人ハ證券所持人タル川島國藏ヨリ正當ニ其權利ノ讓渡ヲ受ケタル者ナリト  
認定シタルニ在ルコトハ「被控訴人カ證據トスル部分ノ記載ニ依レハ云々其無記名式  
タルコト明瞭ナリ云々然ルニ同證中控訴人（上告人）カ乙一號證トシ援用スル部分ニ云  
々此文字ヲ有効トセハ本文中前掲摘示ノ文意ト相牴觸スルカ如シト雖モ云々爾カク解  
スルトキハ前後文詞ノ牴觸ハ之ヲ取除クコトヲ得テ亦タ契約當事者ノ意志ニモ能ク適  
合スルモノト認ム」云々ノ判示ニ依リ明カニシテ此認定判斷ニ依レハ甲第一號證ナル  
船荷證券ノ所持人ハ則チ其證券ニ於ケル正當權利者ナリト推定セサルヘカラス故ニ原  
判文理由中ニハ無記名證券ナリト認定シタル證書ヲ裏面ニ依リ移轉シタルモノ、如ク

「而シテ控訴人該證書ノ裏書讓渡ヲ否認スルモ云々」ノ説明アリテ理由齟齬ノ嫌ナキ  
ニ非ラサルモ無名證券ニ依ル權利ハ其占有ノ移付ニ因リテ移轉シ得ヘキモノナルヲ以  
テ被上告人ニ於テ之ヲ占有スル以上ハ原院ノ是認シタル裏書ノ當否ニ拘ハラヌ本訴ニ  
於ケル被上告人ノ請求ヲ正當ナリトスルニ妨アルコトナシ從テ上告代理人ノ本論旨  
ハ何レモ適法ノ上告理由トナラス

其第六ハ凡ソ損害賠償ノ請求ハ民法ノ規定ニ依レハ債務ノ本旨ニ從ヒタル履行ヲ爲サ  
ルニ因ルモノト債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ依リテ履行ヲ爲スコト能ハサルニ至リ  
タルモノト不法行為ヲ原因トスルモノト三アリ故ニ本件ノ如キ賠償ハ其原因ヲ審理シ  
且ツ明示スルコトヲ要ス何トナレハ若シ債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ履行ヲ爲  
スコト能ハサルニ至リタルコトヲ原因トスルモノナランニハ果シテ債務者ノ責任ニ歸  
スヘキ事由アルヤ否ヤヲ審訊セサルヲ得サレハナリ然ルニ原判決ハ此等ノ點ニ付キ毫  
モ顧慮スル所ナキカ故ニ結局審理不盡ニアラサレハ理由不備ノ裁判タルヲ免レスト云  
フニ在リ

然レトモ本訴ハ上告人ノ代理人タル船長カ代理權限内ニ於テ發行シタル船荷證券ノ趣  
旨ニ背キ被上告人ニ引渡スヘキ貨物ヲ引渡サ、ル違約アリトシ上告人ニ對シ賠償ヲ求

ムルニ在ルヲ以テ其原因自ラ明白ニシテ特ニ其説由ヲ爲スコトヲ要セス故ニ本論旨ハ上告ノ理由トナラス

其第七ハ舊商法第九百一條第三項ノ趣旨ニ依レハ本件ノ如キ場合ニ於テ船長ノ過失ニ原由セラレサル事項ニ依リテ生シタル損害ハ凡テ船長ニ於テ負擔スルノ責任ナキモノト爲ス今本件ノ事實關係ヲ觀察スルニ上告人ハ船荷證書ニ指定セラレタル荷受人ニ貨物ヲ引渡シタリト主張シ被上告人亦タ之ヲ爭ハサルノミナラス新商法ノ規定ニ徴スルモ商慣習ニ鑑ミルモ決シテ船長ハ船荷證書ト引換ニ貨物ヲ引渡スコトヲ要スルモノニアラス果シテ然ラハ上告人ハ毫モ過失ナキモノナリ從フテ其責任ヲ負擔スヘキモノニアラス然ルニ原判決ハ此點ニ關スル重要ナル事實上ノ判決ニ付キ商法ヲ遺脱シタル不當アルカ故ニ法律ニ違背シタル裁判ナリト云フニ在リ  
然レトモ船荷證券ヲ發行シタル場合ニ於テハ之ト引換ニ貨物ノ引渡ヲ爲スコトヲ要スルハ舊商法第九百二條ニ依ルモ亦同シ而シテ本件ハ舊商法ノ規定ニ依ルヘキ場合ニシテ此規定ニ反スル慣習ノ認ムヘキモノナシ故ニ被上告論旨モ亦上告ノ理由トスルニ足ラス

以上説明ノ如ク上告論旨ハ何レモ適當ノ上告理由トスルニ足ラサルニ因リ民事訴訟法

第四百三十九條第一項ニ依リ主文ノ如ク判決ス

損害要償ノ件(明治三十三年(オ)第四百十七號)

判決要旨

一船舶沈没ノ場合ニ於テ船舶所有者ノ責任ハ船舶ノミナラス其保險金ニ及フヘキコト  
ハ舊商法施行前ニ於テモ是認シタル法理ナリ

第一審大阪地方裁判所

第二審大阪控訴院

上告人 廣海二三郎

訴訟代理人 長島鷲太郎

被上告人 長崎委託株式會社

訴訟代理人 高木豊三

右法定代理人古賀祐一

訴訟代理人 大鐘産市

被上告人 島谷徳三郎

訴訟代理人 高窪喜八

外一名

右當事者間ノ損害要償事件ニ付大阪控訴院カ明治三十三年六月四日言渡シタル判決ニ  
對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

上告ニ係ル訴訟費用ハ上告人之ヲ負擔ス可シ

理由

上告論旨第一點ノ要旨ハ本件ハ商法施行以前ノ出來事ニ屬ス當時海商ニ關スル法則ノ  
明定セラル、ナキヲ以テ船舶所有者ノ責任ノ程度ノ如キニ文明先進國ニ行ハル、法則  
ヲ採用シタル明カナリ本件請求ノ原因ニ關シ船舶及ヒ運送貨限責任ヲ負擔トスヘシ裁  
判シタル者實ニ其一例證タリ而シテ本件唯一ノ爭點タル保險金負擔論ノ如キハ畢竟船  
船ナル文字ノ解釋ニ屬スヘシト雖モ船舶ノ語タル讀ンテ字ノ如ケレハ船舶所有者ノ責  
任ノ保險金ニ及フヘキヤ否ヤハ一般海商法ノ原則ニ照シテ判斷スルノ他途ナキナリ然  
ルニ文明先進國ノ法則ハ却テ原院ノ說示ニ反對スルモノアルヲ見ル即チ(第一)獨逸帝  
國商法第四百五十二條ハ船舶所有者ハ第三者ノ債權ニ對シ無限ノ責任ヲ有セスシテ單  
ニ船舶及運送貨限義務ヲ負擔スルコトヲ規定ス而シテ此法條ノ解釋トシテハ船舶所有  
者ノ責任ヲシテ保險金ニ迄及ホスヘカラストス何ントナレハ船舶ノ沈没ノ場合ニ於テ  
保險金ヲ以テ船舶ニ代ヘ船舶債權者ニ對スル義務ヲ負擔セシメントノ動議ハ屢々委員  
會ニ提出セラレタルモ終其採用スルトコロトナラサリシ(マコーウエル獨逸商法ノ註  
解第五百十九頁參照)而シテ獨逸商法ニ則リタル我舊商法第八百五十八條ハ明文ヲ以



テ船舶債權者ノ權利ノ被保險額ニ及フヘキヲ規定ス畢竟此規定シタル獨逸商法起草委員會ノ否定シタル勸諭ヲ、ロースレル氏カ維助棄ツヘカラストシテ我國ニ採用シタル者ナル事ハ、ロースレル氏商法草案ニ掲ケル事由中ニ明ラカナリ之ヲ以テ見レハ被保險額ノ責任負擔ハ法律ノ明定ヲ要シ普通ノ法理トシテ論スヘキモノニアラス(第二)我カ新商法第五百四十四條ハ船舶所有者ハ船長カ其法定ノ權限内ニ於テ爲シタル行爲又ハ船長其他ノ船員カ其職務ヲ行フニ當リ他入ニ加ヘタル損害ニ付テハ航海ノ終ニ於テ船舶運送貨及ヒ船舶所有者カ其船舶ニ付キ有スル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ヲ債權者ニ委付シテ其責ヲ免カル、コトヲ得ト規定ス此條文ノ應用トシテ船舶所有者ノ責任ヲシテ被保險額ニ及ホスヘキヤ否ヤヲ論究スルニ不幸我新商法ニ關シテハ委員會ノ經過ヲ報告スルモノナキヲ以テ之ヲ起草委員ニ質スノ止ムヲ得サルナリ今上告人ニ於テ該會ノ概様ヲ承聞スルニ當時被保險金云々ノ文字挿入セントノ勸諭アリタルモ遂ニ否決セラレタリト而シテ又損害賠償ノ如キハ其原因過失ニ基ツク場合ヲ稱シ保險金ニアリテハ殊更ニ損害ノ填補ノ文字ヲ用キテ過失ニ基ツク損害賠償ト區別シタルハ損害賠償ノ文字中保險金ノ包含セラレサルハ固ヨリ論ナシトハ亦親シク起草委員ヨリ聞クトコロナリ之レヲ以テ見レハ何等明文ナキ現行商法ニアリテハ船舶所有者ノ責任ヲ保險金ニ

及フヘカラサルハ敢テ論スル迄モナシ抑モ本件爭點ニ關スル判斷ノ如キ新商法ヲ解釋スルノ試金石タルヘキモノナレハ己ニ新商法ニ所謂船舶ナル文字ニシテ保險金ヲ包含セストセハ保險金負擔論ハ須ラク明文ヲ待ツヘク所謂至當ノ條理トシテ之ヲ論スヘキニアラス要之原現カ被保險金ハ其目的物ト同視スヘキモノトス云々被控訴人ハ之ニ對シ其權利ヲ行ヒ得ヘキハ當然ニシテ法規ヲ待ツテ後知ルヘキニアラスト説示セラレタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル不法アリト云ヒ「第二點ノ要旨ハ船舶所有者ノ責任カ海産ニ止マリ其他ニ及フヘカラサルトノ説所謂責任限定主義ト船舶所有者ハ其全財産ヲ以テ責任ヲ負擔スヘキモノナルモ其海産ヲ委付シテ責任ヲ免カル、コトヲ得ルトノ説所謂委付權主義トハ其ニ海商法ノ大原則タリ獨逸商法及我舊商法ハ責任限定主義ヲ取ルモノニシテ現行商法ハ委付權主義ヲ取ルモノナリ然レトモ其熟レニ因ルモ船舶所有者ノ責任カ海産ニ止マルヘキヤ論ナシ今夫委付權主義ニ因リ船舶所有者カ委付セントスル船舶現在ノ價ニ萬圓ニシテ此船舶沈没以前ニ於ケル被保險額十萬圓ナリトセン然ルニ船舶所有者ノ責任カ船舶ノ委付ニ止マラスシテ保險額ニ及フヘシトセハ所謂委付權主義ナル者遂ニ破壞セラレ、ニ至ルヘシ現行商法ノ解釋豈此ノ如クアルヘケンヤ委付主義ニシテ然リ責任限定主義モ亦同一ナルヘキノミ又況ンヤ商法制定以前ニ於テ專

ラ至當ノ法理ニ基キ裁判セル時代ニ於テオヤ要スルニ原院カ船舶所有者ノ責任ヲシテ  
 被保險額ニ及フヘシト説示シタルモノ實ニ法則ヲ不當ニ適用シタルノ不法アリト云  
 ヒ」其第三點ハ保險ハ損害ノ填補ニシテ損害ノ賠償ニアラス即チ特別ノ注意ニ因リ他  
 日ノ損害ヲ填補セントスルモノ是ナリ若シ夫レ船舶所有者ニシテ必ス船舶ヲ保險ニ付  
 セサルヘカラサルノ責任ヲ有スルモノトセハ或ハ沈没セル船舶ニ代ヘ被保險額ヲ以テ  
 船舶所有者ノ責任ヲ來サシムル必シモ之ヲ不當ト論斷スルヲ得スト雖モ抑モ船舶ヲ保  
 險ニ付スル所以ノモノハ實ニ船舶所有者カ自己ノ損失ヲ免レン爲メニ特別ノ注意ヲ施  
 スニ他ナラス然ルニ尙ホ海產委付ニ止マラス船舶所有者ノ責任ヲシテ其特別ノ注意ト  
 特別ノ報酬トニ因リ得タル利益ニ迄及フヘシトセハ船舶所有者ヲシテ船舶ヲ保險ニ  
 付シタルノ理由全ク滅却セララル、ニ至ラン要之原院ノ判決タル法則ヲ不當ニ適用シタ  
 ルノ不法アリト云ヒ」其第四點ハ本件斷案ノ基礎タルヘキ論點即チ船主ノ責任ハ其全  
 財産ニ及フヘキヤ將タ瀛船奈良丸限リ之レヲ負擔スヘキモノナルヤノ問題ハ原院判決  
 由ノ第三項ニ於テ「控訴人ハ被控訴人ノ損害ニ對シ瀛船奈良丸限リ責任ヲ負フヘキハ  
 中間判決ニ因テ確定スル所ナリトノ判文ニ依テ解釋セラレタリ而シテ此判定ハ現行商  
 法採ル所ノ大主義即チ第五百四十四條ノ規定ニ適合スルモノニシテ毫モ間然スヘキ所

ナシ然レトモ其本件主要ノ争點ニ對シ船舶ノ保險金ヲ以テ之レヲ船舶ト同視シ從テ其  
 保險金ヲ以テ本訴ノ請求ニ應スヘキモノナリト判決シタルニ至テハ全ク法理法則ヲ度  
 外視シタル違法ノ判決ト云ハサルヘカラス原院判決ハ曰ク保險契約ハ常ニ被保險物ニ伴  
 隨シ被保險金ハ其目的物ト同視スヘキ性質ノモノトス」ト抑モ海上保險契約ニ關シ法  
 律ニ所謂航海ニ關スル事故ハ保險目的物ノ滅失又ハ毀損ニ繋リ又保險金額カ其目的物  
 ノ被害價額ヲ標準ト爲スヘキコトハ論ヲ俟タサル所ナリ然レトモ其此等ノ關係アルカ  
 爲メニ保險契約當事者以外ノ第三者ニ對シテ保險金ヲ以テ保險ノ目的物ト同視スヘキ  
 モノナリト云フニ至テハ抑何等ノ法理ニ基クモノナルヤヲ知ルコト能ハス蓋シ此論斷  
 ノ根據タルヘキ法理法則ノ在テ存セサルコトハ單ニ「其目的物ト同視スヘキ性質ノモ  
 ノ」ト云フノミニ止マレルヲ以テ推知スヘキナリ思フニ原院裁判所ハ或判例ノ如ク保險  
 金ヲ以テ之レヲ賣買ノ場合ニ於ケル代價金ト同視シタルモノナラン果シテ然ラハ是此  
 認誤ヲ來シタル根原ニシテ而シテ其不當ナルコトハ寔ニ視易キ所ナリ何則賣買ノ代價  
 ハ其目的物ノ對價ナリ故ニ其賣買當事者若クハ先取特權者ニ對シテハ其對價ヲ以テ目  
 的物ト同視スヘキ法理アリト雖トモ本件ノ如キ保險契約ノ場合ニ在テハ全ク之ト異リ  
 保險者ハ保險料ヲ收得スルヲ以テ目的トシ被保險者ハ危險ノ擔保ヲ得ルヲ以テ目的ト

爲ス故ニ保險金ナルモノハ保險ノ目的タル船舶ノ對價ニアラスシテ保險料ノ對價ナリ  
 尙ホ詳言スレハ保險契約ハ危險ノ擔保ト保險料支拂トノ雙務契約ニシテ唯其保險金支  
 拂義務ノ發生ノ條件カ航海ニ關スル事故ニ繫リ而シテ事故カ船舶ノ滅失又ハ毀損ニ因  
 リテ生シ填補スヘキ損害ノ契約金額カ其船舶ノ價額ヲ以テ其標準ト爲スモノナルノミ  
 原裁判所ハ此法理ヲ解セス又上告人カ不慮ノ損害ノ填補ヲ得タルハ法律ニ定メタル特  
 別ノ注意即チ保險料ヲ支拂ヒタル保險契約ノ結果ナルコト又被上告人カ損害補償ノ途  
 ナキニ至リタルハ畢竟法律ノ定メタル注意ノ方法ヲ採ラス即チ保險料ヲ惜ミテ貨物ノ  
 保險契約ヲ爲ササリシ結果ナルコトヲ推究セス非法不理ノ觀察ヲ以テ漫然判決シ去リ  
 タルモノナルコトハ判文末段ニ於テ「右遭難貨物ノ總元價ヲ以テ前掲被保險保金ニ對比  
 スルトキハ總元價ヲ償フテ尙ホ餘リアリ是以各被控訴人ノ請求ヲ相當ト認メ云々」ト  
 ノ說明ニ依テ明カナリ是レ猶ホ貧者ノ請求ハ不當ト雖モ富者ハ之レヲ辨償セサルヘカ  
 ラスト云フト一般ニシテ法治國裁判所ノ判決ノ理由タルヘキモノニ非スシテ實ニ甚シ  
 キ不法ノ判決ト云ハサルヘカラス以上論述セル如ク原判決ハ其理由中現行ノ法則ハ固  
 ヲリ何等ノ法理ヲモ説示セス是レ其明示スヘキ法則ナキカ故ナルコトハ明カナル所ナ  
 リト雖モ茲ニ原判決ト大抵其趣旨ヲ同クセル大審院ノ判決例アリ即チ明治三十一年第

四百三十四同三十二年六月二十日判決是ナリ此判決ニ於テ採用セラレタル上告論旨ヲ  
 見ルニ第一、船舶ノ保險金ヲ以テ船舶ノ賣代金ト同視シ第二、我國古來ノ習慣ハ所謂  
 荷損船損ニ在ルコト即チ今日ニ所謂海產主義ナルコトヲ認メナカラ船舶ノ被保險金ヲ  
 以テ所謂海產中ニ包含セシメタルモノニシテ不當ノ上告タルニモ拘ハラズ大審院ハ此  
 論旨ヲ是認シテ破毀ノ理由トセラレタリ其判決ノ主旨ヲ見ルニ先ツ荷損船損ハ我國古  
 來ノ慣習ナルコトヲ認メタルト同時ニ其船舶ノ爲メ船主カ得ル所ノモノアレハ之レヲ  
 以テ乘客若クハ荷主ニ對スル損害ニ充テシムルコトモ亦別例トシテ認ムル所ナリト説  
 明シ次ニ船舶ノ保險ハ船舶ニ隨伴スルコト自己ノ利害ノ關係アル目的ニ付テノミ保險  
 ニ付スルヲ要スルコト及ヒ讓渡ノ場合ノコトヲ説示シ殊ニ海上保險ノ如キハ船舶若ク  
 ハ積荷カ不慮ノ事變ニ遭遇スルノ虞アルヲ以テ之レヲ補償セントシテ保險ニ付スルヲ  
 一般トスト論定シタリ今此前提トモ謂フヘキ論定ヲ讀ミテ文字ノ如ク解スルニ於テハ  
 全然正當ノ法理ヲ説明シタルモノト見ルコトヲ得ヘシ即チ所謂「船舶ノ爲メ船主ノ得  
 ル所ノモノ」トハ各國普通ノ法理トシテ認ムル所ノ如ク殊ニ我現行商法第五百四十四  
 條ノ示ス所ノ如ク運送貨及損害賠償(特別ノ契約ニ基ク保險金ヲ包マス)又ハ報酬ノ請  
 求權ト解シ船舶ノ保險ト積荷ノ保險トハ各別箇ノモノニシテ船舶ノ保險ハ積荷ノ保險

ニアラス積荷ノ保險ハ船體ノ保險ニ非ルコトヲ知了シタルモノトシテ解スルトキハ毫モ間然スル所ナシ然ルニ「若シ夫レ」以下此法則ヲ適用スルニ際リ保險契約ノ性質其目的物ニ隨伴スヘキモノナルカ故ニ保險契約當事者ノミノ單純ナル法律關係ト看做ス事ヲ得サル筋合ニシテ其被保險金アレハ上告人ノ損害賠償ニ充當セシメサルヲ得サルモノトスト斷定シ去リタルニ至テハ之レヲ不當ト謂ハサルヲ得ス何則保險金支拂ヒノ義務カ船舶ノ沈没若クハ毀損ノ事故ニ繫ルカ故ニ船體ニ付スル保險ハ當事者間ノミノ法律關係ト看ルコトヲ得ストノ理由ヲ以テ船體保險カ積荷保險ト性質ヲ變シ其保險金ハ全ク保險契約ニ關係ナキ荷主ノ損害賠償ニ充當スヘキモノナリトノ論理ヲ發見スルコト能ハサレハナリ此判決ハ其當時ニ於テ仮リニ正當ナル理由アリシモノトスルモ最早新商法ノ主義解釋共ニ定論アリ此定論ヲ信憑シテ各其業ニ安ンスル今日ニ至テハ斯ノ如キ判例ヲ維持セラルヘキニアラス若シ又此判例ニシテ永ク維持セラル、コトアラシカ漸ク將ニ發達セントスル所ノ航海業ヲシテ全ク其進路ヲ杜絶スルニ至ルヘキノミナラス現在ノ營業者モ亦其業ヲ廢セサルモノアラシク其理由ノ一二ヲ例示スレハ第一航海業ナルモノハ大資本ヲ要スル營業ニテ又尤モ危險多キ營業ナリ保險ノ契約ハ此危險ヲ擔保シテ資本ノ損失ヲ防カン爲メニスルモノナリ然ルニ若シ之レヲ保險ニ付ス

ルモ保險金ハ之レヲ積荷ノ損害ニ充當スヘキモノトスレハ此危險ヲ擔保スルノ途ナク從テ大資本ヲ下ロシテ危險ノ營業ヲ爲ス者ナキニ至ルヘシ第二現行商法ニ所謂海上保險契約ナルモノハ當事者ノ同一ナル場合ニ於テハ船舶ノ保險契約ト積荷ノ保險ヲ併セテ同時ニ之レヲ行フコトヲ得ヘシト雖モ荷モ其當事者ノ異ナル場合ニ於テハ船舶ノ保險ト積荷ノ保險トハ彼此全ク各別個ノモノタルコトハ第六百五十六條以下ノ各條ノ規定ニ依テ明カナル所ナリ然ルニ若シ前判例ヲ維持シ原判決ヲ維持セラル、コトナルニ於テハ船主ハ常ニ其搭載スヘキ貨物ノ價格ヲ見込ミテ之レヲ保險ニ付セサルヘカラス而シテ若シ仮リニ之レヲ豫定シテ契約スルモノトスルモ船舶積荷ノ見込價額ハ商法第三百八十六條ノ規定ニ依リテ無効トナルヘシ若シ又船舶ノ保險ヲ以テ積荷ノ賠償ニ充當セラルヘキモノトスレハ荷主ハ自カラ保險料ヲ拂ヒテ貨物ノ保險ヲ爲スノ必要ナシ從テ又船主ニ於テ船舶ノ害損填補ヲ得ント欲セハ必スヤ常ニ自カラ積荷ニ對スル保險ヲモ契約セサルヘカラス從テ其運賃中ニハ保險料ヲモ包含セシメサルヘカラス然ルトキハ通常多クノ場合ニ於テ保險ヲ必要トセサル荷主モ亦却テ非常ノ損害ヲ受クルニ至ルヘシ第三船舶ノ保險ニシテ積荷ノ損害ヲ負擔スルモノトスレハ船主ハ其船舶ヲ抵當トシテ金融ヲ爲スノ途ヲ杜絶セラル、ニ至ル等ノ弊害アリ以上ハ當事者ノ堪フヘカラ

サル結果ノ一端ニ過キスト雖モ既ニ此レノミニシテ航海業ノ發達ニ大障害ヲ來スヘキヲ以テ上告人ハ本件金額ノ僅少ナルニモ不拘第一審第二審共ニ敗訴ノ判決ヲ受ケタルニモ拘ハラズ反對ノ判例アルニモ拘ハラズ全國同業者ノ爲メ否ナ本邦船海業ノ發達ヲ希望スルカ爲メニ敢テ上告ニ及フモノナリト云フニ在リ

按スルニ本件ハ明治三十年十二月中即舊商法施行前ニ生シタル事項ニ係ルヲ以テ直ニ舊商法又ハ現行商法ノ規定ヲ適用シテ斷案スヘキモノニ非ス又古來所請荷損船損ト稱スル慣習アルト雖モ船舶所有者カ其沈没タル船舶ノ保險金ヲ取得シタル場合ハ其責任ハ果シテ保險金ニモ及フヘキヤ否ヤノ點ニ付キテハ何等ノ慣習アルコトヲ見サルニ依リ本件ハ慣習ニ依リテ之ヲ斷案スルニ由ナシ而シテ歐米諸國ノ法律ヲ按スルニ本件ノ如キ場合ニ於ル船舶所有者ノ責任ハ或ハ其船舶ノ保險金ニ及フト爲シ或ハ之ニ及ハスト爲シ彼此一定セサルヲ以テ其一ヲ採リ直ニ海商法上普通ノ原則ナリト云フコトヲ得サルハ勿論ナレハ其孰レカ果シテ最モ條理ニ適スル法則ナルヤ否ヤヲ審案シテ其最モ條理ニ適スルモノヲ以テ本件斷案ノ準繩ト爲サヘルヘカラス而シテ其孰レカ最モ條理ニ適スルヤ否ヤハ保險金ハ其保險ノ目的物タル船舶ト同視スヘキモノナルヤ否ヤノ問題ノ解決ニ因リテ定マルモノナリ而シテ之ヲ解決スルニハ坐上ノ空理ノミニ依ラスシ

ヲ其當時ニ於クル本邦海商取引ノ實狀及ヒ海商事取引者一般普通ノ意思如何ヲ討尋シ之ヲ參酌スルコトヲ要スルハ固ヨリ論ヲ竣タス然リ而シテ一片ノ理論ヨリ立論セハ保險ノ目的物タル船舶ト其保險金トハ同視スヘキモノニ非スト爲スコトヲ得サルニ非ツルモ明治二十三年三月二十七日ヲ以テ公布セラレ同三十一年七月一日ヨリ現行商法施行ノ日マテ實施セラレタル舊商法ハ保險金ハ保險ノ目的物ニ代ルヘキモノニシテ彼ト此ト同視スヘキモノナリトノ主義ヲ採リタルコトハ其第六百四十條及第八百五十八條第一項ノ規定ニ徴シテモ之ヲ知ルニ難カラス而シテ舊商法カ此主義ヲ採用シタルハ敢テ立法上特別ノ必要ヨリ出テタルニ非スシテ保險金ノ請求權ハ目的物ニ附隨シテ存在スル債權ニシテ單獨ニ存在スルコト能ハス之ル換言スレハ目的物ノ上ニ權利ヲ有スル者ニシテ始メテ保險金ノ請求權ヲ有ストノ理由ニ基キタルニ外ナラス乃チ本院明治三十一年第四百三十四號事件ノ判例ハ實ニ此法理ヲ是認シタルモノトス加之商法施行以前ニ於テモ法令若クハ慣習ノ準據スヘキモノナキ事項ニ付テハ裁判所ニ於テ舊商法ノ規定中是認スヘキ法理ハ採リテ以テ裁判ノ標準ニ資シタルノミナラス商取引ヲ爲ス者モ亦同一ノ趨向アリシコトハ顯著ナル事實ナリ然レハ則チ本件ノ事項發生當時ニ於テハ船舶所有者ノ責任ハ船舶ノ保險金ニ及フモノト爲スヲ以テ尤モ條理ニ適スルモノト

爲サ、ルヲ得ヌ然ルニ上告論者第一點ハ法律ノ規定ヲ竣ツニ非サレハ保險金ト保險ノ目的物トハ同視スヘキモノニ非スト云フニ歸着スレトモ其理由ナキコトハ前陳ノ如シ其第二點ハ保險金ト保險ノ目的物ト同視シ船舶所有者ノ責任ヲシテ保險金ニ及ホサシムルトキハ所謂荷損船損ノ限定主義ハ全ク破壊セラル、ニ至ルト云フニ歸着スレトモ此限定主義ト同視義トハ條理上氷炭相容レサルニ非サレハ決シテ上告論者ノ如キ結果ヲ來スノ患ナシ何トナレハ保險金ヲ以テ保險ノ目的物タル船舶ト同視スルカ故ニ船舶所有者ノ責任ヲ保險金ニ及ホスハ船舶ニ及ホスニ外ナラサレハナリ其第三點ハ船舶所有總力其船舶ヲ保險ニ付スルハ自己ノ損失ヲ免カレン爲メニ特別ノ注意ヲ施コスニ外ナラサルニ其責任ヲ保險金ニ及ホストキハ船舶所有者カ船舶ヲ保險ニ付スルノ理由全ク滅却スト云フニ歸スルモ船長其他ノ船員等ニ過失ノ責ムヘキモノナクシテ船舶カ滅失又ハ毀損シタル場合ニ於テハ船舶所有者ハ保險金ヲ自己ノ利益ニ取得スルコトヲ得ヘキヲ以テ保險ニ付スルノ理由ハ全ク滅却スト謂フ可カラス其第四點前段ノ保險金性質論ハ一片ノ純理論トシテハ強テ不當ナルニ非サルモ是レ我國ノ海商ノ實狀ヲ顧ミサル議論ニシテ裁判所カ應用スヘキ海商ノ法理トシテハ未タ之ヲ採用スルヲ得ス又其後段ノ論旨ハ新商法ノ主義及解釋ニ付キ己ニ定論アルコト、ヲ本院從前ノ判決例ヲ將

來永ク維持スルコト、ヲ前提トシテ立論スルモノナレトモ本件ハ前陳ノ如ク舊商法施行前ノ法理ニ依リ判案スヘキモノニシテ新商法ノ主義解釋トハ何等ノ關係ナシ隨ツテ從前ノ判決例ヲ以テ直ニ新商法ノ判決例ト爲スヘキモノニ非サレハ此論旨ハ全ク其根據ナシ

本院ハ裁判所構成法第四十九條ノ規定ニ從ヒ民事第一及第二部ヲ聯合シテ裁判所ヲ組織シ本件上告ヲ審理シタルモ前段説明ノ如ク本院從前ノ判決ト相反スル判決ヲ爲スヘキ理由ヲ認メサルニ因リ民事訴訟法第四百五十二條ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

損害要償ノ件 (明治三十四年(オ)第百九十六號)

判決要旨

一 民事訴訟法第三十二條第四號ニ判事カ不服ノ申立アル判決ヲ前審ニ於テ爲スニ當リ判事トシテ干與シタルトキトアルハ控訴審ニ付テ之ヲ云ヘリ控訴審ノ判事カ曾テ第一審ノ判事トシテ終局判決ト共ニ不服ヲ申立ツル第一審ノ中間判決及ヒ同審ノ終局判決ニ干與シタル場合ヲ指スモノトス(判旨第一點)

(參照) 判事ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ依リ其職務ノ執行ヨリ除斥セラル可シ「第四判事カ不服ノ申立アル裁判ヲ前審又ハ仲裁ニ於テ爲スニ當リ判事又ハ仲裁人トシテ干與シタルトキ但此場合ニ於テ判事ハ受命判事又ハ受託判事トシテハ職務ノ執行ヨリ除斥セラルコトナシ(民事訴訟法第三十二條第四號)

一 荷物送狀カ指圖式ナル場合ニ於テ流通證券タル性質ヲ有スルトキハ記名式ナル場合ニ於テモ亦裏書ニ依リ輾轉スヘキハ勿論ナリトス(判旨第二點)

第一審 東京地方裁判所  
第二審 東京控訴院

上告人 南助吉  
訴訟代理人 岡崎正也  
被上告人 日本精米株式會社  
右法定代理人 木谷吉次郎  
訴訟代理人 岸清一郎  
右當事者間ノ損害要償事件ニ付東京控訴院カ明治三十四年三月二十五日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告代理人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス  
訴訟費用ハ上告人ノ負擔トス

理由

上告論旨第一點ハ原裁判ニ干與シタル判事鈴木喜三郎氏ハ本件第一審裁判ニ干與シタルモノナルヲ以テ民事訴訟法第三十二條第四號ノ規定ニヨリ當然職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキモノナリ即チ本件第一審ニ於テ一事再理ノ問題ニ干シ明治二十八年二月二

損害要償ノ件

十五日中間判決ヲ與ヘタルニ際シ右鈴木判事ハ該判決ニ干與シ又同年三月三十日言渡  
 サレタル本按缺席判決ニモ干與セラレタルモノナリ而シテ故障由立ノ後新辯論ニ基ク  
 明治二十八年十一月十六日言渡サレタル對席判決ハ干與セザリシト雖トモ右判決ハ缺  
 席判決ヲ維持シタルモノニシテ且ツ中間判決ハ當然終局判決ヲ羈束ス（民事訴訟法二  
 百四十條）ヘキモノナレハ同判事ハ即チ本件第一審裁判ニ干與シタルモノト云ハサル  
 ヲ得サルヤ明ナリ然ルニ原院ニ於テ右鈴木判事カ控訴判決ニ干與シタルハ民事訴訟法  
 第四百三十六條第二號ニ該當スヘキ違法ノ裁判ナリト云フニ在リ  
 依テ審按スル判事カ其職務ノ執行ヨリ除外セラル可キコトヲ規定シタル民事訴訟法第  
 三十二條第四號ニ判事カ不服ノ申立アル判決ヲ前審ニ於テ爲スニ當リ判事トシテ干與  
 シタルトキトアルハ控訴審ニ付テ之ヲ云ヘハ控訴審ノ判事カ曾テ第一審ノ判事トシテ  
 終局判決ト共ニ不服ヲ申立ツル第一審ノ中間判決及ヒ同審ノ終局判決ニ干與シタル場  
 合ヲ指スモノニシテ不服ノ申立アル判決ニ關係ナキ缺席判決又ハ中間判決ノ如キハ右  
 法條ニアル裁判ノ中ニ包含セザルモノトス而シテ本件ニ於テ原判決ニ干與シタル判事  
 鈴木喜三郎ハ第一審ニ於テ明治二十八年二月二十五日中間判決ニ同年三月十日本案  
 ノ缺席判決ニ干與シタレトモ孰レモ其判決ハ控訴ノ際不服ノ申立アル判決（明治二十

八年十一月十六日言渡）ニ關係ヲ有セサルカ故ニ判事鈴木喜三郎カ原判決（明治三十  
 四年三月十三日言渡）ニ干與シタルハ民事訴訟法第三十二條第四號ニ所謂不服ノ申立  
 アル裁判ヲ前審ニ於テ爲スニ當リ判事トシテ干與シタルモノニ該當セス依テ本上告論  
 旨ハ採用スルヲ得ヌ

上告論旨第二點ハ甲第三號送り狀ト題スル證券ハ本件貨物ヲ被上告人ノ船舶ニ運送ヲ  
 託シ之ヲ搭載シタルニ付被上告人ヨリ差出シタルモノナルコトハ原裁判ノ認ムル所ナ  
 レハ右證券ハ法律上所謂船荷證書ニ外ナラス而シテ船荷證書カ商法施行前ニ在リテ流  
 通證券タル性質ヲ有シタルコトハ從來判例ニ於テ公認セラレタルモノナリ即チ大審院  
 明治二十九年第五百二號事件（三十年三月二十四日第二民事部判決）ニ於テ「元來船  
 荷證書ハ裏書ニ依リ自由ニ轉轉スヘキ性質ヲ有スルモノナレリ其所持人ハ何時ニテモ  
 貨物ノ引渡ヲ求ムル權利ヲ有スルモノナリ故ニ該證書ト引換ニ渡スヘキ貨物ヲ約ニ背  
 キ他ニ交付シタリトスレハ實際其貨物カ荷受人ノ手ニ移リタルト他人ノ手ニ移リタル  
 トヲ不問證書所持人ヨリ之ヲ見レハ未タ貨物引渡ヲ爲サル地位ニアルモノナレハ該  
 貨物ニ付尙ホ引渡ヲ爲スヘキ義務ハ依然免ル、ヲ得サルモノナリ」云々ト判示セラレ  
 タルニ依リ明白ナリトス然ルニ原裁判ニ於テハ「或ハ送り狀ノ書式カ指圖式ナルカ或ハ



送状カ荷物ヲ代表スルノ性質ヲ有スルカ或ハ送状ニハ荷爲替ヲ付スルノ常習アル場合ニ在テハ荷受人カ屢々交替スルノ推測アリテ運送者ニ於テ送状ト引換ニ荷物ノ引換ヲ爲スト否トニヨリ至大ノ干係ヲ惹起スヘキヲ以テ會社ハ殊ニ送状ト引換ニ荷物ヲ引渡スノ義務ヲ右條項ニ依テ明約シタルモノナリトノ解釋ヲ下スヲ得ヘキモ其指圖式ニアラスシテ反テ記名式ナルコトハ甲第三號證其物ノ明示スル所ニシテ本件ノ事實發生ノ當時送状ヲ以テ荷物ヲ代表セシムルノ法制若クハ一般ノ慣習ナカリシモ亦固ヨリ明カナリ云々ト説明シタルハ第一船荷證書ハ商法施行前ニ在リテモ裏書ヲ以テ讓渡シ得ヘキ流通證券タルコトノ慣習法ニ違背シ第二船荷證券ハ其當然ノ性質トシテ法律上流通證券タルヘク其指圖式タリト記名式タルトニ依リ其流通證券タル性質ヲ左右スヘキモノニアラスハ法則ヲ誤解シ爲ニ甲三號證ノ文詞ニ「本證書引換ニ引渡ス」云々トアルハ單ニ受荷主ニ引渡スニ際シ誤リナキヲ期スルノ趣旨ニシテ本證引換ニアラサレハ引渡ヲ爲シ得サル義務ヲ負擔シタルモノニアラスト論斷スルニ至リタルハ前掲所論ノ如ク船荷證券ニ關スル法則ニ違背シ其結果事實ヲ不當ニ確定シタル違法ノ判決ナリト云フニ在リ

依テ按スルニ本件ノ甲第三號證(送状)カ原院ノ説示スルカ如ク指圖式ナリシ場合ニ於

テ流通證券タル性質ヲ有ス可キモノナラハ記名式ナル場合ニ於テモ亦裏書ニ依リ輾轉ス可キモノタル可キハ勿論ナリトス故ニ原院カ甲第三號證ニ對シ「前略其指圖式ニアラスシテ反テ記名式ナルコトハ甲第三號證其物ノ明示スル所ニシテ本件ノ事實發生ノ當時送状ヲ以テ荷物ヲ代表セシムルノ法制若クハ一般ノ慣習ナカリシコトモ亦固ヨリ明ナリ」ト判示シタルハ失當ナリト雖モ然レトモ原院ハ甲第三號證ト引換ニ非サレハ本件ノ米ヲ引渡スヘキモノニ非スト主張スル上告人其人ニシテ現ニ自ラ甲第三號證ヲ握有シ居リナカラ之ニ拘ハテ五千五百四十六俵ノ米ヲ小野庄吉ニ引渡ス可キコトヲ電報(丁第三號)ヲ以テ通知シタル事跡アリ此事跡ニ就テ觀察スルトキハ甲第三號證ノ約旨其レ自身ニ於テ送状ト引換ニ非サレハ荷物ヲ引渡ス可カラサル義務ヲ被上告人ニ負ハシメタルモノニ非スト其意義ヲ解釋シ被上告人カ本件ノ米ヲ小野庄吉ニ引渡シタルハ甲第三號證ノ約旨ト上告人ノ指圖トニ因リシモノト認定シタル次第ナレハ本論旨ハ要スルニ法律上原院ノ職權ニ屬スル證書ノ解釋事實ノ認定ヲ非難スルモノニシテ是亦上告ノ理由ト爲スニ足ラス

以上説明スルカ如ク本件上告ハ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百五十二條ニ依リ棄却ス可キモノトス

損害金請求ノ件(明治三十五年(九)第九十八號)

判決要旨

一 商法第三百二十二條ニ所謂運送ニ關スル注意云々ノ規定ハ運送人ニ適用スヘキ同法第三百二十七條末段ノ規定ト同一ニシテ其注意ヲ爲スヘキ程度ハ運送品ノ性質其他諸般ノ狀況ニ因リ一定ナル能ハス

(參照) 運送取扱人ハ自己ハ其使用人カ運送品ノ受取、引渡、保管、運送人又ハ他ノ運送取扱人ノ選擇其他運送ニ關スル注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延着ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス(商法第三百二十二條) 運送人ハ自己若クハ運送取扱人又ハ其使用人其他運送ノ爲メ使用シタル者カ運送品ノ引取、引渡、保管及ヒ運送ニ關シ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延着ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス(商法第三百二十七條)

第一審 安濃津地方裁判所

第二審 名古屋控訴院

上告人 山中傳四郎

訴訟代理人 中村元嘉

被上告人 西川伊三郎

右當事者間ノ損害金請求事件ニ付キ明治三十四年十二月二十四日名古屋控訴院カ言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

本件上告ノ要旨ハ原判決ハ法律ヲ不當ニ適用シタル違法アリ原判決理由中ニ「商法第三百二十二條ニ云々同條ノ規定ニ依レハ運送取扱人ハ運送品ノ受取引渡運送人又ハ他ノ運送取扱人ノ選擇ニ付キ注意ヲ怠ラサルノミナラス其他運送ニ關スル注意即チ運送取扱人カ委託ヲ受ケタル運送ノ範圍内ニ於ケル運送上諸般ノ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニアラサレハ運送品滅失等ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免レサルモノニシテ換言スレハ同條ハ運送營業人ト同一ノ責任ヲ運送取扱人ニ課シタルモノナリ」ト論定シ續テ「被控訴人ハ前示法案ノ所謂其他ノ運送ニ關スル注意ヲ怠ラサリシコトニ付キ毫モ立證スル所ナキヲ以テ到底控訴人ニ對シ紛失荷物ヲ賠償スル責ヲ免ル、コトヲ得サルモ

ノトス」ト断定セラレタリ然リト雖モ商法第三百二十二條規定ノ趣旨ハ以上ノ如ク解  
 釋スヘキモノニアラサルコトハ運送ニ關スル諸般ノ規定ヲ考覈スル時ハ自ラ明白ナル  
 ヘシ何者運送取扱人ハ物品運送ノ取扱ヲ爲スヲ業トスルモノニシテ運送營業人ノ如ク  
 自ラ運送ヲナスモノニアラス從テ運送取扱人ノ荷送人ニ對スル責任ハ運送人ト異ナル  
 モノアリ例ヘハ運送人相次イテ運送ヲ爲ストキハ運送品ノ滅失其他ニ付キ連帶シテ損  
 害賠償ノ責ニ任スヘキモノナルコトハ商法第三百二十九條ノ明示セシ所ナリトス而シ  
 テ運送取扱人ト運送人トノ間ニハ右ノ如キ連帶責任ヲ負ハシメタル規定ナク却テ同法  
 第三百二十二條ニ於テ運送人又ハ他ノ運送取扱人ノ選擇ニ關スル注意ヲ怠ラサリシコ  
 トヲ證明スレハ損害賠償ノ責ヲ免カル、ヲ得ル旨ヲ規定セルヨリ看レハ運送取扱人ハ  
 運送人ノ選擇ヲ誤ラサリシコトヲ證明スル以上ハ荷送人ニ對シテ他人ノ損害賠償ノ責  
 任ヲ負擔スヘキ者ニアラスト解スルヲ妥當トス況ンヤ前述ノ如ク運送取扱人ハ單ニ取  
 次キヲ爲スヲ業トスルニ止マル旨ヲ法律上明定セル以上ハ取次ノ行爲以外ニ運送人ノ  
 過誤ニ對シテ運送人ト同一ノ責ヲ負フヘキ理由之ナキニ於テオヤ且同法第三百二十一  
 條第二項ニ於テ運送取扱人ニハ別段ノ定メアル場合ノ外ハ問屋ニ關スル規定ヲ準用ス  
 ト規定セリ而シテ問屋カ委託者ニ對スル責任ハ主トシテ委任及ヒ代理ニ關スル規定ヲ

準用スヘキモノナルコトハ同法第三百十四條第二項ニ記載セル所ナルヲ以テ本件ノ如  
 ク物品ノ取次ヲ爲シタル運送取扱人ノ荷送人ニ對スル責任ハ特ニ同法ノ運送取扱營業  
 ノ部ニ明定シアラサル事項ナルニ付キ同シク委任代理ノ本則ニ則リ賠償責任ノ有無ヲ  
 定メサルヘカラサル筋合ナリ然リ而シテ上告人ハ單ニ運送ノ取次ヲ爲スコトノミヲ委  
 任セラレタルモノナル以上ハ委任事項ハ取次ノミニ限ラレタルモノナルヲ以テ取次ニ  
 對スル以外ノ責任ヲ負フヘキ理由ナキコト益明白ナリ取次ニ對スル責任トハ運送人ニ  
 引渡スニ至ルマテノ保管運送人選擇ノ義務是ナリ一旦適法ニ選擇ヲナシタル運送人ニ  
 物品ヲ引渡シタル以上ハ是ニ由リテ取次營業ハ完全ニ委任ノ目的ヲ達シタルモノニシ  
 テ從テ責任ノ免除トナル道理ナルカ故ニ運送人ト同シク將來ニ就テ賠償責任アルヘキ  
 理由ナシ原判決ハ同法第三百二十二條ニ所謂其他運送ニ關スル注意ヲ怠ラサリシコト  
 ヲ上告人ニ於テ立證セサルヲ以テ賠償責任アリト論スルモ其他運送ニ關スル注意トハ  
 運送人ノ行爲ニ付テ注意ヲ要スルヲ示稱スルニアラスシテ例ヘハ物品カ高價品ナルト  
 キハ同法第三百三十條第三百三十八條ノ規定ニ依リ其種類並ニ價格ヲ運送人ニ告知ス  
 ル等ノ義務ヲ指シタルニ外ナラス決シテ原判決所論ノ如ク解スヘキモノニアラス要ス  
 ルニ本件ノ場合ニ商法第三百二十二條ノ規定ヲ適用シテ運送人ト同一ノ責任ヲ上告人

ニ負擔セシムル旨ノ原判決ハ違法ニシテ結局法律ヲ不當ニ適用シタル過誤アルモノト云フニ在リ

按スルニ凡ソ運送取扱人ナルモノハ荷送人ヨリ委託セラレタル運送品ハ其何品タルヲ問ハズ高價品ヲモ取扱フヘキ營業ナルヲ以テ其取扱方法ハ單ニ運送人タル營業者即チ法律上運送人ト認ムヘキ者ヲ選擇シテ其運送品ヲ引渡スノミヲ以テ足レリトセス其他運送上殊ニ高價品ニ付テハ最モ注意周到ニ爲サハルヘカラス然ラサレハ委託者ニ在テハ須臾モ安シスル能ハサル筋合ナリ故ニ商法第三百二十二條中ニ「其他運送ニ關スル注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ云々ト」ト規定セシ所以ナリ而シテ茲ニ所謂運送ニ關スル注意云々ノ規定ハ運送人ニ適用スヘキ同法第三百三十七條末段ノ規定ト同一ニシテ其注意ヲ爲スヘキ程度ハ運送品ノ性質其他諸般ノ狀況ニ因リ一定ナル能ハズ其注意ヲ怠リシヤ否ヤハ固ヨリ事實上ノ認定ニ屬ス然リ而シテ本件ニ付テハ原判決ハ上告人ハ運送取扱人ニ在テ其生糸タルコトヲ知リテ受託ヲ受ケシモノタル事實ヲ認め從テ其運送品ノ紛失ニ假シテ事實ハ當事者間ニ爭ナキ所ナルニ其運送ニ關スル注意ノ點ニ至ツテハ運送品ヲ運送人ニ引渡シタルノ外運送ノ範圍内ニ於ケル運送上諸般ノ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明セサルモノト事實上ノ判斷ヲ下シ依テ以テ同法第三

百二十二條末段ノ規定ニ照シ上告人ハ到底被上告人ニ對シ紛失荷物賠償ノ責ヲ免ルコトヲ得スト判示シタルモノナレハ縱シヤ上告人ハ正シク運送人タル者ヲ選擇シ運送品ヲ引渡シタルモノトスルモ未タ以テ擇送ニ關スル注意ヲ全ク怠ラサリシ證明ヲ爲シタルモノト云フヲ得サル筋合ナルカ故ニ原判決ハ敢テ法律ヲ不當ニ適用シタル違法ナシ要スルニ上告論旨ハ適法ノ理由ナシ

右説明ノ如ク本件上告ハ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ノ規定ニ則リ之ヲ棄却スルモノナリ

### 貸金請求(本訴)並損害賠償請求(反訴)ノ件

(明治三十五年(オ)第六百四十四號)  
(明治三十六年一月二十二日第一民事部判決)

#### 判決要旨

一運送者ハ運送貨物ノ滅失又ハ毀損等ニ付テハ充分ナル注意ヲ爲スヘキ責任ヲ有スル  
モノナルカ故ニ該貨物カ自己ノ過失ニ非スシテ滅失シタリトセハ其事由ヲ證明セザ  
ルヘカラス

第一審 富山地方裁判所

第二審 大阪控訴院

上告人 内國通運株式會社

右法定代理人 吉村甚兵衛

訴訟代理人 岡崎正也

被上告人 土田春永

外一名

右當事者間ノ貸金請求事件(本訴)並ニ損害賠償請求事件(反訴)ニ付大阪控訴院カ明治三

十五年十一月七日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ一部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

#### 判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

#### 理由

上告趣意第一點ハ原判決ニ曰ク「按スルニ明治三十年八月五日ノ夜直江津ニ洪水アリ  
シコトハ控訴人モ敢テ爭ハサル所ノ事實ナレトモ運送貨物カ此水害ニ罹レリトノ被控  
訴人ノ主張ハ之ヲ眞實ナリト認ムルヲ得ヌ何トナレハ運送貨物中ニ行李ノ安ニ到達  
シタルハ當時既ニ送達地ニ向テ發送セラレ直江津ノ被控訴人支店ニ存在セサリシニ因  
ルモノト推測セサル可カラス左スレハ被控訴人モ認ムル如ク他ノ滅失シタル貨物モ右  
二行李ト共ニ其前日若クハ前々日ニ直江津支店ニ着シ且均シク七日迄ニ送達スヘキモ  
ノナルノミナラス後段說示ノ如ク其貨物中ニハ右二行李ト同一ノ受取人ニ送達スヘキ  
モノサヘアレハ到達シタル二行李ト同様當時支店ニ存在セサリシト推測スヘキハ當然  
ナレハナリ」ト以上ノ判旨ハ一言以テ之ヲ蔽ヘハ同一ノ期間内ニ送達ヲ爲スヘキ貨物  
ノ一部カ發送セラレタルヲ見レハ他ノ貨物モ發送セラレタリト認ムヘキモノナリト云  
フニ歸ス然レトモ送達スヘキ期間カ同一ナレハトテ其發送カ同時タリト推測スヘキ理

貸金請求(本訴)並損害賠償請求(反訴)ノ件

由チシ運送者ハ約束ノ時間内ニ送達スレハ是レリ貨物ノ何レヲ先ニ發送スヘキヤハ別  
 段ノ約束アレハ兎ニ角否ラサル場合ニハ他ノ貨物ヲモ斟酌シ便宜ノ取扱ヲ爲スコト勿  
 論ナリ故ニ送達スヘキ期間カ同一ナレハトテ必スシモ同時ニ發送スヘキモノニアラス  
 要スルニ他ノ貨物カ到達シタレハトテ爲ニ係争貨物カ同時ニ發送セラレタルノ推測ヲ  
 生スヘキモノニアラサルナリ然ルニ原裁判所ハ係争物ニアラサル他ノ貨物カ安全ニ到  
 達シタル點ヨリ直ニ係争物カ同時ニ發送セラレタルモノト認メサルヘカラサルモノ、  
 如ク前掲ノ判決ヲ爲シタルハ全ク理由不備ノ裁判タルヲ免レヌト云フニ在リ

然レトモ原院ノ認ムル如ク安全ニ送達地ニ到着シタル二個ノ貨物ハ其他ノ滅失シタル  
 貨物ト共ニ直江津ノ洪水ノ日即チ明治三十年八月五日ノ前日若クハ前々日ニ直江津ニ  
 到着シタルモノニシテ二個ノ貨物ト同一ニ八月七日迄ニ送達地ニ運送スヘキ貨物ナル  
 カ故ニ其二個ノ貨物カ直江津ノ水害ニ罹ラスシテ安全ニ送達地ニ到着シタルニ由リ之  
 ヲ觀レハ該貨物ハ八月五日ノ夜ニハ既ニ直江津ヨリ送達地ニ向テ發送セラレテ同所ニ  
 存在セサリシコト明カナリ若シ然ラサレハ直江津ノ水害ニ罹ルヲ以テ安全ニ送達地ニ  
 到着スヘキ等ナシ故ニ其滅失ニ罹リシ貨物モ安全ニ到着シタル二個ノ貨物ト共ニ同一  
 期日ナル八月七日マテ送達地ニ運送セサル可カラサルモノナルヲ以テ原院カ原判文上

ニ明カナルカ如ク二個ノ貨物ト共ニ既ニ送達地ニ向テ發送セラレテ洪水ノ日即チ八月  
 五日ニハ直江津ニ存在セサルモノト推定シタルハ洵ニ事理ニ適シタルモノニシテ上告  
 論旨ノ如ク毫モ理由不備ノ點アルコトナシ

同第三點ハ又原判決ニ曰ク「假リニ貨物カ水害ニ罹リタリトスルモ(中畧)被控訴人ニ  
 於テ其滅失ノ責ヲ免レントスルニハ貨物ノ如何ナル場所ニ存在セシカ爲メニ滅失ノ避  
 シ可カラサリシカヲ證明セサルヘカラス」ト然レトモ貨物水害ニ罹リタリトスレハ是  
 レ運送者ノ過失ニアラサルコト證明セラレタルモノナリ而シテ水害ヨリ救ヒ得ヘキ餘  
 地有無ノ如キハ全ク當事者ノ論争セサル所ナリトス然ルニ原判決ハ水害ニ罹ルモ未タ  
 之ヲ以テ不可抗力ニ非サルモノ、如ク判示シタルハ法則ニ反スルノミナラス當事者ノ  
 争ハサル事實ニ對シ尙滅失ノ避クヘカラサリシコトヲ證明スヘキモノ、如ク判決シタ  
 ルハ是亦法則ニ反スル違法ヲ免レサルモノトスト云ヒ」同第三點ハ原判決ニ曰ク  
 「假リニ貨物カ水害ニ罹リタリトスルモ其水害タル倉庫家屋ヲ漂流セシムルノ甚ダシ  
 キニ至ラサレハ若シ貨物ニシテ倉庫内ニ在リタランニハ縦シ浸潤等ノ多少ノ損害ヲ免  
 レヌトスルモ全然滅失シテ其蹤跡ヲ留メサルニ至レリト信スヘカラス」又「且貨物カ  
 當時直江津支店ニ存在セシトスレハ前段存在セサリシコトヲ推測シタルト同一論理ニ

貸金請求(本訴)並損害賠償請求(反訴)ノ件

基キ到達シタルニ行李モ亦當時同支店ニ存在セリト推測スヘキハ當然ナリ然ラハ其二行李ノミハ水害ヲ免カレタルニ其他ハ何故ニ滅失ヲ避ク可カラサリシカ是亦被控訴人ノ宜シク證明ス可キ所ナリ云々ト然レトモ(一)係争貨物ハ製茶ナリ故ニ之レニ水ノ浸潤スルトキハ全ク其効用ヲ滅失スルコト説明ヲ俟テ知ルヘキニアラサルナリ故ニ浸潤ノ事實ヲ認ムル以上ハ滅失セルモノト爲スニ於テ些ノ妨ケアルコトナシ(二)水害ニ係ラサルニ行李ハ係争物ニアラス而シテ此ニ行李ハ水害地ニ存在セサリシコトハ當時者間争ナキ所ニシテ水害ニ罹ラサリシハ之レカ爲メノミ水災ニ遭遇シタルモ尙之ヲ救ヒ得タルカ爲メニアラサルナリ然ルニ前掲ノ如ク水ノ浸潤スルモ未タ滅失ニアラサル如ク又ニ行李ノミ水災ヨリ救ヒ得タルモ他ノ貨物ハ過失ニ因リテ救ヒ得サシカ如ク説明ヲ與ヘタルハ理由不備ノ判決ナリトスト云フニ在リ

然レトモ直江津ノ洪水ハ原院ノ認ムル如ク幾多ノ倉庫又ハ家屋ヲシテ流失セシメタル等ノコトナクシテ唯タ洪水カ家屋等ノ床上ニ侵入シタリトノ事實ナルコトハ上告人モ亦證人ノ證言ヲ以テ證明セシ所ナリ故ニ係争ノ貨物カ上告人主張ノ如ク洪水ノ當時直江津ニ存在セシモノトスレハ水害ノ爲メ多少ノ毀損ヲ免カレサルヘシト雖モ流失シタルモノニアラキルコト明カナルヲ以テ尙モ他ノ事由アルニアラサレハ全然滅失スヘキ

管ナキノミナラス運送者ハ其運送貨物ノ滅失又ハ毀損等ニ付テハ充分ナル注意ヲ爲スヘキ責任ヲ有スルモノナルカ故ニ其貨物カ上告人ノ過失ニアラスシテ滅失シタリトセハ上告人ハ其事由ヲ證明セサル可カラサルモノナルニモ拘ハラヌ上告人ハ單ニ八月十日ノ夜ニ直江津ニ水害アリシトノ事實ヲ證明シタルノミニシテ如何ナル事由ニ因テ滅失シタルヤヲ證明セサルカ故ニ原院ニ於テハ更ニ進ンテ上告人主張ノ如ク係争ノ貨物カ洪水ノ當時直江津ニ存在セシモノト假定スルモ尙且上告人ニ於テ前示ノ如ク其滅失シタル事由ヲ證明セサル可カラサルニ之ヲ證明セサルカ故ニ其過失ノ責ヲ免カル能ハサルヲ以テ其滅失ニ因ル損害ヲ賠償スヘキ義務アル所謂説明シタルモノナルコトハ原判文ニ明示シアルカ如シ以上説明セシ如クナルヲ以テ上告論旨ノ如ク單ニ水害ニ罹リタリトスレハ運送者ノ過失ニアラサルコトヲ證明シタリト云フヲ得サルハ勿論ナルノミナラス其水害ヨリ救ヒ得キ除地有無ノ如キ當事者ノ論争如何ニ拘ハラヌ充分ニ運送者ノ過失ニアラサリシ所以ヲ證明セサルヘカラサルモノナルカ故ニ原院ノ説明愛ニ及ヒシハ當然ナリ加之上告人ハ係争貨物ハ製茶ナルカ故ニ水害ノ爲メ水ニ浸潤スルトキハ全ク其効用ヲ滅失スルヲ以テ浸潤ノ事實アレハ滅失スルモノト爲スニ於テ妨ケアルコトナシト論スルモ假令製茶ニシテ水ニ浸潤シタレハトテ其浸潤ノ程度ニ於

貸金請求(本訴)並損害賠償請求(反訴)ノ件

テ多少ノ毀損ヲ免カレサルヘシト雖モ之ヲ以テ一概ニ全然滅失シタリト云フヲ得サルナリ又水害ニ罹ラサル二個ノ貨物モ滅失シタル貨物ト同一ニ直江津ニ到着シ同日マテニ送達地ニ運送セラレヘキモノニ係ルコトハ爭ヒナキ事實ナルヲ以テ原院ノ説明ハ當然ナリ以上ノ如クナルヲ以テ原判決ハ上告論旨ノ如キ瑕瑾アルコトナシ故ニ上告第二第三論旨モ亦其理由ナシ

以上説明セシ如ク上告論旨ハ總テ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

損害要償ノ件 (明治三十五年(才)五百九十五號)  
(明治三十六年一月二十八日第二民事部判決)

者 決 要 旨

一 數人相繼キテ運送ヲ爲スニ當リ荷物カ其到達地ニ達セシテ荷送人ニ損害ヲ生シ運送人ノ一人カ之ヲ賠償シタル場合ノ求償ニ於テ求償者ニ對シ此者ヨリ後ニ運送ニ從事シタル運送人等ニ連帶責任アリトノ事ハ舊商法及ヒ新商法共ニ之ヲ認メサルト同シク商法施行以前ノ慣例ニ於テモ亦認メラレサル所ナリ

一 如上ノ場合ニ於テ損害ヲ賠償シタル運送人ノ一人ハ不法行爲ヲ爲シタル運送人ニ對シ求償權アルノ外其行爲者タラサル他ノ運送人ニ對シ全部ノ請求權ナシ

第一審 長野地方裁判所上田支部

第二審 東京控訴院

上 告 人 帝國中牛馬合資會社

右法定代理人 小山 五左衛門

訴訟代理人 湊 碓 吾

被上告人 共同中牛馬合資會社

損害要償ノ件



右法定代理人 中澤與左衛門  
訴訟代理人 田澤鎮太郎

右當事者間ノ損害要償事件ニ付東京控訴院カ明治卅五年十月九日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ一部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ東京控訴院ニ差戻ス

理由

上告論旨第一點ハ原判決中「然ルニ被控訴人ハ右荷物ハ小諸九子間ノ運送ヲ託セラレタルニ止マリ同所迄ハ到達シタルハ賠償ノ責ナシト主張スレトモ元來本訴ノ荷物運送ハ東京發長野縣諏訪郡平野村着ノモノニシテ被控訴人ハ運送人トシテ仲繼運送ヲ託セラレタルモノト看做サル、ヲ得ヌ故ニ其運送人ハ前者ニ對シテハ爾後ノ運送人ト共ニ連帶責任ヲ負フヘキモノナレハ次ノ仲繼運送人ニ迄送付シタルノ故ヲ以テ其責ヲ免ルヘキニアラス」ト判定セラレタレトモ抑モ數人ノ運送取扱人又ハ運送人ノ連帶責任ハ委託者ニ對スルモノニシテ其連帶債務中委託者ニ對シ辨償シタル金員ヲ他連帶債務者ヨリ辨償ヲ受ケントスル場合ニ至リテハ連帶債務ニ非スシテ現ニ損害ヲ生セシメタル

者ニ對シテノミ全部ノ求償權ヲ有シ其他ノ者ニ對シテハ各自ノ負擔部分ニ止マリ求償權ヲ有スルニ過キス然ルニ原院ハ前掲判文ノ如ク上告人ハ現實ノ損害ヲ生セシメタルモノニ非サルモ尙被上告人ニ對シ連帶債務トシテ全部辨償ノ責務アリト爲シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル違法ノ裁判ナリト云フニ在リ  
依テ審按スルニ數人相繼キテ運送ヲ爲スニ當リ荷物カ其到達地ニ達セヌシテ荷送人ニ損害ヲ生シ運送人中ノ一人カ之ヲ賠償シタル場合ノ求償ニ於テ求償者ニ對シ此者ヨリ後ニ運送ニ從事シタル運送人等ニ連帶責任アリトコトハ舊商法及ヒ新商法共ニ之ヲ認メサルト同シク商法施行以前ノ慣例ニ於テモ亦認メラレサル所ナリ此ノ如キ場合ニ於テ損害ヲ賠償シタル運送人中ノ一人ハ不法行為ヲ爲シタル運送人ニ對シ求償者アルノ外其行為者タラサル他ノ運送人ニ對シテ全部ノ請求權ナシ然ルニ本件ニ於テ原院ハ元來本訴ノ荷物運送ハ東京發長野縣諏訪郡平野着ノモノニシテ被控訴人(上告人)ハ運送人トシテ中繼運送ヲ託セラレタルモノト看做サルヲ得ヌ故ニ其運送人ハ前者ニ對シテハ爾後運送人ト共ニ連帶責任ヲ負フヘキモノナレハ次ノ中繼運送人ニ迄送付シタルノ故ヲ以テ其責任ヲ免ルヘキニ非ス」ト說示シ上告人カ荷送人ノ荷物ヲ紛失セシメタル事實即チ其不法行為者タルコトヲ認メヌシテ單ニ中繼運送ヲ爲シタルノ故ヲ以

九六  
テ其前ノ運送人ニ對シ全部ノ求償ニ應ズル責任アリト判決シタルハ運送人ノ責任ニ關  
スル法則ヲ誤解シタルモノニシテ上告其理由アリ而シテ此點ニ付キ原判決ヲ破毀スル  
以上ハ他ノ論點ニ付テハ逐一辯明スル必要ナシ  
以上辯明スル如ク本件上告ハ理由アルヲ以テ民事訴訟法第四百四十七條第一項ニ依リ  
原判決ヲ破毀シ尙ホ同第四百四十八條第一項ニ依リ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲  
メ本件ヲ原裁判所ニ差戻スヘキモノトス

物品引渡請求ノ件 (明治三十五年才第六百八十三號  
明治三十六年二月五日第一民事部判決)

判決要旨

一船荷證券トシテ無効ナルモノハ他ノ指圖證券トシテ有効ナルヤ否ヤハ當事者ノ意思  
ノ解釋ニ因テ定マルヘキモノトス

第一審 札幌地方裁判所

第二審 函館控訴院

上告人 大竹房太郎

外一名

訴訟代理人 鈴木一

被上告人 須江吉六

右當事者間ノ物品引渡請求事件ニ付函館控訴院カ明治三十五年十月二十九日言渡シタ  
ル裁判ニ對シ上告人ヨリ一部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

物品引渡請求ノ件

上告論旨ハ原院ハ本件判決理由ノ中段ニ「被控訴人ハ控訴人ニ於テ保治ノ言ノミヲ信シ甲一號證ヲ取得シタルハ控訴人ニ重大ナル過失アリト論スレトモ甲四號證ニ依レハ酒ノ販賣精々願上候」トアリテ被控訴人大竹房太郎ハ曾テ保治ニ酒ノ販賣ヲ委任シタルコトアルヲ認メ得可キニ依リ本訴ノ酒モ亦保治ニ販賣ノ權利アルモノト信シ甲一號ノ取引ヲ爲シタリトノ控訴人ノ供述ハ眞實ト認メ得可ケレハ云々」ト判示シ以テ上告人ニ不利ナル判決ヲ與ヘラレタリ由是觀之原院ハ被上告人タル原告カ甲第一號證ヲ取得スルニ際シ惡意又ハ重大ナル過失ナケレハ本訴請求權アリトノ主張ヲ正當ナリト認ムルニ付キ甲第四號證ヲ裁判ノ資料ニ供シタルヤ明ナリ然ルニ甲第四號證ハ原院ニ於テ上告人ノ旨趣否認スルモノニ係リ且ツ此否認ニ對シ被上告人ハ何等ノ立證ヲ爲サ、レハ證據トシテ採用ス可カラサル筋合ナルニ原院カ漫然之レヲ採用シテ、ノ資料トナシタルハ探證ニ關スル法則ノ適用ヲ誤リ不當ニ事實ヲ確定シタルモノニシテ到底違法タルヲ免レヌト云フニ在リ

然レトモ甲第四號證ノ成立ハ既ニ上告人ノ認ムル所ニシテ單ニ其立證ノ趣旨ノミヲ否認シタルニ止マルモノナレハ假令被上告人カ上告人ノ其否認ニ對シ更ラニ之レカ反證

ヲ提供セサレハトテ法律上其證據力ノ消滅スヘキモノニアラスシテ之レヲ採ルト採ラサルトハ專ラ裁判所ノ職權ニ屬スルモノナルカ故ニ原院カ該甲第四號證ヲ判決ノ資料ニ供シタレハトテ之ヲ以テ違法ノ判決ト云フヲ得サルモノトス故ニ上告論旨ハ其理由ナシ

上告趣旨擴張第一點ハ船荷證券トシテ特殊ノ效果ヲ發生セシムヘキ意思ヲ以テ發行シタル證券カ要件欠缺ノ爲メ無効ナル時ハ形式上偶々他ノ指圖債權トシテ要件ヲ具備スルモ發行者ノ意思ニ反シテ效果ノ生スル謂レナケレハ他ノ指圖債權トシテモ亦當然無効タラサルヲ得ス蓋シ債權ハ民事上タルト商事上タルトヲ問ハス指圖式ト爲スヲ得可キハ法ノ認ムル所ナルモ法律上當然指圖債權タル者ヲ除ク外ハ發行者ノ明白ナル意思表示アルニ非サレハ指圖債權トシテ成立スルヲ得ス從テ法律上ノ指圖債權ヲ除外シ指圖債權ノ成立ニハ指圖債權トスルノ意思ト表示ヲ要件トスルヤ明カナリトス果シテ然ラハ船荷證券トスル意思ヲ以テ發行シタルモノカ他ノ效果ヲ生セシムル意思アル可カラサレハ船荷證券カ船荷證書トシテ成立セサニ於テハ他ノ指圖債權トシテモ無効ナリ偶然形式ヲ具備スルノ一事ハ以テ有効ヲ論斷スルニ足ラス何者船荷證券以外ノ効果ヲ生セシムルコトハ當事者ノ想像以外ニ屬スルノミカ寧ロ其意思ニ反ス可ケレハナリ

本件甲第一號證ノ發行者ニ於テ船荷證券トシテ發行シタルモノナル事ハ同證ノ文言並ニ原告(被上告人)ノ主張ヲ照合シ寸毫疑ヲ容ル可キ餘地ナシ今原判決ヲ按スルニ此點ニ付キ當然タル判斷ヲ下スモノナシト雖モ其全文ニ徴シ船荷證券トシテ發行シタルモ要件ヲ缺クカ故ニ無効ナリトノ判旨ヲ認ムルニ難カラズ既ニ然リトセハ原院カ「甲第一號證ハ商法上ノ船荷證券ナリト云フモ商法第六百二十二條ノ要件ヲ具備セサルヲ以テ之ヲ船荷證券ト云フヲ得ス」トテ甲第一號證ノ船荷證券トシテノ成立ヲ否認シナカテ「然レトモ同證ハ(中略)所謂物ノ給付ヲ目的トスル指圖債權タルコト明瞭ナルヲ以テ」云々ト法示シ之ニ指圖債權タルノ効力ヲ與ヘ以テ上告人ニ不利ナル判決ヲ爲シタルハ法則ノ適用ヲ誤リタルモノナリト云フニ在リ

然レトモ船荷證券トシテ無効ナル證書ヲ發行シタル者ハ必ラスシモ他ノ指圖證券トシテハ之ヲ作成スル意思ナキモノト看做スヲ得ス要スルニ船荷證券トシテ無効ナルモノハ他ノ指圖證券トシテ有効ナルヤ否ヤハ當事者ノ意思解釋ニ因テ定マルヘキモノトス而シテ本件ハ原院カ甲第一號證ノ文詞ニ依リ船荷證券トシテ無効ナルモ他ノ指圖證券トシテ有効ナリト判斷シタルコトハ原院上文明カナリ即チ原院ハ其職權ニ屬スル證書ノ解釋ヲ爲シタルニ止マルモノニシテ上告論旨ノ如キ趣旨ヲ以テ判斷シタルモノニア

ラス故ニ此點ノ論告モ亦其理由ナシ

其第二點ハ商法第二百八十二條ノ適用ヲ受ケ同條ノ準用スル同法條四百四十一條以下手形ニ關スル規定ノ利益ヲ主張スルコトヲ得ルニハ裏書カ商行爲タル場合ナラサル可カラズ本件甲第一號證ニシテ假リニ船荷證券以外ノ指圖債權トシテ成立シ得ルモノトスルモ被上告人カ商法第二百八十二條ノ利益ヲ主張スルニハ取得ノ原因即チ裏書カ商行爲タルヲ要スルヤ勿論ナリ何トナレハ商法第二百八十二條ハ指圖債權ノ裏書ニ關スル規定ニシテ商行爲以外ノ裏書ハ商法ノ支配ス可キモノニ非サレハナリ果シテ然ラハ訴外者相澤保治ノ甲第一號證ニ爲シタル裏書行爲ハ商行爲ナルカ蓋シ商法第二百八十二條ハ商法中所定ノ運送人ノ貨物引換證倉庫營業者ノ預證券質入證券及船荷證券等手形以外ノ商業證券ニ適用ス可キ法意ニ過キサレハ甲第一號證ニシテ船荷證券ナル商業證券トシテ成立シテコソ始メテ商法第二百六十三條ノ適用ヲ受クルノ結果相澤保治ノ裏書カ商行爲トナルナレ甲第一號證ヲ船荷證券ニ非スト云フニ於テハ決シテ之ヲ商行爲ナリト謂フヲ得ス從テ同法第二百八十二條適用ノ限リニ非サルナリ然ルニ原院ハ前陳ノ如ク甲第一號證ヲ指圖債權ナリト認メタルノミカ假リニ此認定ニシテ誤リナシトスルモ之レニ商法ヲ適用シタルハ違法ナリト云フニ在リ

然レトモ原判旨ニ依レハ甲第一號證ハ運送人タル野中商店ノ作りタル貨物引替證券ニシテ一ノ商業證券タルコト明カナリ隨テ其賣買ノ爲メニスル裏書ノ行爲モ又商行爲タルコト明カナリ以上ノ如ク原院ハ其商行爲ナルコトヲ認メタルモノナルカ故ニ商法第二百八十二條ヲ適用シタル原判決ハ至當ニシテ上告論旨ハ其理由ナシ

其第三點ハ第二審ニ於テハ訴ノ變更ハ假令相手方ノ承諾アルトキト雖モ之ヲ許サ、ルハ民事訴訟法第四百十三條ノ明定スル所ナリ然ルニ本件第一審ニ於ケル被告上告人ノ訴ハ本件係争物ヲ船荷證券ヲ以テ買受ケタリトテ提起セラレ亦他ニ被告上告人ノ請求原因トシテ主張アリシヲ認ムルヲ得ス之レ訴狀ニ據ルモ明白ナル事實ニシテ原院ノ亦認ムル所ナリ從テ本件ハ船荷證券ヲ以テ係争物ヲ買受ケタリトノ原因ノ下ニ權利拘束ヲ生セルモノナレハ第二審ニ於テハ其範圍内ヲ離脱シテ審理スルヲ得ス故ニ之レカ範圍ノ外ニアル原院ニ於ケル被告上告人ノ船荷證券ニ非ストスルモ他ノ指圖債權ナリトノ主張ハ其主張ノ方向ヨリ觀テ明カニ訴ノ原因ヲ變更セルモノナリト云フヲ得可シ蓋シ船荷證券モ一種ノ指圖債權ナリト雖モ指圖債權ノ種類ニ依リ各法律上ノ効果ヲ異ニスルモノナレハ船荷證券ニ依リ所有權ヲ取得シタリトノ主張ト船荷證券以外ノ指圖債權ニ依リ取得タリトノ主張トハ自ラ原因ニ差異アリ從テ斯カル主張ハ許ス可カラサルカ至當

ナルニ原院カ第二審ナルニ拘ハラス却テ之ヲ採用シ由是判決ヲ爲シタルハ原因ノ變更ヲ許シタルモノニシテ到底違法タルヲ免レスト云フニ在リ

然レトモ本案被告上告人ノ提供シタル訴狀ヲ査閱スルニ物品引渡請求ノ訴ト題シ被告上告人カ係争ノ貨物ヲ買受ケタリト云フヲ以テ訴ノ原因トシテ之レカ引渡ヲ請求シタルモノナルコト明カナリ然而シテ甲第一號證ハ訴ノ原因即チ係争ノ貨物ハ被告上告人カ買受ケタリトノ事實ヲ證明スルカ爲メノ證據ニ過キサルモノナレハ其性質カ船荷證券タルト否トノ如キハ訴ノ原因ニアラスシテ其文詞ニ由リ解釋 定マルヘキ問題ナリ故ニ原院ニ於テ該證ヲ以テ船荷證券ニアラスト判斷シタルモノ之ヲ以テ原院カ其原因ノ變更ヲ許シタリト云フヲ得サルモノトス故ニ上告論旨ハ其理由ナシ

以上説明セシ如ク上告論旨ハ總テ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

損害要償ノ件

(明治三十五年(才)第五百九十四號) 明治三十六年二月二十五日第二民事判決

判決要旨

一積荷ノミヲ保險ニ付シタル場合ト雖モ其損害ノ填補ハ積荷其物ノ流失滅損等ニノミ 制限シタルモノニ非スシテ天災若クハ衝突等ノ爲メ船體損傷シ指定港ニ運漕スル能 ハサル如キ不可抗力ニ因リ途中ニ於テ積荷ヲ賣却シ損害ヲ生シタルトキハ保險者ハ 其損害ヲ負擔スヘキモノトス

第一審 神戸地方裁判所

第二審 大阪控訴院

上告人 東京海上保險株式會社

右代表者 末延道成

訴訟代理人 岡村輝彦

被上告人 梶原伊之助

訴訟代理人 田中與之助

右當事者間ノ損害要償事件ニ付大阪控訴院カ明治三十五年十月九日言渡シタル判決ニ

對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告代理人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ大阪控訴院ニ差戻ス

理由

上告論旨ノ第一點ハ原院ハ海上保險ノ目的カ積荷ニ關スル場合ニ於テ被保險人カ保險金ヲ受取ルヘキ權利ハ積荷ニ損害ヲ生シタル場合ニ制限セラレタルモノニシテ則チ其損害トハ積荷カ流失又ハ滅損シタル如キ場合ニ限レルモノナリト判定セラレタリト雖モ是レ全ク積荷ノ蒙ルヘキ損害ノ範圍ト商法ノ規定ノ解釋トヲ誤リタル不法ノ判決ナリト思考ス商法第六百五十五條ニ保險者ハ本章又ハ保險契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外保險期間中保險ノ目的ニ付キ航海ニ關スル事故ニ因テ生シタル一切ノ損害填補スル責ニ任ストアリ又同法第六百七十條ニ航海ノ途中ニ於テ不可抗力ニ因リ保險ノ目的タル積荷ヲ賣却シタルトキハ其賣却ニ依リテ得タル代價ノ中ヨリ運送貨其他ノ費用ヲ控除シタルモノト保險價額トノ差ヲ以テ保險者ノ負擔トストアリテ保險ノ目的タル積荷カ其保險セラレタル危險ノ爲メニ流失滅損シタル場合ハ勿論苟モ其ノ危險ノ爲メニ

積荷ヲ救護回復スル等危険ノ發生ナカリセハ要セサル所ノ諸費用又積荷カ流失減損セ  
 スト雖モ危險發生ノ爲メニ積荷ヲ陸揚スルノ費用積荷カ指定地ニ廻送セラレザリシヨ  
 リ生シタル損失等總テ危險ノ爲メニ積荷ニ及ホスヘキ一切ノ損害ヲ包含スヘキモノナ  
 ルハ本條ノ規定ニ依リテ明カナリ本件ニ於テ保險ノ目的物ハ石炭ナリ而シテ之ニ對ス  
 ル保險者ノ責任ハ唐津横濱間ノ航海ニ於テ其目的物タル石炭ニ付キ神威丸ノ乗揚火災  
 沈没又ハ衝突ノ事故發生シタルトキハ其事故カ石炭ニ及ホシタル凡テノ損害ヲ填補ス  
 ルノ契約(甲第二號證第一條第二十一條)ニシテ則チ其保險セラレタル衝突事故カ發生  
 シタルカ爲メニ本船ハ指定港タル横濱ニ石炭ヲ運漕スルコト能ハサルノ情態ニ陥リ遂  
 ニ止ヲ得ス中間港タル糸崎及神戸ニ於テ之ヲ陸揚ケシ賣却セサル可ラサルニ立至リタ  
 ルモノナリ茲ニ於テ保險ノ目的物タル石炭ハ其衝突ノ爲メニ特別ノ費用ヲ生シタルノ  
 ミナラス之ヲ賣却スルニ當リテ著シク其價額ヲ減少セシメラル、ニ至レリ是レ實ニ衝  
 突ナル事故ノ爲メニ積荷カ蒙リタル損害ニ外ナラスシテ商法第六百四十五條及第六百  
 七十條ノ規定ニ依テ保險者ノ責任ニ歸スヘキモノナリトス蓋シ原院ハ保險ノ目的物カ  
 蒙ルヘキ損害ヲ以テ其物ノ滅盡ノミヲ指示スルモノト誤解セラレタルモノニシテ其物  
 カ滅盡セサルニ於テハ如何ナル場合ト雖モ保險金ヲ請求スルコトヲ得スト云フニ歸着

ス例ハハ一汽船カ遭難ノ爲メニ運送不可能ノ情態ニ陥リ大洋ノ一孤島ニ積荷ヲ陸揚シ  
 タルカ如キ場合ニ於テ積荷ノ流失減損ナキノ理由トシテ保險者ハ保險金ノ支拂ヲ拒絶  
 スルコトヲ得ルニ至ルヘシ畢竟斯ノ如キ見解ハ全ク海上保險ノ性質ト法律ノ解釋トヲ  
 誤リタルニ外ナラスシテ要スルニ原判決ハ破毀ヲ免レサル不法アリト思考スト云フニ  
 在リ

按スルニ商法第六百五十三條第一項ニ「海上保險契約ハ航海ニ關スル事故ニ因リ生ス  
 ルコトアルヘキ損害ノ填補ヲ以テ目的トス」トアリ其第六百五十四條ニ「保險契約ニ  
 別段ノ定アル場合ヲ除ク外保險ノ目的ニ付キ航海ニ關スル事故ニ因リ生シタル一切ノ  
 損害ヲ填補スル責任ニ付シタル場合ハ即積荷ノ運送ニ關スル危險ヲ保險ニ付シタルモノナル  
 積荷ノミヲ保險ニ付シタル場合ハ即積荷ノ運送ニ關スル危險ヲ保險ニ付シタルモノナル  
 ヲ以テ損害ノ填補ヲ積荷其物ノ流失減損等ニノミ制限シタルモノニアラス殊ニ其第六  
 百七十條第一項ノ規定ニ依レハ航海ノ途中ニ於テ不可抗力ニ因リ保險ノ目的タル積荷  
 ヲ賣却シタルトキハ其賣却ニ依リテ得タル代價ノ中ヨリ運送貨其他ノ費用ヲ控除シタ  
 ルモノト保險額トノ差ヲ以テ保險者ノ負擔ト爲ス可キモノタリ是ニ由テ之ヲ觀レハ積  
 荷ノミヲ保險ニ付シタル場合ト雖モ其損害ノ填補ハ積荷其物ノ流失減損等ニノミ制限

損害賠償ノ件

シタルモノニアラスシテ天災若クハ衝突等ノ爲メ船體損傷シ指定港ニ運漕スル能ハサル如キ不可抗力ニ因リ途中ニ於テ積荷ヲ賣却シ損害ヲ生シタル場合保險者カ其損害ヲ負擔ス可キモノナルコト寔ニ明ナリ然ルニ原判決ハ其理由冒頭ニ於テ「海上保險契約ノ目的ハ積荷ノミニ關スルコトアリ積荷ノ外其到達ニ因リテ得可キ利益若クハ報酬ヲ併セテ目的トスルコトアリ若シ積荷ノミノ保險契約ナリシトキハ被保險人カ保險金ヲ受取ルヘキ權利ハ積荷其物ニ損害ヲ生シタル場合ニ制限セラレ積荷ノ指定港以外ニ陸揚セラレタルト否トニ關係ヲ有セス」ト説明シ即チ積荷ノミニ付テノ保險契約ナレハ被保險人ノ保險金ヲ受取ル可キ權利ハ積荷其物ノ損害ニ制限セラレ可キモノニシテ其積荷カ現存セル已上ハ積荷ノ指定港以外ニ陸揚セラルト否トハ被保險人ノ權利ニ關係セサルモノトノ斷案ヲ前提ト爲シ而シテ其已下ニ於テ「被保險人ト訴外三井物産合名會社間ニ成立シタル甲第二號證ノ一二各第一條ニ「當會社ノ擔保スル危險ハ沈没云々凡テ保險貨物ニ損害ヲ及ボス可キ各種ノ海上危險トス」トアルヲ以テ被控訴人トノ保險契約ハ神威丸ニ積込ミタル石炭其物ノミヲ目的トシタルコト明ナレハ假リニ指定港ナル横濱ニ運漕不能ノ事實アリトスルモ石炭ニ付テ流失減損ナカリシコトハ當事者間ニ爭ナキ所ナレハ此ノ如キ場合ニ在リテ被保險人タル三井物産會社ハ被控訴人ニ

對シテ保險金ヲ請求スル權利ヲ有セサルカ故ニ云々」ト説明シタリ是レ冒頭前提ノ斷案ニ基キ積荷其物カ流失減損等ノ事實アラサル限リハ假令指定港ニ運漕スルコトハ不能ノ事實ナリトスルモ被保險人タル三井物産會社ハ保險者タル上告人ニ對シ保險金ヲ請求スル權利ナキモノト論定シタルモノニシテ海上保險ニ關スル法律ヲ誤解シ之ヲ不當ニ適用シタルモノナリ故ニ本點ノ上告論旨ハ理由アルモノトス原判決ハ此點ヲ以テ破毀ス可キモノト認ムルニ付ニ爾餘ノ論點ニ對シ説明ヲ爲サス以上説明スル如クナルニ因リ民事訴訟法第四百四十七條第一項及ヒ同第四百四十八條第一項ノ規定ニ依リ主文ノ如ク判決ス



船舶債權請求ノ件(明治三十五年(オ)第五百二十四號)  
(明治三十六年三月三十日第一民事部判決)

判決要旨

一 商法第五百四十四條ハ船舶所有者カ自ラ其船舶ヲ利用スル場合ニ限り適用セラルヘキモノニシテ所有者自ラ利用セス之ヲ他ニ賃貸シタル場合ニハ同法第五百五十七條ノ規定ニ依リ賃借人ニ於テ船舶所有者ト同一ノ權利義務ヲ有スルモノトス  
(參照) 船舶所有者ハ船長カ其法定ノ權限内ニ於テ爲シタル行爲又ハ船長其他ノ船員カ其職務ヲ行フニ當タリ他人ニ加ヘタル損害ニ付テハ航海ノ終ニ於テ船舶運送貨及ヒ船舶所有者カ其船舶ニ付キ有スル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ヲ債權者ニ委付シテ其責ヲ免ル、コトヲ得但船舶所有者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス」前項ノ規定ハ雇傭契約ニ因リテ生シタル船員ノ權利ニ付テハ此レヲ適用セス(商法第五百四十四條)船舶ノ賃借人カ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ其船舶ヲ航海ノ用ニ供シタルトキハ其利用ニ關スル事項ニ付テハ第三者ニ對シテ船舶所有者ト同一ノ權利義務ヲ有ス(商法第五百五十七條第一項)  
第一審 大阪地方裁判所

第二審 大阪控訴院

上告人

ドッドウエル、コンパニー、  
リミテッド

右代表者

シヨウジサイムタムソン

訴訟代理人

岸 清 一

被上告人

野田 正 敏

訴訟代理人

小出 卯 太郎

右當事者間ノ船舶債權請求事件ニ付大阪控訴院カ明治三十五年六月二十八日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

上告ニ係ル訴訟費用ハ上告人之ヲ負擔スヘシ

理由

上告論旨ノ第一ハ本件ニ於ケル主要ナル論點ハ船長カ航海繼續ノ爲メ必要ナル費用ヲ支辨スルタメ借財ヲ爲シタル場合ニ於テ其船舶カ第三者タル某甲某ノ雇船ニ屬スルトキ

船舶債權請求ノ件

ハ債權者ハ其債權ノ請求ヲ船主ニ向テ爲ヌヘキモノナルカ將又雇船者タル甲者ニ向テ爲ヌヘキモノナリヤニアリトス而シテ原院ニ於テハ此點ニ對シ左ノ如ク説明セラレタリ船長カ航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲メ借財ヲ爲スコトヲ得ルハ商法第五百六十八條ノ認ムル所ニシテ其權限内ニ於テ爲シタル行爲ニ付テハ船船所有者ニ於テ責任ヲ負フヘキコトハ同第五百四十四條ニ依リ知ルコトヲ得ヘキモ是レ畢竟船船所有者カ自ラ其船船ヲ利用スル場合ヲ規定シタルニ過キスシテ本訴ノ如キ他ノ借主アリテ其借主ニ於テ船船ヲ利用セルトキハ同第五百五十七條ノ規定ニ從ヒ借主カ第三者ニ對シテ船船所有者ト同一ノ權利義務ヲ有スルカ故ニ船長カ法定權限内ニ於テ爲シタル行爲ニ就テモ借主其責任ヲ負擔スヘク船船所有者ノ上ニ利用ニ付キ生シタル先取得權ヲ實行セラルハハ勿論ナルモ債權者タル控訴會社ニ對シテ債務ヲ負擔スヘキモノニアラス云々、右判決ノ要旨ハ歸スル所雇船ノ場合ニ於テ船船ノ航海ニ必要ナル費用ノ立替ヲ爲シタルモノハ船主ニ向テ之レカ請求ヲ爲ヌヘキモノニアラスシテ雇船者ニ向テ請求スヘキモノナリト云フニアリテハ其説明トシテ商法第五百五十七條ヲ引用セラレタリ然レトモ商法第五百五十七條ハ賃借人ノ權利義務ヲ定メタルニ止マリ此箇條アルカ爲メニ船主カ第三者ニ對スル權利義務ハ毫モ變スルコトナシ而シテ本件ニ

於ケル立替金ハ之ヲ外國ニ於テ爲シタルモノナレハ其立替人ハ船長ノミヲ信用シタルモノニシテ船長ヲ信シタルハ即チ船主ヲ信シ船主ニ對シ立替ヲ爲シタル意思ナルコト明ナルヲ以テ船主ニ對スル請求權ハ商法第五百五十七條ノ爲メ妨ケラル、コトナキモノナリト云フニ在リ  
依テ按スルニ商法第五百五十七條ハ船船ノ賃借人カ第一者ニ對シ有スル權利義務ヲ規定シタルモノニシテ第三者ニ對スル船船所有者ノ權利義務ヲ規定シタルモノニアラサルハ上告所論ノ如シト雖モ原院ノ判旨ハ第三者ニ對スル船船所有者ノ權利義務ハ商法第五百四十四條ノ規定スル所ナルニ同條ハ船船所有者カ自カラ其船船ヲ利用スル場合ニ限リ適用サルヘキモノニシテ本件ノ如ク所有者自ラ利用セス之ヲ他ニ貸貸シタル場合ニハ同法第五百五十七條ノ規定ニ因リ賃借人ニ於テ船船所有者ノ權利義務ヲ有スト云フニ在リテ第五百五十七條ハ第五百四十四條所定ノ船船所有者ノ權利義務ヲ變更シタルモノト云フニアラサルコトハ判文上明ナレハ本論旨ハ畢竟原判決ヲ誤解シタルニ基クモノニシテ上告ノ理由タラス  
上告論旨ノ第二ハ原判決ハ「被控訴人ハ債權發生ノ當時船船所有者タリシコト明ナリト雖モ被控訴人カ其當時船船ヲ他ニ貸付ケ居タルコトハ控訴會社ノ認メテ異議ナキ所

ナリ」ト説明シ結局商法第五百五十七條ノ規定ヲ適用シ第三者ニ對シテハ借主ハ船舶所有者ト同一ノ權利義務ヲ有スルヲ以テ船舶所有者ハ本件ノ債務ニ對シ辨濟ノ責任ナシト決定セリ然レトモ本件ノ船舶ハ債權發生ノ當時ニ於テハ備船契約ノ目的物ト爲リ居タルモノニシテ貸借ノ目的ト爲リ居リタルモノニアラサルノミナラス控訴人ハ原院ニ於テ其貸借又ハ使用貸借ノ目的物トナリ居リタルコトヲ認メタル事實ナキニ拘ハラヌ原院カ右ノ如ク恰モ其貸付ノ事實ヲ認メタルカ如キ説明ヲ下シタルハ不當ニ事實ヲ確定シタルモノナリト云ハサルヲ得ヌ而シテ控訴人ノ代理人ハ第一審ニ於テ「本訴船舶カ航海ノ當時貸船ニナリ居リタルコトハ後日知リタルニ依リ爭ハヌ」ト申立テタルコトアルモ右ハ備船ニナリ居リタリトノ意味ナルノミナラス此自白ハ原院ニ於テハ相手方ニ於テ援用セサリシヲ以テ原院カ之ニ依リテ判決ヲ爲スコトヲ得サルハ論ヲ俟タヌ加之假ニ上告人ハ原院ニ於テ右ノ如キ自白ヲ爲シタリトスルモ其所謂貸借ナルモノハ使用貸借ナルヤ又貸借ナリトスルモ賃借人カ商行爲ヲ爲スノ目的ヲ以テ船舶ヲ航海ノ用ニ供シタルヤ否ノ事實ヲ確定セヌシテ原院カ商法第五百五十七條ノ規定ヲ本件ニ適用シタルハ不當ニ法律ヲ適用シタル違法アルモノトスト云フニ在リ

依テ按スルニ原判決ニ引用シアル第一審判決事實摘示ノ部ヲ閱スルニ「其答辨（被上

告人）ノ要旨ハ（中略）被告（被上告人）ヲ船舶所有主ナリトスルモ立替當時淺岡ナル者船舶ノ賃借人トシテ自カラ之ヲ航海ノ用ニ供シ」云々トアリテ被上告人ニ於テ係爭金圓立替當時船舶ハ貸借中ナリトノ事實ヲ主張シタルコト明カナリ而シテ上告人カ右貸借ノ存在ヲ爭ヒタリトノ事跡ヲ認ムヘキ記載毫モ同判文中ニ存セサルノミナラス原審ノ記録中ニモ亦其形跡ノ見ルヘキナキヲ以テ係爭金圓立替當時被上告人カ船舶ヲ他ニ貸付ケ居タル事實ハ上告人ノ認メテ異議ナカリシモノト云ハサルヘカラス故ニ原判決ハ不當ニ事實ヲ確定シタル不法ノモノニアラス又上告人カ本訴請求ノ原因トシテ主張セシ所ハ商船南洋丸カ其航海ヲ繼續スル爲メニ必要ナル費用ヲ立替タルニ因リ商法ノ規定ニ基キ本訴ノ請求ヲ爲スト云フニ在リテ船舶ノ利用者カ商行爲ヲ爲スノ目的ヲ以テ之ヲ航海ノ用ニ供シタリトノ事實ハ上告人自カラ主張セシ所ナリ而シテ被上告人ニ於テモ之ヲ爭ハサリシ所ナレハ原院ニ於テハ其事實ノ確定ニ關シ更ニ判斷ヲ爲スノ必要ナカリシナリ故ニ原院カ其事實ヲ明ニ確定セヌシテ直ニ商法第五百五十七條ヲ適用シタリトテ之ヲ不法ト云フヲ得ヌ

上告論旨ノ第三ハ原判決ハ「況ンヤ證人富田又録ハ淺岡（船舶ノ借主）ヨリ支拂ヲ受タルハ當然ナルモ「デピス」又ハ「ドツドウエル」商會ハ淺岡ノ「エゼント」ナルヨリ甲

第一、二號證ノ支拂ヲ受ケタル旨供述セルヲ以テ觀レハ控訴會社ハ淺岡ノ代理人タル資格ヲ以テ立換支拂ヲ爲シタルモノニシテ船舶所有者タル被控訴人ニ關係ナキニ於テオヤ益々以テ控訴會社ハ船舶ノ借主ニ對シテ債權ヲ取得シタルモ被控訴人ニ對シテ之カ履行ヲ求メ能ハサルヲ知ルヘシト説明セリ然レトモ本訴債權發生ノ際船長ナリシ證人富田又錄ハ甲第一、二號證全部ニ署名シタルモノニアラス而シテ現ニ同人ハ其證言ニ於テ甲第一、二號證中第一部ハ餅及ヒ北川ノ署名シタルモノニシテ自己ノ署名以外ノ分ハ判ラサルコトヲ供述シ居ルニモ拘ハラヌ原院カ同人ノ供述ニ依リテ甲一、二號證ノ全部ニ及フモノナルカ如キ説明ヲ下シタルハ證人ノ供述ヲ離レ架空ニ事實ヲ確定シタル違法アリ又假リニ控訴會社ハ富田ノ供述スルカ如ク淺岡ノ代理人タル資格ヲ以テ立替支拂ヲ爲シタリトスルモ其支拂ヲ受ケタル船長カ船舶所有者ヨリ選任セラレ船舶所有者ノ代理人トシテ借財ヲ爲シタルモノナルヤ將タ船舶ノ借主ノ代理人トシテ借財ヲ爲シタルモノナルヤノ事實ヲ確定セサレハ原院説明ノ如ク被控訴人ニ責任ナシト云フヲ得サルハ勿論ナルニ原院カ此重要ナル事實ヲ確定セヌシテ漫然被控訴人ニ義務ナシト判決シタルハ不當ニ法則ヲ適用シタル違法アルヲ免カレスト云フニ在リ依テ按スルニ原判決中「況ンヤ證人富田又錄ハ」云々以下ノ理由ハ其前段ニ説示シア

ル理由ニ附從ノモノニ過キス而シテ前段ノ理由ノミニ依リ原判決ノ主文ヲ維持スルニ十分ナルヲ以テ縱合ヒ後段附從ノ理由ニ上告所論ノ如キ不法アリトスルモ以テ原判決ヲ破毀スルノ理由トスルニ足ラス依テ本論旨モ亦理由ナシ上告論旨ノ第四ハ本件ノ債權ハ北米合衆國領地ナル布哇「ホノル」及ヒ「ワシントン」州「シャトル」ニ於テ發生シタルモノナルコトハ當事者間ニ爭ナキ事實ナリ斯ノ如ク日英兩國人間ニ米國ニ於テ債權カ發生シタル場合ニ於テハ其効力ニ付テハ法例第七條ニ依リ當事者ノ意思ニ依リテ定マリタル國ノ法律又ハ行為地法ニ依テ之ヲ決セサル可カラス而シテ上告人ハ本件ニ於テ日本商法ノ規定ヲ引用シテ論スル所アリタルニハ相違ナキモ大體ニ於テ本件ノ債權ノ効力ニ關シ當事者ノ意思上孰レノ國ノ法律ニ依ルヘキヤヲ定メタル事實ノ有無ニ關シテハ當事者雙方ヨリ何等ノ申立ヲモ爲サ、ルヲ以テ原院ハ宜シク此點ヲ職權上審究シ英米日其他孰レノ國ノ法律ヲ本件ニ適用スヘキヤヲ定メサルヘカラス然ルニ原院カ此點ニ關シテ何等ノ審究ヲモ爲サヌ又何等ノ説明ヲ與ヘヌ漫然日本商法ノ規定ニ依テ判決ヲ下シタルハ違法ナリト云フニ在リ

依テ按スルニ法律行為ノ成立及ヒ効力ニ關シ何レノ國ノ法律ヲ適用スヘキヤハ當事者ノ意思表示ニ因リ之ヲ定ムヘキヲ通則トス今本件原判決ニ引用シアル第一審判決ノ記

載ニハ(前略)然ルニ日本商法ノ規定ニヨレハ(中略)故ニ南洋丸ノ所有者タル被告(被上告人)ニ對シ立替金償還ノ請求ヲ爲シタルモ云々本訴請求ヲ爲ス云々トアルヲ以テ上告人ハ係争權利關係ニ付テハ日本帝國ノ法律ヲ適用スルノ意思ヲ有セシモノト云ハサルヘカラス而シテ被上告人ニ於テモ之ト反對ノ意思ヲ表シタルコトナキニ因リ本件ニ日本帝國ノ法律ヲ適用スヘキコトハ當事者ノ意思ニ因リ既ニ定マリタル事實ナリト云ハサルヘカラス然ラハ則チ原院ニ於テハ此點ニ關シテ何等ノ審究ヲ爲シ又何等ノ說明ヲ爲スノ要ナカリシモノナレハ原院カ此點ニ付キ何等ノ審究ヲ爲サヌ又何等ノ說明ヲ爲サ、リシハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

以上説明スル如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百五十二條第七十二條ニ依リ主文ノ如ク判決スヘキモノトス

荷爲替附從契約履行請求ノ件(明治三十六年(オ)第四百六十一號 明治三十六年六月十三日第一民事部判決)

判決要旨

一 荷爲替ニ於ケル爲替手形ハ流通證券トシテ發行スルモノニ非ス從テ受取人ナル銀行カ他ノ銀行ニ裏書ヲ爲スコトアルモ其趣旨タル手形記載ノ金額取立ヲ委任スルヲ以テ通例トシ權利ノ移轉ヲ目的トスルモノニ非ス

第一審 青森地方裁判所弘前支部

第二審 函館控訴院

上告人 五十嵐 彦 作

被上告人 株式會社藤崎銀行

訴訟代理人 井本 常 治

右法定代理人 長谷川 誠 三

右當事者間ノ荷爲替附從契約履行請求事件ニ付函館控訴院カ明治三十六年一月十六日ニ言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ且ツ被上告人ハ期日ニ出頭セサルニ付闕席ノ儘判決アリタキ旨申立タリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

荷爲替附從契約履行請求ノ件

上告ニ係ル訴訟費用ハ上告人之ヲ負擔スヘシ

理由

上告諭旨ノ第一ハ本件甲二號爲替手形ハ明治三十一年四月二十日ノ振出ニ係リ同月二十四日ノ支拂期日タルコト甲第二號證自體ニ徴シ明白ナリ而シテ被上告人ハ其支拂期日後即チ明治三十二年九月八日ニ至リ同爲替手形ヲ株式會社第五十九銀行青森支店ヨリ裏書讓渡ヲ受ケ其事實ニ依リ上告人ニ對シ本訴請求ヲ爲シタル本件ナルヲ以テ株式會社第五十九銀行ニシテ上告人ニ對シ本債權主張ノ權利ナキ以上ハ其承繼人タル被上告人モ亦其權利ナキヤ明カナルニ原院ハ被上告人ノ請求ヲ認許シタルハ不當ナリト云ヒ」其第二ハ原院カ論斷シタルカ如ク被上告人ノ請求ハ甲第三號副契約證書ニ依リ本件請求ヲ爲シタルモノニシテ甲第二號手形ニ關スルナシトスレハ甲二號手形ヲ株式會社第五十九銀行へ裏書シタ際既ニ相當ノ償還ヲ得タル筋合ナルヲ以テ一モ被害ノ事實ナキモノナレハ獨リ甲三號證ノミニ依リ本訴請求ヲ爲スヲ得サルコト明カナリトスト云ヒ」其三ハ本件被上告人ノ請求原因トスル所ハ其訴狀ニ於テ明白ニ陳述シアルカ如ク「要スルニ㊦陸運合資會社ハ荷爲替ノ慣行ニ背キ奥村常太郎ヨリ貨物引換證ノ提出ナキニ拘ハラヌ荷爲替ノ擔保物ヲ引渡シタ出ナキニ拘ハラヌ荷爲替ノ擔保物ヲ引渡シタル爲メ手形金額ノ支拂ヲ受クル能ハサル

ニ至リタルモノニシテ此場合ニ於テハ被告ハ速ニ辨償ノ義務ヲ負ヒタリ」ト云フニアリテ原判決ニ引用シタル第一審判決事實爭點ノ摘示ニ於テモ被上告人ハ「荷爲替ノ慣行ニ背キ奥村常太郎ヨリ貨物引換證ノ提出ナキニ拘ハラヌ荷爲替ノ擔保物ヲ引渡シタル爲メ手形金額ノ支拂ヲ受クル能ハサルニ至リタルモノニシテ從テ被告ハ其振出シタル手形記載ノ金額ヲ辨償スヘキ義務アルモノトス」トアリテ要約スル所上告人ト被上告人トノ間ニ取結ヒタル荷爲替契約ニ基キ成立シタル爲替手形カ現實ニ支拂ハレサリシコトヲ原因トシ上告人ニ對シ之レカ辨償ノ責任ヲ求メ出タルモノタルコト爭フヘカラス然ルニ原判決ニ於テハ被上告人ノ請求原因ヲ以テ單ニ甲第三號證ノ附從契約ニ基ケルモノト爲シ爭點ハ甲三號證ニ基ク本訴請求ノ當否ニ在リトス」ト冒頭ニ之レカ斷案ヲ下シ次ヒテ甲第三號證ニ關シ縷々ノ說明ヲ付シ結局「該證ハ當事者間ニ於ケル荷爲替契約ニ外ナラス」ト說明シ「荷爲替手形カ手形法上有効ナルヤ否ヤハ控訴人ノ權利上ニ何等ノ影響ナキモノトス」而シテ本件ノ訴旨ヲ按スルニ(云々中略)「手形債權ヲ主張スルノ意ニアラスシテ甲第三號證ノ契約ニ因リ爲替手形金ノ辨償ヲ請求スルノ訴旨ナリ(云々中略)然ラハ則チ爲替手形ノ裏書人タル第五十九銀行青森支店カ支拂人ニ對シ適法ノ請求ヲ爲シタル事實ノ有無ハ本訴請求ノ當否ニ何等ノ影響ヲ及ホスヘキ

荷爲替附從契約履行請求ノ件

モノニアラスシテ要點ハ手形ノ支拂人奥村常太郎カ爲替金ヲ支拂ヒタルヤ否ヤニ在ル  
 モノトス判定シ結局「甲三號證中運送店ノ不都合等ニ關シ名宛人手形ノ支拂ヲ爲サ、  
 ルトキハ速ニ辨償可致トアル契約ニ該當スルモノナルヲ以テ被控訴人ニ於テ手形資金  
 ヲ爲替支拂人ニ供與シタルト否トニ關セス本訴控訴人ノ請求ニ應ヘキ責務アルモノ  
 トス」ト判断ヲ附セラレタルハ上告人ノ請求原因ヲ以テ甲第二號證ナル爲替手形ニ  
 全ク關係ヲ有セス唯タ甲第三號證ノミヲ原因トスルモノナリト確定シ相手方ノ主張セ  
 サリシ事項ヲ以テ不法ニ其責任ヲ上告人ニ歸セシメタルモノニシテ民事訴訟法第二百  
 三十一條ニ違背シ同第四百三十五條ニ該當スル不法ノ判決ナリト云ヒ」其四點ハ原判  
 決ニ於テ「甲第三號證ノ契約ハ所謂荷爲替契約ニ外ナラス爲シテ荷爲替契約ヨリ生ス  
 ル當事者間ノ法律關係ハ物品擔保付ノ金貸借關係ニ過キサルヲ以テ」云々ト判断セ  
 ラレタルハ不法ナリ何トナレハ荷爲替契約ナルモノハ擔保付爲替行爲ニシテ擔保付金  
 錢貸借關係ニアラス若シ荷爲替ヲ以テ消費貸借ナリトスルトキハ引受人ト爲替手形ノ  
 所持人トノ法律關係等ハ如何ニ之ヲ定メ得ラルヘキカ殆ト想像ニ苦マサルヲ得ス而シ  
 テ荷爲替契約ナルモノハ唯引受人ノ爲メニ擔保アル爲替行爲ニ過キサルコトニ辨ヲ要  
 セスシテ明ラカナル所ナリ然ルニ原判決カ右ノ如ク荷爲替契約ハ擔保付貸借ナリト判

斷シ其結果上告人ニ責任ヲ歸セシムルニ至リタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル不法ノ判  
 決ナリト云フニ在リテ被上告人ハ辨論期日ヲ懈怠セリ  
 按スルニ現今我國ニ行ハル、荷爲替ト稱スルモノハ荷主カ隔地者ニ對シ物品ヲ送付ス  
 ルニ方リ銀行ヨリ代金ノ融通ヲ得ル方法トシテ使用スルモノニシ、荷主ハ物品運送人  
 ノ發シタル證券ニシテ其領收ニ要スルモノ（例ハ貨物引換證券、船荷證券ノ如シ）  
 竝ニ荷爲替手形カ不拂トナルトキハ銀行ハ物品ヲ處分シ代金ヲ以テ辨償ヲ受クルコト  
 ヲ得ヘキ旨及其滅失若シクハ運送人ノ行爲ニ因リ銀行カ之ヲ處分シテ辨償ヲ受ルコト  
 能ハサルニ至ル等ノ場合ニ於テハ辨償ヲ爲ス責ニ任スル旨ヲ特約セル證券ヲ爲替手形  
 ニ添ヘテ銀行ニ交付シ銀行ハ之ニ依リ其相當ト認ムル金圓ヲ貸出スモノトス故ニ爲替  
 手形ト稱スルモノハ荷主カ荷受人ニ對シ手形受取人タル銀行ノ指圖ニ依リ記載ノ金額  
 ヲ支拂ハシムルコトヲ委託スル爲メニ存シ其手形ニ添付シタル貨物證券及ヒ副證ハ銀  
 行ヲシテ貸出金ノ取立ヲ確實ナラシムル爲メ銀行ニ交付スルコト當事者ノ意思ニシテ  
 爲替手形ハ流通證券トシテ發行スルモノニ非ス從ツテ其受取人ナル銀行カ他ノ銀行ニ  
 裏書ヲ爲スコトアルモ其趣旨タル手形記載ノ金額ノ取立ヲ委託スルヲ以テ通例トシ權  
 利ノ爲替ヲ目的トスルモノニ在ラス今一件記録ヲ査閱スルニ被上告人ハ上告人ノ依頼

荷爲替附從契約履行請求ノ件

ニ依リ前掲慣例ノ如ク貨物引換證(甲一號證)爲替手形(甲二號證)及爲替手形副證(甲三號證)ヲ受取り金七百圓ヲ上告人ニ貸出荷受人即支拂受託人ナル奥村常太郎ヨリ支拂ヲ受クルタメ爲替手形ニ裏書シテ第五十九銀行ニ取立ヲ委託シタルモ常太郎ハ支拂ヲ爲サハルノミナラス運送人ニ於テハ物品ヲ引渡シタル爲メ被上告銀行ハ復タ之ヲ處分シ辨濟ヲ受クルコト能ハス竟ニ右副證契約ニ基キ本訴ヲ提起スルニ至レルコト明白ニシテ被上告人ハ爲替手形債權者トシテ請求ヲ爲スモノニ非ス特約ニ基キ貸渡金ノ辨濟ヲ求ムルモノト云フヘキハ原院ノ確定シタル事實ノ如シ蓋シ甲第二號證ノ裏書ニハ取立ノ爲メスルモノナル旨ノ記載ナシト雖モ其金額取立ノ爲メ第五十九銀行ニ裏書ヲ爲シタル旨ノ主張ニ付テハ爭ナカリシコトハ原院ノ引用シタル第一審判決ノ事實ノ記載ニ照シ疑ナシ是ニ由リテ之ヲ觀レハ被上告人ハ甲第二號證ナル手形ノ被裏書人トシテ手形債務ノ履行ヲ請求スル者ニ非サルコト自ラ明ナリト謂フヘシ故ニ被上告人ハ第五十九銀行ヨリ満期後ニ承繼シタル手形權利ヲ行フモノニ非ス又同銀行ヨリ手形對價(上告代理人カ所謂相當ノ償還)ヲ得タルモノト謂フヘカラス而シテ被上告人ノ請求ハ手形債務ノ履行ヲ求ムルニ非ラサレハ原院決ニハ民事訴訟法第二百三十一條ニ違フ不法ナキコト勿論ニシテ荷爲替契約ニ背反シタリト云フ非難ヲ客ルヘキ餘地アルコト

ナシ要スルニ上告論旨何レモ荷爲替行爲ノ性質ヲ誤解スルニ因レルモノニシテ採用スルコトヲ得ス(明治三十一年(オ)一七〇號明治三十二年一月十二日判決同年判決錄第一卷參照)  
以上ノ理由ナルヲ以テ本件上告ハ民事訴訟法第四百五十二條ニ依リ棄却スヘキモノトス



損害要償ノ件

(明治三十六拾年 第一三三五號)  
(明治三十六拾年七月二日第一民事部判決)

判決要旨

一、運送人カ船荷證券ヲ受取ラスシテ荷爲替附ノ貨物ヲ荷受人ニ交付シタル爲メ該爲替金ヲ償還セル荷送人ハ契約ノ違背者タル運送人ニ對シ其違背ニ因テ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルト代金ヲ支拂ハスシテ物品ヲ受取リタル荷受人ニ對シ其代金ヲ請求スルト自由ニ選擇シ得ルモノトス

第一審 福岡地方裁判所久留米支部

第二審 長崎控訴院

上告人 石橋利吉

訴訟代理人 近藤孝吉

被告 松本守太郎

右當事者間ノ損害要償事件ニ付長崎控訴院カ明治三十六年四月八日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部被毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告理由ノ第一ハ原院ニ於ケル本訴主要ノ争點ハ上告人カ船荷證券ヲ受取ラスシテ本訴ノ物件ヲ荷受人森山豊吉ニ交付シタルハ正當ノ所爲ナリヤ否ヤ之カ爲メ被告上告人ハ如何ナル損害ヲ蒙リタルヤノ二點ニ存スルコトハ原院決「事實及争點ノ摘示」中ニ在ルカ如シ而シテ右前段争點ニ付キ原院カ如何ニ判斷シタルヤヲ見ルニ(前略)去レハ被控訴人(上告人)ハ本件ノ貨物ニ付船荷證券ヲ發行シアルコトヲ知ラサル筈ナキヲ以テ荷受人ニ於テ船荷證券ヲ受取リ之ト引換ニ右貨物ノ引渡ヲ求ムルニアラサレハ之ヲ交付スヘカラサルモノナルニ被控訴人(上告人)ハ右ノ手續ニ依ラスシテ之ヲ森山豊吉ニ引渡シタルハ不當ノ處置ト云ハサルヘカラストナシ此一點ヲ捉エテ直チニ上告人ノ處置ヲ不當ナリト判定セラレタルハ商法第六百二十一條同法第六百二十條同法第六百二十二條ノ法則ヲ適用セヌ民法第七百九條ヲ不當ニ適用シタル不法ノ裁判ナリトス何ヲナレハ(第二)甲第二號船荷證券ハ元扱間屋森崎榮次郎カ船長ニ代リテ荷送人ニ交付シタルモノナルコトハ被告上告人ノ争ハサル所ナルニモ拘ハラヌ船船所有者カ其交付ヲ委任シタルノ事實ノ更ラニ見ルヘキモノナキハ商法第六百二十一條ノ法則ニ違反シ(第二)證人森崎榮次郎小島常市ハ該證券ニ船名太湖丸トアルニ拘ハラヌ其運送品ハ實

損害要償ノ件

際對島丸ニ積込ミタル事ヲ證言シ該船荷證券ハ未タ運送品ヲ船積セサル以前ニ於テ發行シタルモノナルコトハ被上告人ノ爭ハサル所ニシテ商法第六百二十條ノ運送品ノ船積後云々トアル規定ニ違反シ(第二)該證券記載ノ船名ト運送品登載ノ船名ト相一致セサルコトハ被上告人ノ爭ハサル所ニシテ結局船舶ノ名稱ヲ記載セサルモノニ歸シ同法第六百二十二條第一號ノ要件ヲ欠缺シ其證券ハ法律上無効ナリト謂ハサルヘカラス果シテ然ラハ假令上告人カ該證券ノ交付ヲ受ケスシテ本訴物件ヲ荷受人ニ引渡シタリトスルモ直チニ上告人ノ不法行為ナリトナスコトヲ得サレハナリト云フニアリ

因テ原院ノ法廷調書ヲ閱スルニ被控訴人(即上告人)ハ甲號各證ヲ否認シ從テ甲第二號船荷證券ヲ否認シタルコトノ記載アルモ該證ハ訴外者ノ作成シタルモノナレハ原院ハ上告人カ之ヲ否認シタルニ拘ハラヌ採テ以テ判斷ノ資料ニ供スルコトヲ得ルヤ多辯ヲ要セス而シテ上告人モ認ムル如ク本件主要ノ爭點ノ一ハ上告人カ船荷證券ヲ受取ラスシテ本件運送品ヲ荷受人ニ交付シタルハ正當ノ所爲ナリシヤ否ヤニ在リテ上告論旨ノ如キ甲第二號船荷證券ノ作成者カ果シテ之ヲ作成シテ交付スル權限ヲ有シタルヤ否右船荷證券カ運送品ヲ船積ミセサル以前ニ於テ作成セラレ從テ無効ノモノナリヤ否又右船荷證券ニ記載シタル船名ト運送品登載ノ船名トカ符合セサル爲メ其證券カ無

効ノモノナリヤ否ハ原院ニ於テ一モ抗辯トシテ提出セラレタル事實ノ徵スヘキモノナリ却テ原院ノ法廷調書ニハ「控訴代人ハ云云甲第二號證ヲ以テ控訴人被上告人カ爲替金ヲ銀行ニ支拂ヒ其爲メ森崎回漕店ヨリ發行シ居リシ船荷證券ヲ控訴人ノ手ニ受取タル事實ヲ證シ云々」トアリ又被控訴人ハ云々「控訴人ハ云々控訴人ノ主張スル石油ヲ受取リタルコトハ相違ナキモ荷爲替附ナルコト知ラサリシ爲メ森山豊吉ニ交付シタルモノナレハ控訴人ノ請求ニ應スヘキ義務ナシ」云々トアルニ依リテ觀レハ上告人ハ甲第二號船荷證券ノ効力ニ付テハ更ニ爭フ所ナク上告人カ其船荷證券ヲ受取ラスシテ運送品ヲ荷受人ニ交付シタルノ當否ヲ以テ爭點ト爲シタルコト固ナリ然ラハ原院ハ職權ヲ以テ船荷證券ノ効力ヲ調査スヘキ職責アルモノニアラサレハ本論旨ノ失當ナルコト又多言ヲ要セス

其第二ハ原判決ハ(前略)然ラハ即チ控訴人(被上告人)一方ニ本訴ノ貨物ヲ喪失シタル上ニ尙ホ右ノ爲替金(其額面金二百八十一圓十錢)及遲滯利子金百一十一圓六十六錢ヲ償還スルニ至リタルモノニシテ控訴人(被上告人)ノ此損害ハ被控訴人(上告人)カ船荷證券ヲ受取ラスシテ本訴荷物ヲ荷受人ニ交付シタル不當ノ處置ニ基因ス」ト判示セシレタルモ右上告人ノ處置ト被上告人ノ爲替金償還トハ何等ノ原因結果ノ關係ナシ

損害要償ノ件

ニ上告人ハ荷受人ニ對シ船荷證券ト引換ニアラスンハ本訴ノ貨物ヲ引渡サスト主張スルモ尙且被上告人カ爲替金ノ償還ヲナサ、ルヲ得サル場合アルコトハ固ヨリニシテ結局原判決ハ民法第七百九條ヲ不當ニ適用シタル不法ノ判決ナリト云ヒ又其第三ハ上告人カ船荷證券ト引換ニアラスシテ本訴ノ貨物ヲ荷受人ニ交付シタルハ其處置宜シキヲ得タルモノニアテラストスルモ被上告人ハ其貨物ノ代金請求ノ權利ヲ荷受人ニ對シ有ルコト固ヨリナレハ之カ爲メニ被上告人ハ直ニ本訴ノ貨物ヲ喪失スルノ損害ヲ蒙リタリト爲スコトヲ得ス然ルニ原判決ハ被上告人カ荷受人ニ對シ有スル所ノ權利如何ヲ顧ミヌシテ直チニ(前畧)然ラハ則チ控訴人(被上告人)ハ一方ニ本訴ノ貨物ヲ喪失シタル上ニ尙ホ右ノ爲替金ヲ償還スルニ至リタルモノニシテ控訴人(被上告人)ノ此損害ハ被控訴人(上告人)カ船荷證券ヲ受取ラスシテ本訴貨物ヲ荷受人ニ交付シタル不當ノ處置ニ基因ス」ト判定セラレタルハ民法第七百九條ヲ不當ニ適用シタル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原院カ引用シタル第一審ニ於ケル原告即チ被上告人ノ事實上陳述ヲ見ルニ「原告代理人ハ云々仍テ被告ハ荷受主森山豊吉カ該手形ノ支拂ヲ了ヘ船荷證券ヲ得タル上同證引替ニ該物件ノ引渡ヲ爲スヘキ筈ナルニ不法ニ同證ノ交付ヲ受ケヌ猥ニ物件ノ引渡ヲ了シタルヨリ云々」之レ全ク被告カ商習慣及運送契約ヲ無視シ船

荷證券ノ交付ヲ得スシテ擅ニ物品ノ引渡ヲ了シタル不法行爲ノ結果ニ外ナラサルヲ以テ云々」トアルカ故ニ被上告人ハ本件ヲ以テ運送契約ノ違背ニ因テ生スル損害賠償ヲ請求スルモノニシテ原判決ノ趣旨ニ依ルモ亦契約違背ニ因ル損害賠償ノ請求トシテ被上告人ノ請求ヲ容レタルモノナルコト明ナリ其然ル所以ハ原判文中特ニ(前畧)被控訴人(上告人)ハ本件貨物ニ付船荷證券ヲ發行シアルコトヲ知ラサル筈ナキヲ以テ荷受人森山豊吉ニ於テ云々爲替金ノ支拂ヲ了シ船荷證券ヲ受取り之ト引換ニ右貨物ノ引渡ヲ求ムルニアラサレハ之ヲ交付スヘカラサルモノナルニ被控訴人ハ右ノ手續ニヨラスシテ之ヲ森山豊吉ニ引渡シタルハ不當ノ處置ト云ハサルヘカラス云々」トアルニ依テ知ルコトヲ得ヘシ而シテ上告人ハ上告人ノ處置ト被上告人ノ爲替金償還トハ何等ノ原因結果ノ關係ナシト云フモ上告人カ船荷證券ト引換ニ運送品ヲ荷受人ニ交付スルノ處置ニ出テタランニハ被上告人ハ爲替金ヲ償還スルカ如キコトナカリシヤ明カナルモ上告人ノ處置茲ニ出テサリシカ故ニ之ヲ償還セサルヲ得サルニ至リタル次第ナレハ前掲上告人ノ所論ハ失當ナリ又原院カ認定シタル本件事實ノ如キ場合ニ於テ契約ノ違背者タル上告人ニ對シテ其違背ニ因テ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルト代金ヲ支拂ハスシテ物品ヲ受取リタル荷受人ニ對シテ其代金ヲ請求スルトハ全ク被上告人ノ自由ニ選擇ス

ルコトヲ得ルモノナルヲ以テ前掲上告第三ノ論旨モ亦失當ナリトス  
 其第四ハ原判決理由末尾ニ「然リ然シテ控訴人(被上告人)カ右ノ荷爲替金償還額ヲ以テ本訴ノ賠償額トナシタルハ相當ニシテ云々」ト判定セラレタリ然レテ「被上告人ノ訴狀」第一審第二審口頭辨論調書」及ヒ「第一審判決事實ノ部」原判決事實及爭點ノ摘示ノ部」ニ徴スルニ何レモ皆被上告人ハ貨物現時ノ價額及ヒ延滞日歩ノ賠償ヲ求ムルコトヲ申立テ荷爲替金償還額ヲ以テ本訴ノ損害額ト爲ヌ旨ノ申立ヲ爲シタルコト更ニ之レナシ本訴ニ於テハ荷爲替金償還額ト貨物現時ノ價額及延滞日歩トハ偶々以テ其金額ヲ同フスト雖モ法律上兩者ハ全ク別箇ノモノニシテ其金額ニ異同アルハ勿論ナリ是ニ依テ之ヲ觀レハ原判決ハ民事訴訟法第二百三十一條ニ違背シ同時ニ上告人ノ處置ト無關係ナル荷爲替金償還額ヲ以テ被上告人ノ蒙リタル損害ノ數額ヲ算定シタルハ民法第百九條ヲ不當ニ適用シタル不法ノ判決ナリト云フニ在リ  
 然レトモ訴狀ニハ一定ノ申立トシテ「被告ハ金參百九拾貳圓七拾八錢ニ明治三十四年九月二十七日ヨリ本件執行濟ニ至ルマテ年百分ノ六ノ利息ヲ加ヘ原告ニ支拂フ様云々」トアリ控訴狀一定ノ申立ノ内容モ同様ニシテ其他第一審第二審ノ調書ニ於テモ請求金額ニ關スル一完ノ申立ニ至リテハ別ニ訴狀ト異ナル所ナシ而シテ上告人ノ處置カ

荷爲替金ノ償還ニ密接ノ關係アリシコトハ上告理由ノ第二ニ對スル説明ニ依テ知ルコトヲ得ヘシ故ニ本論旨モ適法ノ理由トナラス

以上説明スル如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ノ規定ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

貨物賃納金ニ對スル割戻請求ノ件(明治三十六年(オ)第百九十一號 明治三十六年七月七日第一民事部判決)

判決要旨

一民法第百十條ノ規定ハ第三者ヲシテ其宥恕スヘキ誤信ノ結果ヲ免レシメ其利益ヲ保護シテ安全ニ取引ヲ爲サシメントスル精神ニ出テタルモノトス隨テ本人ニハ何等ノ過失ナク劫テ第三者ニ過失アル場合ニ於テハ縱令第三者カ代理人ニ其行爲ヲ爲スノ權限アリト信スルモ之ヲ信スヘキ正當ノ理由アルニ非サルヲ以テ同條ノ規定ヲ適用スルヲ得ス

(參照) 代理人カ其權限ノ外ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者カ其權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有セシトキハ前條ノ規定ヲ準用ス(民法第百十條)

第一審 東京地方裁判所

第二審 東京控訴院

上告人 新神合資會社

右清算人 小野猪三郎

訴訟代理人 篠田治策

横田千之助

鐵道作業局長官

被告 古市公威

訴訟代理人 岸清一

右當事者間ノ貨物賃納金ニ對スル割戻請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十六年二月二十三日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被告上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

立會檢事小宮三保松ハ意見ヲ陳述シタリ

判決

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ東京控訴院ニ差戻ス

理由

上告論旨第五點ハ原判決ハ民法第百十條ノ解釋ヲ誤ル代理人ト本人トノ間ニ代理關係ノ生スル場合ニ於テ當事者ノ意思表示ニヨルモ亦法律上ノ結果ニヨルモ代理人ハ正當ナル行爲ヲナス可キコトヲ豫想シテ其代理權ヲ享有スルモノナルヲ以テ犯罪行爲ノ場合ニ迄代理權ノ範圍ヲ擴張セシムルハ固ヨリ當事者ノ意思ニモアラス亦法律ノ精神ニ

貨物賃納金ニ對スル割戻請求ノ件

モ非ラサルナリ原院ニ於テ民法第百十條ニ於テハ代理人ノ權限外ノ行爲ニ付刑事上ノ  
 犯罪ヲ構成スル場合タルト否トヲ區別セサルヲ以テ汎ク代理人ノ權限外ノ行爲ニ付キ  
 適用スヘキモノトスト解セラレタルハ民法百十條ノ解釋ヲ誤リ因テ法律ヲ不當ニ適用  
 セテレタル不法アリト云ヒ之ニ對スル被上告人ノ答辯ト上告第五點ハ不法行爲ノ代理  
 ナルモノハ法理ニ反ス然ルニ原判決カ民法第百十條ノ規定ハ代理人ノ犯罪行爲ナルト  
 否トヲ區別セサルモノトナシタルハ不法ナリト云フニ在リ惟フニ單純ナル事實行爲ノ  
 ミニ依ル不法行爲例ヘハ(毆打竊盜等)ニ付テハ代理關係ノ存在ヲ許サ、ルハ固ヨリ明  
 ナリト雖モ法律行爲(若クハ法律行爲類似ノ行爲)ノ存在ヲ俟テ初メテ成立スル不法  
 行爲(例ヘハ冒認罪ノ如シ)ニアリテハ其法律行爲ノ部分ニ付テ代理關係ノ存在ヲ妨  
 ケサルナリ加之假リニ數步ヲ讓リテ不法行爲ニ付テハ絕對ニ代理關係ノ存在ナキモノ  
 トスルモ民法第百十條ノ規定ハ其者ニ代理權アリト爲スノ規定ニアラスシテ代理權ア  
 ルモノカ爲シタルトキト同一ノ責任ヲ本人ニ負ハシムルノ法意ニ外ナラサレハ犯罪行  
 爲ニ付キ代理關係カ存在シ得ヘキヤ否ヤノ問題トハ何等ノ關係ヲ有セス從テ原判決カ  
 此場合ニアリテハ刑事上犯罪ヲ構成スル場合ナルト否トヲ區別セサルモノト判定シタ  
 ルハ正當ナリ若シ夫レ上告人所論ノ如ク民法第百十條ノ規定ハ不法行爲ニ依リテ代表

セラレタルトキニ於テハ全然其適用ナキモノトセンカ代理人カ擅ニ其權限ヲ超過シ又  
 ハ代理權ナキモノカ代理人トシテ其行爲ヲ爲スカ如キ場合ニ於テハ同時ニ不法行爲ノ  
 存在スルコト其多キヲ占ムルハ普通ノ狀態ナルヲ以テ第三者カ真正ニ代理權アリト信  
 スヘキ正當ノ理由アル場合ニ於テモ直接本人ニ對シ効力ヲ生セシムルコト能ハスシテ  
 法律カ此法條ヲ設ケテ第三者ヲ保護セントシタル精神ハ全然滅却セラレ、ニ至ルヘシ  
 是レ豈ニ法ノ眞意ナランヤ要スルニ此點ニ關スル上告モ亦全然其理由ナシト云ハサル  
 ヲ得スト云フニ在リ○本件ニ付テハ上告人カ明治三十一年十二月以降同三十二年二月  
 ニ至ル貨物賃納金額ニ對シ被上告人ヨリ上告人ニ割戻スヘキ金額千八百二十五圓十六  
 錢二厘アルコトハ被上告人ノ認ムル所ナルモ明治三十年三月ヨリ同三十一年七月ニ至  
 ル上告人貨物託送運賃額金四十九萬三千三百九十六圓ナルニ拘ハラヌ被上告人ハ其總  
 額金五十六萬六千六百一十一圓八十九錢ナリト誤信シテ割戻ヲ爲シ其割戻金ハ上告人ノ  
 支配人逸見才三ニ之ヲ支拂ヒタルヲ以テ結局其總額ノ差異ニ對スル百分ノ五即チ金三  
 千六百六十圓七十九錢二厘ハ全ク過拂ト爲レルカ故ニ被上告人ハ曩キニ其返納ヲ上告  
 人ニ通知シタルモ上告人之ヲ納入セサルヲ以テ上告人ニ割戻スヘキ前掲金額ト相殺ス  
 ル意思表示ヲ爲シ置キタレハ前掲過拂金額ニ對當スル金額ノ請求ハ不當ナリトノ被上

貨物賃納金ニ對スル割戻請求ノ件

告人ノ抗辯ニ對シ上告人ハ被上告人カ相殺ヲ以テ對スル金額ハ逸見才三外二名カ共謀シ官文書偽造行使詐欺取財ノ結果被上告人ヨリ詐取シタルモノニシテ上告人ハ之ニ對シ何等ノ責任ナキヲ以テ前掲割戻金總額ヲ請求スル權利アリト爭フモノナルコト原判決事實ノ摘示及一件記録ニ徴シテ明カナリ而シテ原院ハ其主要ノ爭點ニ對スル判斷トシテ實ニ「本件ニ於テ被控訴人（被上告人）カ相殺ヲ對抗スル所ノ金額ハ逸見才三カ控訴人會社ノ支配人ニシテ貨物賃納金ニ對スル割戻金受領ノ權限ヲ有スル當時ニ於テ其割戻金トシテ受領シタルモノナルコトハ當時者間ニ爭ナキ所ナリトス此場合ニ於テ逸見才三ニ權限外ノ行為殊ニ犯罪行為アリト雖モ第三者タル被控訴人ニ於テハ其權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有セシモノト認ムルニ足レリ從テ民法百十條ノ適用ヲ受クヘキモノトス云々」ト説明セリ按スルニ民法百十條ノ規定ハ第三者ヲシテ其有恕スヘキ誤信ノ結果ヲ免カレシメ其利益ヲ保護シテ安全ニ取引ヲ爲サシムトスル精神ニ出テタルモノナリ元來代理人カ代理ノ權限ヲ超ヘテ爲シタル行為ニ付テハ本人ヲシテ其責ニ任セシムヘキ筈ナキカ如シト雖モ若シ第三者ヲシテ代理人カ其權限内ニ於テ行為ヲ爲スモノナリト誤信セシムル正當ノ理由アリシニ拘ハラズ本人ヲシテ其行為ニ付キ責ニ任セシムヘキモノニ非ストセハ第三者ハ安全ニ代理人ト取引ヲ爲スコトヲ

得サルニ至リ從テ自ラ代理人ト第三者トノ取引ヲ阻碍スル結果ヲ生スヘシ但シ斯ク第  
三者ノ利益ヲ保護スルヲ主眼トスル第百十條ノ規定ヲ適用セシムルニハ第三者カ代理  
人ニ其行為ヲ爲ス權限アリト信シタル正當ノ理由ナカルヘカラス例ヘハ本人カ代理人  
ニ何等ノ制限ヲ付セス或種ノ行為ヲ爲ス代理權ヲ與ヘテ第三者ト取引ヲ爲サシメ來リ  
タル後其代理權ニ或制限ヲ付シタルニ拘ハラズ其旨ヲ通知セサリシ過失アルカ爲メ第  
三者ハ從來ノ如ク代理權ニ何等ノ制限ナキモノト誤信シテ代理人ト取引ヲ爲シタル場  
合ニ於テハ本人ハ代理人ノ行為カ權限ヲ超ヘタルコトヲ口實トシテ其行為ニ付キ責任  
ヲ免カル、コトヲ得サルカ如シ而シテ此例示ノ場合ニ於テ代理人カ權限ヲ超ヘテ爲シ  
タル行為ニシテ假令ヒ犯罪ヲ成スコトアリトスルモ苟モ本人ニ於テ第三者ニ其權限ア  
リト信セシムルニ至レル過失アリタル場合ナランカ第百十條ノ規定ヲ適用スヘキ場  
合ナリトス故ニ原院カ「民法第百十條ニ於テハ代理人ノ權限外ノ行為ニ付キ刑事上ノ  
犯罪ヲ構成スルト否トヲ區別セサルヲ以テ云々」ト説明シタルハ法則ヲ不當ニ適用シ  
タルモノニ非ス然レトモ今本件ニ付テ之ヲ觀ルニ上告會社ノ支配人逸見才三ハ貨物賃  
納金ニ對スル割戻金受領ノ權限ヲ有スル當時ニ於テ他人ト共謀シテ文書ヲ偽造行使シ  
因テ以テ割戻金額ヲ膨大ニシ其一部ヲ詐取シタルモノニシテ才三八固ヨリ割戻金受領

貨物賃納金ニ對スル割戻請求ノ件

ノ權限ヲ有シタリト雖モ被告上告人ハ其割戻金ヲ膨大ニシタル部分ニ付才三ニ之ヲ受領スル權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有セシモノト云フコトヲ得ヌ何トナレハ其正當ノ理由アリトスルニハ本人タル上告會社ニ於テ被告上告人ヲシテ其之ヲ受領スル權限アリト信セシムルニ至レル過失ナカルヘカラス而シテ上告會社ハ才三ニ被告上告人カ交附スヘキ割戻金ヲ受領スル權限ヲ與ヘタルモノナルモ固ヨリ終始其行動ヲ監視スヘキ責アルニモアラサレハ才三カ他人トノ共謀ニ因リ割戻金額ヲ膨大ナラシメ其一部ヲ詐取シタル所爲ニ就テハ其過失ニ出テタルモノト云フヲ得ヌ之ニ反シ被告上告人ハ貨物賃納金ノ取調ヲ疎漏ニ付シ爲メニ不相當ノ割戻金ヲ交付スルニ至リタル過失アリト云フコトヲ得レハナリ如斯本人ニハ何等ノ過失ナク却テ第三者ニ過失アル場合ニ於テハ假令第三者カ代理人ニ其行爲ヲ爲ス權限アリト信シタレハトテ所謂正當ノ理由アリテ然ルニアラサリシヲ以テ第百十條ノ規定ヲ適用スヘキ場合ニ非ス然ルニ原院カ本件ノ場合ニ之ヲ適用シタルハ即チ法則ヲ不當ニ適用シタルモノニシテ此不法ハ原判決ノ全部ニ亘ルモノナレハ他ノ上告論旨ニ對スル説明ヲ省キ民事訴訟法第四百四十七條第一項及ヒ第四百四十八條第一項前段ニ依リ主文ノ如ク判決ス

運送賃請求ノ件(明治三十六年(オ)第五百二十一號  
明治三十七年一月十六日第一民事部判決)

判決要旨

一 數人相次テ運送ヲ爲ス場合ニ於テハ第一運送人ト荷送人トノ間ニ締結シタル運送契約ハ第二以下ノ運送人ニ對シテモ當然其効力ヲ生スルモノトス故ニ其運送ヲ引受ケタル第二以下ノ運送人ハ該運送契約ノ條項ニ從ヒ直接ニ荷送人又ハ荷受人ニ對シ運送賃支拂ノ請求其他運送人ノ權利ヲ行使スルコトヲ得

第一審 神戸地方裁判所

第二審 大阪控訴院

上告人 シ、エケル、エン合資會社  
ド、コンパニー

右清算人 ペー、ハーゲレ

訴訟代理人 増島六一郎

被上告人 合資會社港榮商會

右代表者 鶴田甚太郎

訴訟代理人 松本織五郎

運送賃請求ノ



右當事者間ノ運送賃請求事件ニ付大阪控訴院カ明治三十六年六月二十九日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ大阪控訴院ニ差戻ス

理由

上告論旨第一點ハ本件ハ原裁判所カ本件事實ニ對シ適用スヘキ法律ノ定規アルニ拘ハラズ之ヲ適用セザリシハ不法アルモノナルヲ以テ先ツ事實ノ要領ヲ述ヘンニ本件運送ニ係ル貨物ハ「ドットウエル、エンド、コンパニー」ニ於テ其代理取扱ヲ爲ス「ゼ、ノルザルン、バシフイツク、レールウエイ、コンベニト」カ船荷證券ニヨリ米國タコマヨリ神戸ニ運送シタルモノニシテ右船荷證券ニハ運送者ハ荷送人ノ費用ヲ以テ貨物ヲ積込又ハ積卸スヘキ權利アルコト及ヒ貨物引渡ニ關スル費用ハ貨物受取人ノ負擔タルヘキコト船荷證券ノ所持人ハ荷送人及荷受人ト同一ノ義務ヲ負擔スヘキモノナルコトヲ規定セリ而シテ本船ハ貨物ヲタコマヨリ神戸港内マテノ運送ヲ爲シ神戸港ニ入港シタル後本船ヨリ神戸港内ニ於ケル運送及引渡シハ「ゼ、ノルザルン、バシフイツク、

ク、コンパニー」ヨリ之ヲ上告人ヲシテ爲サシメタリ而シテ被上告人ハ本件船荷證券ノ裏書ヲ受ケ貨物ノ引渡ヲ請求シ上告人ヨリ其引渡ヲ受ケタリ依テ上告人ハ被上告人ニ對シ其運送賃ノ請求ヲナスモノナリト云ヒ「其第二點ハ第一ノ如キ事實ナルニ原判決ハ運送ニ關スル商法ノ規定ヲ適用セザリシハ不法ノ裁判ナリトス抑モ數人カ相次テ運送ヲナス場合ニ於テハ受人ハ其相次ク所ノ數人ト一々運送契約ヲ締結スルノ手續ヲ盡シ得ヘキモノニアラスシテ其第一運送者トナシタル運送契約ノ効力ハ其後ノ第二若クハ第三ノ相次ク所ノ運送者ト荷送人トノ間ニ於テ運送契約成立スルモノト法律上認定スル所ナリ即チ第一運送者ト荷送人トノ間ニ於ケル運送契約成立スルトキニ於テ若シ第二若クハ第三ノ相次クヘキ運送契約者アルトキハ此等ノ運送者ト荷送人トノ間ニモ運送契約ノ成立スヘキコトヲ豫期シテ荷送人ハ第一運送契約者ト契約ヲナシタルモノト認ムルモノナリ此第二若クハ第三ノ運送者ハ第一運送者ノ代理人ニアラスシテ獨立ノ當事者ナリ故ニ第二若クハ第三ノ相次ク所ノ運送者モ亦荷送人荷受人及ヒ船荷證券受取人ニ對シテ直接ニ權利ヲ得義務ヲ行フコトヲ得ルモノナリ此法則ハ我商法第三百四十九條第三百二十四條及第三百二十五條ニ於テ之ヲ採用セリ然レニ原判ハ本件運送賃ノ請求ニ付上告人ト被船會社トノ間ニ運送ヲ相次クノ契約約ニ基キ上告人カ

運送賃請求ノ件

被上告人ノ貨物ヲ運送シタル事實ヲ認メナカラ右商法ノ規定ヲ適用セシテ被上告人ト上告人トノ間ニハ何等契約上ノ關係ナキモノトシ從テ上告人ハ被上告人ハサ上告ニ對テ直接ニ請求權ナキモノト判決シタルハ右法條ヲ適用セサル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ

依テ按スルニ凡ソ數人相次テ運送ヲ爲ス場合ニ於テハ其第一運送人ト荷送人トノ間ニ締結シタル運送契約ハ第二以下ノ運送人ニ對シテモ當然其効力ヲ生スルモノニシテ即チ其運送ヲ引受ケタル第二以下ノ運送人ハ右運送契約ノ條項ニ從ヒ直接ニ荷送人又ハ荷受人ニ對シ運送賃支拂ノ請求其他運送人ノ權利ヲ行使スルコトヲ得ヘク第二以下各運送人ト荷送人又ハ荷受人トノ間ニ逐一運送契約ヲ締結スルノ要ナキモノトス是レ運送契約ノ性質上正ニ然ラサルヲ得サル所ナリ是以テ運送賃支拂ノ請求アルニ當リテハ裁判所ハ宜シク運送契約ニ基キタル請求ナリヤ否ヲ審理シ運送契約ノ條項ニ據リテ其請求ノ當否ヲ判斷セサル可カラス然ルニ本件ニ關シ原院カ爲シタル判決理由ノ冒頭ニ「本件貨物ニ付キ控訴人(上告人)ト被控訴人トノ間ニ運送契約アルニ非ス」ト説明シアルヲ以テ原院ハ上告人本訴ノ請求ヲ運送契約ニ基キ上告人カ貨物陸揚ヲ爲シタル費用ノ請求ヲ爲シタルモノニ非ス全ク運送契約ノ範圍外ニシテ上告人ト汽船會社代理

店トドウウエル、エンド、コンパニトトノ間ニ締結シタル特約ニ基キ其費用ヲ請求スルモノト認メ隨テ右代理店ト上告人間トノ契約ハ第三者タル被上告人ヲ羈束セストノ趣旨ヲ以テ判決シタルカ如クナルモ上告人本訴ノ請求ハ訴狀及第一審口頭辯論調書ニ依ルトキハ運送契約ニ基キ運賃ノ支拂ヲ請求スルカ如クナルヲ以テ若シ原院カ本訴請求原因ヲ右ノ如ク運送契約ニ基カサルモノト認定シタルモノトセハ宜ク其理由ヲ説明シテ請求ヲ棄却スヘキニ毫モ其理由ナキノミナラス判決理由ノ中段ニ「假令前記汽船會社代理店ト控訴人(上告人)トノ間ニ如何ナル契約アリトスルモ這ハ該代理店ト控訴人トノ關係ニ止マリ被控訴人ニ對シテハ何等契約上ノ關係ナキモノト云ハサルヘカラス既ニ其關係ナシトセハ右船荷證券ニ運送賃支拂ノ義務アル場合ノ定メアリト雖モ運送契約ニ關係ヲ有セサル者ヨリ其履行ヲ求メ得ヘキモノニアラサルヤ言フ俟タス」云々トアルヲ以テ觀レハ原院ハ運送契約ニ關スル如上ノ法理ヲ誤解シ第一運送人タル汽船會社ト貨主トノ間ニ成立セル運送契約ハ第二以下ノ運送人ニ對シテハ其効力ナク此第二以下ノ運送人カ荷送人荷受人又ハ船荷證券讓受人ニ對シテ運送費ノ請求ヲ爲スニハ此等ノ間ニ格段ナル契約ヲ締結セサルヘカラサルモノト做シタルカ如ク其判旨甚タ不明ニシテ要スルニ原院判決ハ理由ノ不備ヲ免カレサルモノトス既ニ此點ニ於

テ原判決ヲ破毀スル以上ハ他ノ上告論點ニ付キ逐一之ヲ判定スルノ要ナシ依テ當院ハ  
民事訴訟法第四百四十七條第一項第四百四十八條第一項ニヨリ本件ヲ原院ニ差戻スモ  
ノトス

損害賠償請求ノ件

(明治三十六年(オ)第七百號裁) 明治三十七年二月十二日第二民事部判決

判決要旨

一普通ノ航路タラサル場所ヲ航行スル船舶ハ他船ノ碇泊シ居ラサル場所ヲ選擇シテ航  
行スヘキモノニシテ航海者ハ此點ニ付キ十分ニ注意セサルヘカラス故ニ若シ其過失  
ニ因リテ航路ノ選擇ヲ誤リ之カ爲メ他ニ損害ヲ加ヘタルトキハ之ヲ賠償スヘキハ當  
然ナリ

第一審 廣島地方裁判所

第二審 廣島控訴院

上告人 久保 勇

訴訟代理人 岡崎 正也

被上告人 八木 仁吉

外一名

右當事者間ノ損害賠償請求事件ニ付廣島控訴院カ明治三十六年十一月十九日言渡シタ  
ル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

損害賠償ノ件

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告論旨ハ原判決カ本件船舶衝突カ共同過失ニ基クモノト判定シタル理由ハ二點ニ歸着ス即チ其一ハ被上告人八木仁吉ノ所有和船觀覽丸ハ碇泊燈ヲ掲ケスシテ碇泊シタルコト其二ハ上告人所有汽船東洋丸ハ船舶航行ノ法規等ニ違背スルコトナキモ普通航路範圍外ヲ航行シタルコト是レナリ抑モ海事法規ニ於テ碇泊中ノ船舶ハ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ掲ケサルヘカラサルモノナレハ被上告人所有船カ此規定ヲ遵守セスシテ碇泊シタル以上ハ原判決ノ如ク過失タルハ勿論ナリ然レトモ上告人所有船東洋丸ハ假ニ原裁判ノ如ク普通航路外ヲ航行シタリトスルモ是ヲ以テ過失ナリト爲スコトヲ得ス何ントナレハ船舶ノ航行ニ關シテハ警察上特別ノ法規アル場合ノ外ハ一定ノ線内ヲ航行セサルヘカラサルノ法則存スルコトナキヲ以テ苟クモ衝突豫防ノ法規ニ反セサル以上ハ自ラ安全ノ航路ヲ選擇シ得ヘキハ當然ナリ原判決ニ所謂普通ノ航路ナルモノハ法律上ノ意義ヲ有スルモノニアラスシテ唯多クハ船舶カ此線内ヲ通過スト云フ事實ニ過キササルナリ夫レ航路ノ危險有無ト衝突ノ問題トハ決シテ混同スヘ

カラス故ニ所謂普通ノ航路ヲ選擇セサルカ爲メ危險ノ重キヲ加フル場合ナレハ格別然ラスシテ一層安全ノ航路タルニ於テハ是ヲ以テ過失ナリト爲スコトヲ得サルハ看易キノ理ナリ航路其者ニハ本來危險ナキモ尙衝突ハコレアリ得ヘシ然ラハ即チ原判決ハ普通ノ航路ヲ探ラサルカ爲メ航路其者ニ危險ヲ増加スル事實及ヒ何等ノ法律命令ニ違背セル事實ヲ認定セスシテ直ニ普通航路外ノ航路ヲ選擇シタリトノ事實ノミヲ以テ衝突ノ原因ハ茲ニ在リト判定シタルハ法則ニ違背シテ事實ヲ不當ニ確定セシカ若シ然ラストセハ理由不備ノ瑕疵ヲ免レサル不法ノ判決ナリトスト云フニ在リ

依テ審按スルニ何人モ法律上道路トシテ通行スルコトヲ許サレタル場合ヲ通行シ得可ク又道路ニ佇立シテ休息セントスル行人ハ通行ノ繁頻ナル中央ヲ避ケテ路傍ニ於テ休息スヘク此場合ニ際シ他ノ行人カ人ノ佇立スル場所ヲ避ケテ通行セサル可ラサルコトハ各人常ニ執ル所ノ共同使用ノ方法ナリ之ト同シク船舶カ海上ヲ航行スルニ當リ他ヲ妨害セサル限リハ如何ナル場所ヲ航行スルトモ隨意ナルヘク而シテ海上ニ碇泊セントスル船舶ハ普通航路タラサル場所ニ碇泊スヘク又普通航路タラサル場所ヲ航行スル船舶ハ他船ノ碇泊シ居ラサル場所ヲ選擇シテ航行ス可キモノニシテ航海者カ此點ニ注意セサルヘカラサルコトハ論ヲ俟タサルナリ依テ航海者カ過失ニ因リテ其航路ノ選

損害賠償ノ件

擇ヲ誤マリ之ヲ爲メニ他損害ヲ加ヘタルトキハ之ヲ賠償スヘキハ當然ナリ而シテ原院ノ確定シタル事實ニ據レハ本件ハ上告人ノ所有船東洋丸ハ普通航海者カ航行セサル場所即チ陸地ニ近キ普通航路以外ノ場所ヲ航行シ普通ノ航路ヲ避ケテ碇泊セル被上告人八木仁吉ノ所有ニ係ル觀寶丸ニ衝突シタル次第ニ付キ其衝突ハ獨リ觀寶丸カ碇泊燈ニ點火セサリシ過失ノミニ因ルニアラス上告人所有船船長ノ注意ノ十分ナラサリシコトニモ亦因ルモノト論斷セサル可ラス故ニ以上ノ趣旨ニ基キタル原判決ハ相當ニシテ本論旨ハ採用スルヲ得ス

以上説明スル如ク本件上告ハ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ依リ棄却ス可キモノトス

損害賠償請求ノ件(明治三十六年(才)第六五十六號)  
(明治三十七年三月十一日第二民事部判決)

判決要旨

一運送取扱人又ハ運送人カ荷主ヨリ貨物ノ運送ヲ委託セラレタルトキハ其受取ハ勿論到達地ニ於テ指定ノ荷受人ニ之ヲ引渡ス迄ハ保管其他運送ニ關シテ十分ノ注意ヲ加ヘ運送品ニ滅失毀損等ヲ生セサラシムヘキ責任ヲ有ス從テ運送品ニ滅失毀損等ヲ來タシタル場合ニ在ツテハ取扱人又ハ運送人ニ於テ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明シタルトキニ限り荷主ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ル、モノトス

第一審 神戸地方裁判所  
 第二審 大阪控訴院

上告人 南海製糸株式會社

右清算人 宇川利邦

外二名

訴訟代理人 指田義雄

被上告人 長澤數三

損害賠償請求ノ件

訴訟代理人 花岡敏夫

右當事者間ノ損害賠償請求事件ニ付大阪控訴院カ明治三十六年十月十二日言渡シタル判決ニ對シ上告人代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告代理人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ大阪控訴院ニ差戻ス

理由

上告理由第一點ハ原院ハ被上告人カ生糸トシテ箱入莖包二個ヲ受取リタルコト竝ニ其後荷受人カニ到着シタル物件ハ生糸ノ包ニアラスシテ石瓦薪等ヲ入レタル莖包ナリシコトヲ認メナカラ荷物カ被上告人ノ手ニ渡リシヨリ荷受人方ニ到着スル迄ノ途中ニ在リテ生糸ノ包ト石瓦薪等ノ包ト摺替ヘラレタリト認ムヘキ確的ノ證據ナキニ付被上告人ニ損害賠償ノ責任ナシト判斷スト雖モ凡ソ運送品ハ運送人若クハ運送取扱人ニ於テ一々荷造ヲ解キ内容ヲ點檢シタル上ニアラサレハ運送人若クハ運送取扱人ハ其内容ニ付責任ヲ有セスト云フハ運送人若クハ運送取扱人ノ責任ヲ誤解シタル不法ノ判斷ナリ運送人若クハ運送取扱人ハ荷物ヲ受取ル際荷造ヲ解キ内容ヲ點檢セサルモ其外面ニ

於テ荷出人ノ指稱スル物品ヲ包藏スルモノト認メテ之カ運送若クハ運送取扱ヲナシタル以上ハ荷出人ニ對シテ最初荷出人カ指稱セシ物件ヲ到達セシムルノ義務アルモノナリ尤モ運送取扱人ニ於テ荷受人ヨリ受取リタル荷物其物ヲ其儘荷受人ニ引渡シタリトノ立證ヲナシタルトキハ格別ナレトモ然ラサル場合ニ於テハ必ス荷受人カ指稱セシ物品ヲ到達セシムルノ義務アリ然ラサレハ荷主ハ運送取扱人ニ荷物ヲ託シタル後途中摺替ニ遭ヒ擬キニ託シタル以外ノ物件ヲ荷受人ニ送り届ケラル、モ之レヲ訴フルニ所ナク荷主ハ無限ノ不安ノ地位ニ立チ何等ノ保護ヲ受ケサルモノトナリ之レニ反シ運送人運送取扱人ハ全ク無責任ノ者ナリ商法第三百廿二條等三百卅七條ノ規定ハ其適用ノ半ヲ失フニ至ルヘシ故ニ此點ニ於テ原判決ハ右第三百廿二條第三百卅七條ノ規定ニ違反シ且ツ一般運送人運送取扱人ノ責任ヲ誤解シタル不法ノ判決ナリ同補充ハ本件事實ニ付被上告人カ荷受主ニ送達シタル物件カ石瓦及薪類等ナリシコトハ被上告人カ自認スル所ニ係ル然ハ則被上告人カ本件ノ運送委託ニ付其不注意ノ責ヲ免レントスルニハ少クトモ上告人ヨリ委託ヲ受ケタル物件ハ石瓦薪類ニシテ其同一物ヲ運送シタリトノ事實ハ被上告人ニ於テ之ヲ立證セサルヘカラス何トナレハ本件ハ被上告人ヲ運送取扱人兼運送人ナリトシ其運送品タル生糸カ荷受主ニ到達セサルコトヲ損害要償ノ原因ト

損害賠償請求ノ件

ナス所ノ案件ニ屬スルヲ以テ被上告人ハ商法第三百廿二條第三百卅七條ニ依リ運送品タル生糸ノ到達セサルコトハ其不注意ナカリシ證明ノ責任ヲ負フヘキモノトス然ルニ被上告人ハ原審ニ於テ其委託荷物ノ内容ヲ知ラサリシトノ主張ヲナシタルノミニシテ其到達シタル物件ハ委託ヲ受ケタル物件ト同一ナリトノ事實ヲ證明シタルコトナシ則チ被上告人ハ運送品ノ送運ニ關シ注意ヲ怠ラサリシコトハ適法ニ證明セサルノミナラス却テ上告人ハ甲號各證及證人ノ證言ニ依リ被上告人ニ委託シタル物件ハ生糸ニシテ且被上告人モ之ヲ承諾シタルノ事實ヲ立證シタルニ拘ハラス上告人ニ於テ途中摺替ラレタリトノ舉證ナキニ依リ被上告人ハ運送取扱人又ハ運送人タルヤ否ヲ審理スルヲ要セストシ上告人ノ請求ヲ排斥セラレタルハ事實上ノ判斷ヲ遺脱シ且商法第三百廿二條第三百卅八條ノ規定ニ違背シ不當ニ事實ヲ確定シタル違法アリト云ヒ」同第二點ハ本件運送ノ途中ニ於テ生糸ノ包ト石瓦薪等ヲ入レタル包ト摺替ヘラレタル事實ハ荷主タル上告人ニ於テ之ヲ立證スヘキ責任アルモノ、如ク斷定スト雖モ上告人ハ原院ノ認ムル如ク甲第一、二、三號即チ生糸ノ包ヲ受取りタリトノ旨ヲ記載スル被上告人ノ書面及ヒ甲第五號證即チ生糸ノ運送ヲ委託シタル旨ヲ記載シ且ツ被上告人ニ於テ之レヲ認メタル送狀ヲ以テ正ニ生糸ヲ上告人ニ委託シタル立證ヲ書シ居レリ然ル上ハ運送人若ク

ハ運送取扱人タル被上告人ニ於テハ生糸ヲ荷送人ニ送リ届クルカ若シ然ラスシテ其上告人ヨリ受取りタル物件ハ生糸ノ包ニアラスシテ石瓦薪等ヲ入レタル包ナリシトノコトヲ主張セント欲セハ宜シク被上告人ニ於テ之ヲ證明セハル可ラス原判決ハ此點ニ於テ全ク舉證ノ責任ヲ轉倒シタル不法ノ判決ナリ同補充ハ本件上告人ニ委託シタル運送品ハ生糸ニ摺ナリシ事實ハ甲第一二三號證及ヒ甲第五號證ニ依リ之ヲ立證シ被上告人モ亦是等書證ヲ任意作成シタルコトヲ自認セリ然ルニ原判決ハ「之ヲ以テ直ニ被控訴人カ其生糸タルコトヲ認メテ之カ記載ヲ爲シタルモノトハ推斷スルヲ得ス」ト判定シ被上告人カ其成立ニ爭ナキ書證記載以外ニ猶被上告人カ事實ヲ承認シタリトノ事實上ノ立證ヲ要求シ且上告人カ同一事實ノ立證トシテ採用シタル久保田金四郎二宮清吉等ノ證言ニ付テハ「又縱シ金四郎並清吉等ノ證言信スヘキモノトスルモ果シテ本件運送品ノ生糸ナリシヤ否ヤハ之ヲ知ルニ由ナシ」トシ其結論ニ於テ上告人其運送途中ニ在テ其生糸ヲ石瓦等ト摺替ラレタリトノ事實ヲ立證スルノ責任アリト斷定シタリ然レトモ前項所論ノ如ク被上告人ハ其運送取扱人兼運送人タル責任ニ於テ特ニ其不注意ナカリシコトヲ證言セサルヘカラサルノミナラス苟モ其任意ニ交付シタル荷物領收ニ關スル書面及其運送ニ關スル書面ニ於テ生糸ナリシコトノ記載ヲ爲シタル事實ヲ

上告人ニ於テ立證シタル以上ハ更ニ其生糸カ途中摺替ラレタリトノ立證ヲ待タヌシテ當然其舉證ノ責任カ被上告人ニ移轉スヘキハ證據ニ關スル法理上ノ原則タルヤ勿論ナリ則チ原判決ハ舉證責任轉倒アルヲ免レヌト云フニ在リ

因テ按スルニ商法第三百二十二條第三百二十七條ニ依レハ運送取扱人又ハ運送人ハ自己又ハ其使用人カ運送品ノ受取引渡保管其他運送ニ關スル注意若クハ運送ニ關シ注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非サレハ運送品ノ滅失毀損等ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルハコトヲ得サルモノナリ故ニ運送取扱人又ハ運送人カ荷主ヨリ荷物ノ運送ヲ委託セラルハヤ其受取ハ勿論到達地ニ於テ指定ノ荷受人ニ之ヲ引渡ス迄ハ保管其他運送ニ關シテ十分ノ注意ヲ加ヘ運送品ニ滅失毀損等ヲ生セサラシムヘキ責任ヲ有スルコトハ勿論ニシテ隨テ運送品ニ滅失毀損等ヲ來タンタル場合ニ於テハ運送取扱人又ハ運送人ニ於テ注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明シタルトキニ限り荷主ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ルハモノトス本件ニ於テ上告會社カ被上告人ニ運送ヲ委託シタル荷物ヲ到達地ナル横濱ニテ開キタルニ石瓦及薪類ヲ入レアルコトヲ發見シタルコトハ原審ニ於テ爭ナキ事實ニ係ル而シテ上告人ハ原審ニ於テ生糸箱入運包二箇此價格一千二百五十圓ヲ運送取扱人ト運送人ノ資格ヲ兼有セル被上告人ニ委託シタルコトヲ主張シ甲第五號證ナル送券

(生糸運包ニ梱元價千三百圓、次問屋トシテ被上告人氏名ヲ記載シ被上告人ノ印影アルモ)ノ甲第一、二號證ナル運包生糸ノ到着シタル旨ヲ記載スル被上告人ノ書面ニ依リ被上告人カ生糸荷物ヲ受取リタル旨ヲ立證シタルモノナレハ被上告人カ右荷物ヲ受取ルニ際シ生糸ノ如キ高價品トシテ授受シタルモノニ非スト爲サンニハ原判決ハ須ク被上告人ニ於テ荷物ノ内容ヲ檢認シタルカ若クハ外觀上ニ異狀アル爲メ生糸トシテ受取ラサル旨ノ留保アリタルコトヲ判示セサル可ラス然ラサレハ被上告人ハ運送品ノ受取ニ付テ注意ヲ怠ラザリシモノト謂フコトヲ得サルニ付キ生糸トシテノ責任ヲ免ル、コトヲ得サル筋合ナリ然ルニ原判決ハ「普通運送品ノ如キハ現物ヲ示サス荷造ノ儘授受ヲ爲ヌヲ例トシ本件運送品モ亦同一ノ取扱ヲ爲シタルモノ」ト認メ又「假令甲第一、二、三號證及甲第五號證等ニ生糸タルコトノ記載アルモ這ハ唯荷送人ノ表示スル所ニ從ヒ被控訴人カ同一ノ記載ヲ爲シタルニ止マル云々」ト判示シタルハ上告論旨ノ如ク運送取扱人又ハ運送人ノ責任ヲ誤解シタル不法アリ又既ニ生糸トシテ授受セラレタル荷物ニシテ荷受人ニ引渡スマテニ石瓦薪類等ニ變更セラレタリトセハ即チ運送品ノ滅失ナルカ故ニ被上告人ハ保管其他運送ニ關スル注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ル、コトヲ得サル筋合ナルニ原判決末段ニ於テ「運送途中ニ



アツテ生絲ト右假裝品トヲ摺替ヘタルモノト認ムヘキ確的ノ證據一モコレナキニ付云々控訴人ノ請求ハ之ヲ是認スルヲ得サルモノトス」ト判示シタルハ舉證ノ責任ヲ轉倒シタル不法アルモノニシテ破毀ノ原因アリトス已ニ上文數箇ノ點ニ於テ破毀スヘキモノナル以上ハ他ノ上告論旨ニ對シテ一々説明スルノ要ナシ  
 以上説明ノ理由ナルヲ以テ民事訴訟法第四百四十七條一項第四百四十八條一項ニ依リ  
 原判決ノ全部ヲ破毀シ原院ニ差戻スヘキモノト評決セリ

損害賠償請求ノ件(明治三十七年四月四日第六六號六十七號  
 明治三十七年四月四日第二民事部判決)

判決要旨

一荷受人カ運送契約ニ從ハサルカ又ハ貨物引換證ト引換ニ引渡ヲ請求セサル以上ハ運送人ハ運送品ノ引渡ヲ拒絕シ得ルモノニシテ又之ヲ拒絕スヘキコトハ荷送人若クハ貨物引換證ノ所持人ニ對スル運送人ノ責任ナリトス

第一審 新潟地方裁判所長岡支部

第二審 東京控訴院

- |       |          |
|-------|----------|
| 上告人   | 内國通運株式會社 |
| 右代表者  | 吉村甚兵衛    |
| 訴訟代理人 | 岡崎正也     |
| 上告人   | 吉川新藏     |
| 右親權者  | 吉川ヒロ     |
| 訴訟代理人 | 佐々木茂三郎   |
| 被上告人  | 鈴木末藏     |

損害賠償請求ノ件

右當事者間ノ損害賠償請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十六年十二月二日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人岡崎正也ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ上告代理人佐々木茂三郎ハ一部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告理由第一點上告人内國通運株式會社ハ原院ニ於テ甲二號貨物引換證ハ商法第三百三十三條第二項第三號運送貨竝ニ同第四號貨物引換證ノ作成地ノ記載ヲ缺如スル無効ノ貨物引換證タル事及ヒ例令之レニ欠クル所ナシトスルモ未タ荷受人ノ手ニ交付セラレサル證券ナルガ故證券上ノ權利ヲ利用スル事不能所以ヲ論爭シタリ「明治三十六年三月三十日口頭辯論調書參看」蓋シ前示商法第三百三十三條第二項ニハ「貨物引換證ニハ其事項ヲ記載シ運送人ノレニ署名スルコトヲ要ス」トアリ其第三號第四號ニ於テ運送貨竝ニ貨物引換證ノ作成地ヲ列舉スルヲ見レハ之レヲ欠クニ於テハ貨物引換證タル効力ヲ有セサルモノト認ムルコト至當ナリ又右二個ノ事項ハ之レカ記載ヲ爲サ、ルモ敢テ其効力ニ影響ナシトスルモ同第一號商法第三百三十二條第一項第三號ニハ荷

受人ヲ記載スヘキモノト爲セルヲ以テ貨物引換證ハ記名式ノモノニシテ荷受人ニ交付セラレサル内ハ未タ以テ證券上ノ効力ヲ生スルニ足ラサルヤ明カナリ而シテ本訴ハ訴狀竝ニ原院ノ引用セル第一審判決摘示ニヨルモ「該貨物ハ引換證ノ持參人ヘ渡スヘキモノニシテ例令荷受人タリトモ引換證ヲ持參セサルトキハ之ヲ引渡ス可キモノニ非サルコト勿論ナルモ其引換證ヲ持參セサルニモ不拘之ヲ引渡シタルハ(中略)即チ受取ルヘキ權利ナキ者ニ引渡シ云々」トアリテ貨物引換證定ムル所ノ關係ニ基キ證券上ノ權利者トシテ請求スルモノナリトス故ニ甲二號引換證ニシテ其要件ヲ欠キ若シクハ之レニ缺欠ナキモ荷受人ニ交付セサルモノナルトキハ該證券上ノ權利ヲ行使スルコト能ハサル筋合ナリ然ルニ原判決ハ右甲二號證カ貨物引換證トシテ有効ナリヤ無効ナルヤノ論點ハ之レヲ判定スルノ必要ナキモノトシ其說明ヲ省略シタリ即チ甲二號證ノ記載スル所ニヨレハ上告人ハ被上告人ニ對シ之レヲ持參シタルモノニアラサレハ何人ニモ運送品ヲ引渡サ、ル契約ナルニ之レニ違背シテ甲二號證ト引換ナル事ナク荷受人ニ引渡シタル以上ハ賠償ノ義務ヲ免カレサルニヨリ甲二號證カ貨物引換證タル價値ヲ有スルモノタルヤ否ヤハ敢テ問フ所ニアラスト判示セリ然レトモ運送契約上ノ義務ト貨物引換證ニヨリ發生シタル債權トハ法律上別種ノ關係ナリ換言スレハ貨物引換證券上ノ權

利ハ運送契約上ノ權利ニ對シ獨立シテ發生スルモノタリ故ニ如斯權利關係ノ性質ヲ異ニスル以上ハ均シク運送品ニ關スル請求タルモ彼是混同スヘキニアラス從テ請求ノ原因同一タルコト能ハサルヤ勿論ナレハ本訴ノ如ク貨物引換證ノ權利關係ニ基キ之レニ違背セルヲ根據トスル請求ニシテ苟クモ其證券ニ具備スヘキ要件ヲ欠ク等ノ事由ニヨリ證券ノ効力ヲ有セサルニ於テハ假令運送契約ノ關係トシテ請求シ得ヘキモノタルモ是レ固ヨリ別個ノ問題ニシテ本訴ハ右ノ理由ヲ以テ當然排斥セサル可カラス從テ甲二號證カ貨物引換證タルノ要件ヲ具備スルヤ若シクハ貨物引換證タルノ効力ヲ有スルヤ否ヤノ論點ハ本訴ノ曲直ヲ決スルニ於テ極メテ必要ナルコトヲ知ルヘシ然ルニ原院ニ於テ此問題ヲ不問ニ付シ單ニ甲二號證ト引換ニ渡スヘキ約束ニ違背シタルヲ理由トシ賠償ノ義務アルモノ、如ク判決シ去リタルハ運送法規ニ違背シ且ツ必要ナル爭點ニ對シ判斷說明ヲ與ヘサル違法ノ裁判ナリト云ヒ」上告人吉川新藏ハ原院ニ於テハ「吉川新藏ハ其發行シタル貨物引換證ニシテ假ニ其記載スヘキ要件ヲ缺如セル無効ノモノナリトスルモ之ト引換ニ引渡スヘキ運送契約ヲ爲シタルモノナルヲ以テ今ニ至リ其無効ヲ主張シ該甲二三號證ヲ持參セサル人ニ貨物ヲ引渡スモ尙ホ可ナリト云フヲ得サルヤ勿論ナルニ依リ貨物引換證書有無効ノ爭點ノ如キハ特ニ之ヲ判定スルノ必要ナキモノ

ナリ」トノ理由ヲ以テ上告人ノ契約違背ニ依ル賠償義務アリト判定サレタレトモ原院カ其所謂契約ナルモノ、性質並ニ其趣旨ヲ認定スルカ爲メニハ專ラ甲二三號證ニ據リテ之ヲ判斷シタルニアラスヤ然ラハ即チ上告人ト被上告人トノ間ノ契約ノ性質及趣旨ヲ知ヲ以テシタルニアラスヤ然ラハ即チ上告人ト被上告人トノ間ノ契約ノ性質及趣旨ヲ知ルニハ此甲二三號證ハ緊要缺クヘカラサル資料タルヤ言ヲ待タス此緊要タル證書ニシテ其形式若クハ内容ニ於テ無効タルアラハ證據トシテ何等ノ信憑力ヲ有セサルヲ以テ從テ之ニ據リ契約ノ性質趣旨ヲ知ルノ資料ニ供スヘキモノニアラス是ニ於テカ此證書ニ依リテ契約ノ性質趣旨ヲ判知セントスルニハ上告人ノ抗辯即チ該證書(甲第二、三號證)ハ其記載スヘキ要件ヲ缺如セルヲ以テ無効ナリトノ抗辯ニ對シ先ツ判斷ヲ下サ、ルヘカラス然ルニ原院ハ上告人ノ此抗辯ニ對シ判定スルノ必要ナシト說明シテ上ノ如ク判決セラレタルハ必要ナル抗辯ヲ遺脱シ且ツ理由ヲ附セサルモノナリト云フニ在リ

然レトモ原判決ハ當事者間ニ於テ爭ヒナキ事實ニ基キ當事者間ニ係争貨物ヲ荷受人タル鈴木鐵藏又ハ高野榮太郎ニ運送スル契約ノ存在シタル事實ヲ認定シ而シテ貨物引換證タル甲第一、三號證ニ依リテ右運送契約ニ於ケル證券ト貨物ト引換ノ條項即チ上告

人等ハ該證ヲ持參セル人ニ非サレハ假令荷受人タリトモ運送貨物ヲ引渡サ、ルヘキ約款アルコトヲ認メタルモノナリサレハ原判決ニ於テ甲第二、三號證ヲ普通ノ書證トシテ採用シ貨物引換證トシテ證券的權利關係ヲ認メタルモノニアラサルコトハ其判文上明瞭ナルヲ以テ之ニ關スル上告人等ノ主張即チ該證ハ貨物引換證ノ要件ヲ缺如スルカ爲メ無効ナリ若クハ未タ荷受人ニ交付セラレサルカ故ニ證券上ノ効力ヲ發生セストノ抗辯ニ對シ判斷ヲ與フルノ必要ナク隨テ原判決ハ本論旨ニ述フル如キ違法ナシ

同第二點ハ原判決ハ「被控訴人内國通運株式會社吉川新藏ハ荷送人タル控訴人ト貨物引換證ナル甲二號三號證ノ持參人ニアラサレハ何人ニモ係争貨物ヲ引渡サストノ契約ヲ爲シテ以テ之ヲ交付シ越後長岡ヨリ東京迄係争ノ貨物ノ運送ニ從事シタルニモ不拘該證ヲ持參セサリシ高野某ニ被控訴人帝國中牛馬東京合資會社ヲシテ引渡サシメタルモノトス左レハ其引渡ス可カラサルモノニ引渡シタルモノニシテ控訴人トノ契約ニ違背セルコト勿論ナルヲ以テ荷送人タル控訴人ヨリ該貨物ノ返還ヲ求ムルニ於テハ被控訴人内國通運株式會社吉川新藏ハ固ヨリ當ニ其義務ヲ盡サ、ル可カラサルモノナリ」云々ト判示セリ即チ係争運送品ハ荷送人タル控訴人ニ對シ上告人ニ於テ甲二號證持參人ニアラサレハ引渡ス可カラサル契約ニ違背セルモノト認メタルコト明ナリ然レトモ

右説明ノ前段ニ於テ「被控訴人内國通運株式會社ハ荷送人山屋名兵衛ト係争貨物ヲ荷受人タル東京本所區相生町鈴木鐵藏ニ運送スル契約ヲ締結シタルコトハ其争ハサル所タル(中畧)又該貨物ヲ被控訴人帝國中牛馬合資會社ノ手ヲ經テ鈴木鐵藏ノ代理人タル高野榮太郎ニ手渡シタルコトモ亦證人鈴木鐵藏ノ證言ニヨリ之ヲ認メ得ヘキモノトス」ト判示セルヲ以テ先ツ甲二號證ト引換ニ爲スヘキモノタルヤ否ヤハ之ヲ措キ本件運送契約ニ於テ(一)荷受人カ鈴木鐵藏タルコト(二)並ニ契約ニ定メタル場所ニ運送シタルコト(三)運送ノ到達後荷受人ノ代理人ニ引渡シタル事實ハ原院ノ認ムル所ナリトス依テ按スルニ原判決ハ右ノ如ク到達地ニ於テ荷受人ノ請求ニヨリ之ヲ引渡シタル事實ヲ認ムルニ不拘上告人ノ抗辯ヲ採用セスシテ唯契約ノ當時甲二號證ヲ持參スルモノニアラサレハ引渡シヲ爲ス可カラサル約東アルニ運送人タル上告人カ之ヲ守ラスシテ取次運送者タル帝國中牛馬東京合資會社ヲシテ荷受人ノ代理人ニ引渡サシメタルハ即チ權利ナキモノニ引渡シタルモノトシテ責任ヲ問フニ外ナラス然レトモ荷受人ハ運送品カ到達地ニ達シタル後ハ運送契約ニヨリテ生シタル荷送人ノ權利ヲ取得シ又運送品カ到達地ニ達シタル後受人カ其荷引渡ヲ請求シタル時ハ荷送人ノ權利カ消滅ス可キモノナレハ前示ノ如ク本件運送品カ到達ノ後荷受人ニ引渡サレタル事實アル以上ハ運送

契約ノ當時ニ於ケル荷送人トノ契約ハ最早ヤ願慮スルコトヲ要セサルナリ蓋シ運送契約ノ當初ハ荷送人ト運送人トノ間ニノミ存スル權利關係ナリト雖モ其運送ノ施行其歩ヲ進ムルニ從テ荷送人ノ權利ハ次第ニ縮少シ其縮少スニ從テ一方ニ荷受人ノ權利擴張セラル、モノニシテ即チ運送契約ノ當時ハ所謂指圖權又ハ處分ノ全權ハ荷送人ノミニ存シ荷送人ハ何等ノ權利ヲ有スルコトナシト雖モ貨物カ到達地ニ運送セラレタルトキハ商法第三百四十三條ノ規定ニヨリ荷送人ノ權利ヲ取得シ茲ニ初メテ荷受人カ運送人ト直接ノ關係ヲ生スルニ至ル殊ニ荷受人カ其運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキハ商法第三百四十二條第二項ノ規定ニヨリ茲ニ荷送人ノ權利ハ全然消滅スルモノニシテ既ニ荷受人カ荷送人ノ權利ヲ取得シタル以上ハ荷送人ト同等ナル權利ヲ有スヘキハ當然ナルヲ以テ其荷受人ノ指圖ニ從フハ毫モ違法ニ非ス從テ荷送人ノ請求ニ應シ之レヲ引渡スニ付キ荷送人トナシタル契約ノ條件如何ニ羈束セラルヘキニアラサレハ事理明白ナリトス然ルニ原裁判ハ本件運送品カ到達ノ後荷送人ノ請求ニ因リ引渡シタル事實ヲ認メナカラ甲二號證ト引換サル理由ヲ以テ賠償ノ義務アリト判定シタルハ運送ノ法則ニ違背セル違法ノ裁判ナリト云フニ在リ

因テ按スルニ運送品カ到達地ニ達シタル後ハ荷受人商法第三百四十三條ニ依リ運送契約

約ニ因リテ生シタル荷送人ノ權利ヲ取得スルカ故ニ荷送人ハ運送品ノ引渡ヲ請求シ得ヘク又荷受人カ其引渡ヲ請求シタルトキハ同第三百四十二條第二項ニ規定セル如ク荷送人ノ運送人ニ對スル運送品ノ處分ニ關スル權利ハ爰ニ消滅スト雖モ荷受人カ運送品ノ引渡ヲ請求スルニハ先ツ第一ニ運送契約ニ從ハサル可ラス故ニ貨物引換證ヲ作リタルトキハ同第三百四十四條ニ依リ貨物引換證ト引換ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得サル者ナリ換言スレハ荷受人カ運送契約ニ從ハサルカ將タ貨物引換證ヲ作リタルトキ之ト引換ニ引渡ヲ請求セサル以上ハ運送人ハ運送品ノ引渡ヲ拒絕スルコトヲ得ヘク之ヲ拒絕スヘキコトハ運送人カ荷送人若クハ貨物引換證ノ所持人ニ對スル責任ナリ是ニ因テ之ヲ觀レハ運送契約ヲ以テ荷受人ノ權利ヲ制限シ得ル而已ナラス之ヲ消滅セシメ得ルノ自由ナルコトヲモ亦認知セラル可シ本件ニ於テ貨物ノ到達地ニ達シタル後荷受人ニ引渡サレタルコトハ原判決ノ確定セル事實ナルモ上告人等カ荷受人ノ請求ニ因リ之ヲ引渡シタルコトハ原判決ノ認メサル所タルノミナラス上告人等ハ甲第二、三號證ノ特約ニ依リ該證ヲ持參スルモノニ非サレハ引渡ヲ爲ス可カラサル等ナルニ之ヲ無視シテ引渡ヲ爲シタルニ付キ契約ニ違背シタルモノト爲シ此理由ニ基キ賠償ノ義務アリト判定シタルモノナレハ原判決ハ毫モ運送ノ法則ニ違背セル不法ナシ

損害賠償請求ノ件

同第三點ハ原院ハ其判決理由ニ於テ「云々又右貨物引換證ナル甲三號證ノ一ニハ此證書引換ニ貨物ヲ引渡スヘシトアリ其二、三ニハ甲二號證ノ如ク荷受人又ハ此證持參人ヘ此證引換ニ運送貨物ヲ引渡スヘシトアリテ之ヲ裏面ノ記載ニ參照スルトキハ前項二號證ト同一ノ契約ヲナシタルモノト解釋スヘキモノトス云々」ト説明シ據テ以テ上告人ト被上告人トノ間ニ於ケル契約ノ趣旨ヲ判斷セラレタレトモ甲第三號證ノ一ニハ「右運送候間此證書引換貨物御渡シ被下度候也」ト明記シアリ又同號證ノ二、三ニハ「右運送品正ニ受取裏面ノ契約ニ基キ運送引受候ニ付荷受人又ハ此證持參ノ人ヘ此證引換ニ運送品御引渡可被成候也」ト明記シアリテ原院説明ノ如キ「云々貨物ヲ引渡スヘシトノ記載ハ毫モ之ナキナリ抑モ本件甲號證ノ如キモノニアリテハ其記載カ「云々貨物ヲ引渡スヘシ」ト云フニアルトキハ初ヨリ自己直接ニ引渡ヲ約シタルコト、ナレトモ「云々貨物御渡シ被下度候」若シクハ「貨物御引渡可被成候」ト云フニアルトキハ是レ引渡ノ依託ニ外ナラス前者ト其意義ノ甚タシカラサル從ツテ其結果ノ差異ノ重大ナルヘキハ言ヲ待タサルナリ然ルニ原院ハ擅ニ右甲三號證ノ明白ナル御渡シ被下度御引渡可被成候ノ語辭ヲ變換シテ引渡スヘシトノ文句ト作シテ判斷シタルハ不當ニ事實ヲ確定シタル違法アリトスト云フニ在リ

然レトモ原院ハ上告人指摘ノ如キ文詞ニ依リ證書引換ニ貨物ヲ引渡スヘ約款ノ存スル事實ヲ認メタルモノナルカ故ニ本論旨ハ畢竟原院ノ專横ニ屬スル證書ノ解釋事實ノ認定ヲ非難スルニ過キヌシテ適法ノ理由タラス

同第四點上告人内國通運株式會社上告理由ハ假リニ甲二號證ト引換ニ非サレハ何人ニモ之レヲ引渡ス可カラサルモノナリトスルモ荷送人タル被上告人ニ引渡シタルニ於テハ運送人ニ何等ノ責ナキコト言ヲ俟タサル所ナリ本件甲第二號證ニ記載スル荷送人山屋名兵衛トアルハ被上告人ナルコトハ原判決ノ認ムル所ナリ然ルニ上告人ノ提出シタル乙第一號證ニ因レハ荷受人鈴木鐵藏ナルモノハ被上告人ノ實弟ニシテ東京支店ヲ管理スルモノナリ而シテ同證ニ明カナル如ク本件貨物ハ右鈴木鐵藏カ支店タル名義ヲ以テ高野榮太郎ニ引渡スヘキ指圖ヲ爲シタルモノニシテ即チ荷送人ノ支店ノ指圖ニ從ヒタルハ被上告人ノ指圖ヲ爲セルニ同シキヲ以テ之ヲ理由トシ契約ノ違背ニアラサル旨ヲ抗辯シタルコトハ原院明治三十六年三月二十一日ノ口頭辯論調書及ヒ鈴木末藏證人訊問申請書ノ記載ニ徵シ爭フ可カラサルモノトス然ルニ原院ハ此點ヲ不問ニ付シ何等ノ判斷説明ヲ與ヘサルハ即チ必要ノ爭點ヲ遺脱シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ然レトモ原院ニ於ケル明治三十六年三月三十日（上告論旨ノ三月二十一日ハ誤記ト認

ム)ノ法廷調書及ヒ鈴木鐵藏證人訊問申請書(同上末藏ハ誤記ト認ム)ニ徴スルモ上告人ハ乙第一號證ニ依リ高野榮太郎ニ貨物ヲ適法ニ引渡シタルコトヲ立證シタルニ止マリ證書引換ノ條件如何ニ拘ハラヌ引渡ヲ指圖シタリト申立トモ見ルニ由ナケレハ原判決カ特ニ此點ニ對シ判斷ヲ與ヘサレハトテ決シテ不法ニアラス

同第五點上告人吉川新藏上告理由ハ甲第三號證ノ荷受人高野榮太郎ハ是マテ被上告人ヨリ發送シタル荷爲替附ノ荷物ヲ爲替金ヲ支拂ハスシテ之ヲ受取リ其荷物ヲ賣却シテ後ノ爲替金ノ支拂ニ充テル様ニ爲シ居リシ旨ハ原院審廷ニ於テ證人家坂源作ノ證言シタルトコロナリ若シ甲第三號證貨物引換證書ノ趣旨ヲ解シテ此證書ヲ持參シテ引換ニスル者ニアラサル限リハ假令荷受人ト雖モ貨物ヲ引渡サストノ約旨ナリトスレハ其此ノ如ク約束シタル理由ハ荷爲替附ナルカ爲メナルコト言ヲ待タサルナリ是故ニ若シモ從來被上告人ノ出シタル荷爲替附ノ貨物ヲ高野榮太郎カ其爲替金ヲ支拂ハスシテ受取リ居リシ事實存センカ荷爲替附ナル本件貨物ノ引換證書ノ如キハ必スシモ荷物ト引換ニアラサレハ引渡サスト確約シタルモノト云フヘカラス荷受人ナル高野榮太郎ナラハ貨物引換證書ヲ持參セス又荷爲替金ヲ支拂ハストモ貨物ヲ引渡シテ差支ナキ次第ナリ而シテ前記家坂源作ハ高野榮太郎カ數口爲替金ヲ拂ハスシテ荷物ヲ受取リシ事實ヲ證

言シタルヲ以テ上告人ハ此抗辯事實ヲ證明センカ爲メ原院審廷ニ於テ其證書ヲ援用シタリ(原院判決事實ノ末段及明治三十六年三月二十日同六月二十九日ノ辯論調書)然ルニ原院ハ此證據ヲ看過シ漫然甲第三號證ハ之ヲ持參セサルモノニ對シテハ假令荷受人タリトモ貨物ヲ引渡サストノ約旨ナリト解釋シテ判決セラレタルハ肝要ナル抗辯ノ證據ヲ遺脱セラレタル不法アリトスト云フニ在リ

然レトモ原判決カ本件當事者間ノ運送契約ニ於テハ證書ト引換ニ貨物ヲ引渡スヘキ約款アルモノト認メタル以上ハ荷受人カ荷爲替金ヲ支拂ハスシテ貨物ヲ受取リ來リタル事實ノ如キハ本件ニ於テ之ヲ採用セサリシコト明白ニシテ原判決ハ緊要ナル證據ヲ遺脱シタルモノニアラス

同第六點上告人吉川新藏上告理由ハ甲第三號證ニ記載セラレタル荷受人山屋名平ナル者カ本件ノ被上告人鈴木末藏ナルコトハ上告人ノ否認シタル所ナリ抑モ此等ハ被上告人ノ權利ノ有無ヲ斷スルニ至大ノ關係ヲ有スル所ナルヲ以テ原院カ被上告人ノ請求權利ヲ認ムルニ當リテハ先以テ被上告人ヨリ舉タル所ノ山屋名平ト鈴木末藏トハ同一ノ人タルコトノ證據ニ據ラサルヘカラス然ルニ原院ハ上告人カ運送契約ヲ爲シタルコト引換證ヲ發行シタルコト中牛馬東京合資會社ノ手ヲ經テ高野榮太郎ニ引渡シタルコト

及其運送契約ノ趣旨ニ付テ判斷ヲ下サレタレトモ右ノ否認ニ對シテハ何等ノ證據説明及理由ヲ示サスシテ被告ノ權利ヲ認メラレタルハ重要ノ爭點ヲ遺脱シ結局判決ニ理由ヲ付セサル遺法アリト云ハサルヘカラスト云フニ在リ

然レトモ荷送人山屋名平ナル者カ被告上告人ニ相當スルコトハ原判決ニ於テ甲第二號證ニ付キ説明ヲ爲スニ當リ證人家坂源作ノ證言ヲ採用シタルノミナラス上告人カ被告上告人ト運送契約ヲ締結シ上告人ヨリ甲第三號證タル貨物引換證ヲ發行シタルコトハ原判決ノ確定セル事實ナルヲ以テ同證記載ノ荷送人山屋名平ノ被告上告人ナルコトハ行文上推知シ得ヘキニ依リ原判決ニハ本論旨ノ如キ不法ナシ

同第七點上告人内國通運株式會社ハ本院ハ本件賠償額ヲ定ムルニ付キ運送品ノ價格ハ荷爲替ノ額ニ相當スヘキ價值ヲ有シタルモノナリトシ「何トナレハ之ヲ擔保ト爲スモ尙ホ且ツ右ノ金額ヲ貸與スルモノナランニハ其價格ノ該金額ニ滿タサル等ナケレハナリ」ト判示シタリ然レトモ是レ運送契約ノ當時即チ之レヲ荷爲替ニ付シタル時ノ價額ヲ認ムルニ於テ或ハ適當ノ説明タル可キモ抑モ運送船滅失ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ商法第三百四十條第一項規定ノ如ク其引渡シアル可カリシ日ニ於ケル價格ヲ認定シ直チニ以テ本訴賠償額ヲ認容スルニ足ラサルヤ明カナリ然ルニ原判決ニ於テ荷爲替

當時ノ價格ニ基キ直ニ本訴ノ請求賠償額ヲ是賦シタルハ理由不備ニシテ且ツ法則ニ違反スル違法ノ裁判ナリト云ヒ「上告人吉川新藏ハ本院ハ損害額ニ付キ「該貨物ヲ其引換證ヲ持參セサリシ高野榮太郎ニ引渡シタルカ爲メ生シタル損害額ハ被控訴人吉川新藏ニ委託シタル貨物ハ金一千四十三圓二十錢ナルコトハ證人小畔龜太郎澁谷善作ニ於テ該貨物ノ引換證ヲ擔保ト爲シ右ノ金額ヲ貸與シタリトノ證言ニヨリ其貨物ノ價格ハ該金額ニ相當スルモノト認ムヘキモノトス何トナレハ之ヲ擔保ト爲スモ猶且右ノ金額ヲ貸與スルモノナランニハ其價格ノ該金額ニ滿タサル等ナケレハナリ」ト説明シテ判斷セラレタレトモ凡ソ擔保物ノ價格ハ常ニ必スシモ債權額ヲ滿タスモノト云フヘカラス當事者ノ合意ヲ以テ或ハ債權額ヨリ多額ノ物ヲ以テスルコトアリ或ハ少額ノ物ヲ以テスルコトアリ是ヲ以テ擔保ニ供サレタル物ノ價格ヲ定メント欲スルニハ單ニ債權ノ額ヲ以テ之ヲ標準トスルヲ得ス尙ホ他ノ證據ニ據ラサルヘカラス然ルニ本院ハ擔保物ノ價格ハ常ニ債權額ヲ超ユルモノ、如ク論シテ判斷セラレタルハ不法ニシテ是亦結局判決ニ理由ヲ附セサル裁判ナリト云フコトヲ得ヘシト云フニ在リ

然レトモ商法第三百四十條第一項ノ規定ハ運送品滅失ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ額ヲ定ムル標準ニシテ本件ノ如キ違約ニ基ク場合ニ適用スルコトヲ得サルノミナラス上告



人等カ委託ヲ受ケタル貨物ニシテ原判決ノ認定セル如キ價格ヲ有スルモノナランニハ之ハ因リテ賠償額ヲ定ムルコト當然ナリ又原判決ハ擔保物ノ價格カ常ニ債權額ヲ滿タスモノト爲シタルニアラス擔保物ノ價格カ多クハ債權額ヲ滿タス事由ニ基キ債權額ニ依リテ擔保物ノ價格ヲ推定シタルモノナレハ畢竟事實ノ認定ニ屬シ本論旨ハ孰レモ上告適法ノ理由トナラス

以上辯明ノ如ク上告適法ノ理由ナキニ付民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ從ヒ之ヲ棄却スヘキモノトス

荷物延着損害賠償請求ノ件

(明治三十七年(オ)第四百十一號)  
 (明治三十七年五月十三日第二民事部判決)

判決要旨

一 運送取扱人トシテ起訴セラレタル者ニ對シ運送ヲ兼業セル事實ヲ認メスシテ商法第三百四十八條ノ規定ヲ適用シタル判決ハ違法ナリ

(參照) 運送人ノ責任ハ荷受人カ留保ヲ爲サスシテ運送品ヲ受取リ且運賃貨其他ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ消滅ス但運送品ニ直チニ發見スルコト能ハサル毀損又ハ一部滅失アリタル場合ニ於テ荷受人カ引渡ノ日ヨリ二週間内ニ運送人ニ對シテ其通知ヲ發シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ運送人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス(商法第三百四十八條)

第一審 東京地方裁判所

第二審 東京控訴院

上告人 平沼熊太郎

訴訟代理人 加藤規衛

被上告人 内國通運株式會社

荷物延着損害賠償請求ノ件

法律上代理人 佐久間精一  
訴訟代理人 岡崎正也

右當事者間ノ荷物延着損害賠償請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十六年十二月二十五日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部被毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告代理人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

原判決ヲ破毀シ更ニ辨論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ東京控訴院ニ差戻ス

理由

上告第一點ノ要旨ハ原判決ハ其理由中ニ「左レハ被控訴人會社ハ商法第三百四十八條ノ規定ニ依リ運送人トシテノ責任ヲ免レタルモノト云ハサル可カラヌ云々」ト説明シ被上告人ヲ當然運送人ト見做シ上告人ノ請求ヲ棄却シタリ然レトモ被上告人カ運送人ナリヤ運送取扱人ナルヤニ就テハ當事者間ニ爭點トナレルニアラス上告人カ被上告人ニ對シ運送取扱人トシテノ義務ノ履行ヲ請求シタルハ第一審訴狀ノ記載ニ「被告會社ノ水戸支店ニ對シ同所ヨリ東京市日本橋區尾張屋佐助宛運送取扱ヲ依頼シタリ」トアルニ依リ明カニシテ第一審判決モ亦上告人ノ主張ヲ認メ「本件運送品カ生鯨ナル事ヲ

知リテ其運送ヲ取扱セシモノナルコトハ云々」又「該品腐敗ノ後之ヲ荷受人ニ引渡シ原告ニ損害ヲ蒙ラシメタルモノナレハ之カ賠償ノ責ニ任ス可キモノト云ハサル可カラヌ」ト論斷シ明カニ運送取扱人トシテノ被上告人ノ責任ヲ認メタリ殊ニ第二審ニ至リテハ此點ニ關シテ何等ノ爭ナカリシノミナラス第一回口頭辯論書中被上告人ノ陳述ニ依レハ被控訴人ハ運送取扱人ナリ而シテ本訴ノ物品ハ通常品トシテ運送ノ取扱ヲナシタリ云々」ト明言セリ己ニ然ラハ被上告人カ運送取扱人ニシテ運送人ニ非サルコトハ當事者間ニ爭ナキ事實ニシテ原院ハ宜シク此當然明白ノ事實ニ基キ法規ノ適用ヲナスヘキ筋合ナルニ事茲ニ出テス漫然被上告人ヲ運送人ト認定シ商法第三百四十八條ヲ適用シタリ抑民事訴訟法ハ不干涉主義ヲ以テ其精神トシ特ニ職權ヲ以テ干涉スヘキ場合ノ外ハ當事者間ノ爭點以外ニ涉リ其判斷ヲ擅ニスルヲ許サハルナリ即チ原判決ハ此不干涉主義ニ反シ且同法第百一十一條ニ違背セル違法ノ裁判ナリト云フニ在リ  
依テ按スルニ商法ノ規定ニ依レハ運送取扱人ト運送人トハ各其營業ヲ異ニシ即チ前者ハ運送取扱ヲ營業トシ後者ハ運送ヲ營業トシ隨テ其荷送人ニ對スル責任モ同一ナラス尤同法第三百二十七條ノ規定ニ依リ運送取扱人ハ自ラ運送ヲ爲シ得ヘキ場合アリト雖モ若シ之ヲ兼業シタルモノナランニハ其實事ナカルヘカラス然ルニ本件ニ付テハ上告

人ハ被上告人ヲ運送取扱人トシテ起訴セシモノナルコトハ第一審ノ訴狀ヲ始メ其他ノ記録中ニ自ラ明カナルニ原判決ハ其運送取扱人タル被上告會社カ尙ホ自ラ運送ヲ爲シ兩者兼業タルノ事實ヲ認メヌシテ漫然被上告會社ハ商法第三百四十八條ノ規定ニ依リ運送人トシテノ責任ヲ免レタルモノト判示シタルハ事實ヲ確定セヌシテ法律ヲ適用シタルモノニシテ理由ヲ欠キタル違法ノ判決タルヲ免カレス即チ上告其理由アリ既ニ此點ニ於テ原判決ヲ破毀スヘキモノト決スルニ依リ他ノ上告論旨ニ對シテハ説明ヲ要セサルモノトス右説明ノ如ク本件上告ハ其理由アルヲ以テ民事訴訟法第四百四十七條第一項ノ規定ニ依リ原判決ノ全部ヲ被毀シ同法第四百四十八條第一項ノ規定ニ依リ主文ノ如ク判決スルモノナリ

損害金請求ノ件(明治三十七年(大)第二十三號  
明治三十七年五月二十七日第二民事部判決)

判決要旨

一運送人カ契約上ノ場所以外ノ地ニ荷物ヲ送付シタルカ爲メ荷受人ニ之ヲ到達セシムルコト能ハサル以上ハ商法第三百三十七條ニ所謂運送品ノ滅失ニ該當スルヲ以テ之ニ因リ荷送人ノ被ムリタル損害ハ運送人ニ於テ賠償ヲ爲スヘキ責任アリトス  
(參照) 運送人ハ自己若クハ運送取扱人又ハ其使用人其他運送ノ爲メ使用シタル者カ運送品ノ受取引渡保管及ヒ運送ニ關シ注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非サレハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延着ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス  
(商法第三百三十七條)

第一審 新潟地方裁判所

第二審 東京控訴院

上告人 三條運送合資會社

右清算人 高野久吉

訴訟代理人 今村力三郎

損害金請求ノ件

被上告人 株式会社安進社  
右法定代理人 小出喜七郎  
訴訟代理人 山口 憲

右當事者間ノ損害金請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十六年十一月十六日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告代理人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ東京控訴院ニ差戻ス

理由

上告論旨第一點ハ原判決ノ認定ニ依レハ「本件ハ控訴會社(被上告人)ニ於テ貨物ヲ新潟市マテ運送スヘキ契約ヲナシナカラ之ニ違背シ函館市ニ運送シ荷爲替附ナルコトヲ知ラス無資力ナル荷受人ニ交付シタルカ爲メ生シタル損害ハ控訴人ノ負擔スヘキモノナリヤ否」ノ事實ヲ以テ本件ノ争點トナシタルモノニシテ被上告人カ新潟市ヘ運送スヘキ契約ニ違背シタルハ確定セル事實ナリ而シテ原判決カ被上告人ニ責任ナシトスルノ理由ハ貨物ニ荷爲替附ナル事實ハ特別ノ事情ナルヲ以テ之ヲ豫見セザリシ被上告人

ニ損害賠償ノ義務ナシト云フニ在レトモ元來當事者間ニ締結セル運送契約ニ指定セル荷受人ハ新潟市高助運送店ニシテ貨物カ指定ノ荷受人ヘ遂ニ到着セザリシハ争ナキ事實トス故ニ本件ノ場合ハ貨物ノ滅失若クハ延着トシテ商法第三百三十七條ノ規定ヲ適用スヘキモノニシテ民法第四百十六條ヲ適用スヘキモノニアラス然ルニ原判決ハ民法第四百十六條第二項ノ規定ニ從ヒ責任有無ヲ決シタルハ法則ノ適用ヲ誤リタル不法ノ判決ナリト云フニ在リ

依テ審按スルニ原院ノ確定シタル事實ニ據レハ上告人ト被上告會社トノ間ノ本件ノ運送契約タルヤ上告人ノ取扱ニ係ル訴外新潟縣南蒲原郡三條町深澤寅市ヨリ北海道函館區旭熊太郎宛ノ荷物ヲ被上告會社ニ於テ新潟市高助運送店マテ運送ス可キコトノ約定ニ止マレルニ拘ハラヌ被上告會社カ其約定ニ背キ擅ニ之レヲ函館旭熊太郎ニ送届ケタル爲メ荷受人寅市ニ於テ荷爲替金ヲ熊太郎ヨリ受取ルコトヲ得サルニ至リ其結果上告人ヨリ寅市ヘ之ヲ賠償シタルモノニシテ本件根本ノ荷受人寅市ト其荷物運送ノ取扱ヲ爲シタル上告人其他宛名人ナリシ旭熊太郎トノ關係ニ於テハ旭熊太郎ハ荷受人タリト雖モ上告人ト被上告人トノミノ關係ヨリ云ヘハ本件荷物ノ運送契約ハ三條ヨリ新潟市迄ノ運搬ニ制限セラレアルニ付キ此契約ノ荷受人ハ上告人ニシテ新潟市ノ高助運送店